

保育学科専門教育科目

保育者入門セミナーⅠ	97	乳児保育Ⅰ	129
保育者入門セミナーⅡ	98	乳児保育Ⅱ	130
保育原理	99	特別支援の保育・教育概論	131
教育原理Ⅰ	100	社会的養護Ⅱ	132
教育原理Ⅱ	101	幼児理解と教育相談	133
子ども家庭福祉	102	保育内容の理解と方法・健康	134
社会福祉	103	保育内容の理解と方法・人間関係	135
子育て支援	104	保育内容の理解と方法・環境	136
社会的養護Ⅰ	105	保育内容の理解と方法・表現Ⅰ	137
保育者論	106	保育内容の理解と方法・表現Ⅱ	138
保育・教育の心理学	107	保育内容の理解と方法・音楽Ⅰ	139
子ども家庭支援の心理学	108	保育内容の理解と方法・音楽Ⅱ	140
子どもの理解と援助	109	保育内容の理解と方法・造形Ⅰ	141
子どもの保健	110	保育内容の理解と方法・造形Ⅱ	142
子どもの健康と安全	111	保育内容の理解と方法・言葉	143
子どもの食と栄養	112	音楽基礎	144
子ども家庭支援論	113	保育ピアノⅠ	145
保育内容総論	114	保育ピアノⅡ	146
教育課程論・保育の計画と評価	115	保育ピアノⅢ	147
健康の指導法	116	保育ピアノⅣ	148
人間関係の指導法	117	子ども総合研究Ⅰ	149
環境の指導法	118	子ども総合研究Ⅱ	150
言葉の指導法	119	保育実習指導Ⅰ	151
表現の指導法（音楽Ⅰ）	120	保育実習Ⅰ	152
表現の指導法（音楽Ⅱ）	121	保育実習指導Ⅱ	153
表現の指導法（造形Ⅰ）	122	保育実習Ⅱ	154
表現の指導法（造形Ⅱ）	123	保育実習指導Ⅲ	155
表現の指導法（造形Ⅲ）	124	保育実習Ⅲ	156
表現の指導法（造形Ⅳ）	125	教育実習指導	157
保育方法論	126	教育実習	158
保育リトミックⅠ	127	保育・教職実践演習（幼稚園）	159
保育リトミックⅡ	128		

学修成果（8つの力）

本学は、学生が卒業までに獲得することが期待される知識、技術、態度などの能力を「学修成果」として、次のように表現しています。

(1)態度・志向性	① 主体的に学び続ける意欲	学び続ける意欲をもって主体的に考え行動し、周囲に感謝の気持ちを持ち、他者と協調して生活することができる。
	② 協調的な生活態度	
(2)汎用的能力	③ 教養	豊かな教養と感性・表現力を身につけ、高い倫理観や広い見識をもって物事に取り組むことができる。
	④ 豊かな感性と表現力	
(3)専門的知識・技能	⑤ 保育の計画力	保育現場での実践に生かすことができる専門的知識や技能を身につけている。
	⑥ 保育の指導力	
(4)総合的な学習経験と創造的思考力	⑦ 専門的なコミュニケーション能力	子どもと深くかかわり、保護者・地域・関係機関等と連携しながら、保育実践上の課題を創造的に解決することができる。
	⑧ 課題解決能力	

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

以下に示す目標とする学修成果（学士力）を身につけ、所定の在学期間を満たし、基準となる単位を修得した者に対して、卒業を認定し、「短期大学士」の学位を授与します。

【保育学科】のディプロマ・ポリシー

- (1) 学び続ける意欲をもって主体的に考え行動し、周囲に感謝の気持ちを持ち、他者と協調して生活することができる。
- (2) 豊かな教養と感性・表現力を身につけ、高い倫理観や広い見識をもって物事に取り組むことができる。
- (3) 保育現場での実践に生かすことができる専門的知識や技能を身につけている。
- (4) 子どもと深くかかわり、保護者・地域・関係機関等と連携しながら、保育実践上の課題を創造的に解決することができる。

科目名	保育者入門セミナー I (1単位)	講義	保育学科	1年 前期	担当者	弘中、森下、山本、上村、 山根、永田、難波、船場、 杉山(オムニバス)
ナンバリングコード	JC-S101-010					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	
教科目	選択必修科目(保育士)					
系 列	保育の本質・目的に関する科目					
授業のテーマ	自己の成長を確認する視点の獲得(態度・志向性)、保育現場体験等による専門職理解(専門的知識・技能)、グループワークによる協調性の育成、社会人としてのマナーの確認(汎用的能力)、山口芸術短期大学保育学科幼児教育コースの理解					
授業概要	ディプロマポリシーに示す、本学の目指す人材養成の基盤となる基本的な姿勢と基礎的な知識、技能を身につけ、本学での学びにスムーズに適応することを目指す。建学の精神「至誠」と教育の理念を軸とする本学の概要と目指すべき人物像を理解し、そこに向けての成長を確認する視点として、ポートフォリオおよび履修カルテの利用方法について理解する。また、今後の学びをより主体的に意欲をもって取り組むために、早い段階で保育現場や子どもの遊びを体験し、専門職の魅力や実際を実感するとともに、様々なグループワークを通して人間関係を構築し、協調性とコミュニケーション能力を養う。さらに、ICT 機器の操作やマナー講座を受講し、社会人としての必要なスキルと規範意識を高める。					
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (1)
						DP 番号
	1.保育職理解のための基本的知識を習得する。					(1) (2) (3) (4)
	2.自己の保育職を目指す気持ちを明確にする。					○ ○ ○ ○
	3.他者と協調して課題に取り組むことができる。					◎ ○ ○ ○
4.学生生活や学びへのモチベーションを高める。					◎ ○ ○ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 「建学の精神」と「教育の理念」、ポリシーと「学修成果」、ポートフォリオ・履修カルテの理解(目標 4) (担当:弘中、森下、山本、上村) 2年間の養成課程(履修・実習・就職・学生生活について)(目標 2,4) (担当:山本、上村、永田、船場) 幼稚園免許、保育士資格の理解、初年次保育現場体験(1)-①(幼稚園1日見学実習の心得)(目標 1,2,4) (担当:上村) 初年次保育現場体験(1)-②(幼稚園1日見学実習の事前指導・名札制作)(目標 1,2,4) (担当:上村、難波) 初年次保育現場体験(1)-③(幼稚園1日見学実習の振り返り、協議)(目標 1,2,3,4) (担当:上村) 保育者に関する基礎的事項の確認、入学前課題の確認(目標 1,4) (担当:山本) 遠隔授業についてのオリエンテーション(目標 2,4) (担当:山本) スタディスキル(1)(2)受講態度・課題管理・相談マナー・批判的思考・調査について(目標 4) (担当:森下、山本) スタディスキル(3)(4)(5)調査・ディスカッション・プレゼンテーション、レポートの書き方について(目標 3,4) (担当:山根、上村、船場) スタディスキル(6)パソコンに関するオリエンテーション・推奨 PC および BYOD 解説(目標 2,4) (担当:山本) マナー講座(目標 2,4) (担当:永田、山本) 日本語(敬語)の使い方について(目標 1,2,4) (担当:山本) 初年次保育現場体験(2)-①(夏休み課題実習の事前指導・電話かけについて)(目標 1,2,4) (担当:上村) 初年次保育現場体験(2)-②(夏休み課題実習の事前指導・依頼状の書き方)(目標 1,2,4) (担当:上村) 初年次保育現場体験(2)-③(夏休み課題実習の事前指導・諸注意)(目標 1,2,4) (担当:上村) 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク					
成績評価基準	<p>評価の方法:レポート 30%、授業課題への取り組み 35%、保育現場体験への取り組み 35%</p> <p>評価の基準:○レポート * 知識・理解、思考・判断を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育職・保育活動に関する必要な理解と知識を身につけている ・授業や現場体験を踏まえ、保育における活動の在り方を考察することができる ・自らを省察し自己評価することができる ・適切な文章表現で、レポートを書くことができる <p>○授業課題への取り組み * 思考・判断、技能・表現、関心・意欲、態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの課題に積極的である ・協動的にグループワークに取り組むことができる ・責任感を持って役割を果たすことができる <p>○保育現場体験への取り組み * 関心・意欲、態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真摯な態度で意欲を持って現場体験に臨むことができる 					
フィードバックの方法	レポートについては、優れた内容のものを全体に紹介し、共有する。					
時間外の学習について	<p>予習:手引き等の資料に事前に目を通しておく。(各回 45 分程度)</p> <p>復習:授業内容や各種体験を振り返ってまとめ、考察を深める。(各回 45 分程度)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト:『実習の手引き』、『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p> <p>参考書:『学生ハンドブック』</p> <p>参考資料:適宜配布</p>					
担当者からのメッセージ等 実務経験について						

科目名	保育者入門セミナーⅡ (1単位)		講義	保育学科	1年 後期	担当者	弘中、森下、山本、上村、 山根、永田、難波、船場、 杉山(オムニバス)					
ナンバリングコード	JC-S102-010											
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭							
教 科 目	選択必修科目(保育士)											
系 列	保育の本質・目的に関する科目											
授 業 の テ ー マ	自己評価による課題の明確化(態度・志向性)、保育職の理解(専門的知識・技能)、グループワークによる協調性の育成(汎用的能力)											
授 業 概 要	ディプロマポリシーに示す、本学の目指す人材養成の基盤となる基本的な姿勢と基礎的な知識、技能を身につけ、本学での学びにスムーズに適応することを目指す。 ルーブリックと履修カルテを用いて前期履修状況を振り返り、現状の自己の課題を明確化する。また、植物栽培を体験することで、専門職への意欲を高めながら、豊かな感性を育む。研修旅行の準備を通じて、協調性を育みコミュニケーション力を高めるとともに、グループワークにおける役割に対する責任感を身につける。3日間の保育現場体験を通して、より具体的に保育現場へのイメージを獲得し、意欲を高める。											
達 成 目 標								科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (1)				
								DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.保育職理解のための専門的知識の基礎を習得する。								○	○		
	2.保育職を目指す気持ちを明確にして自己の課題を発見する。								◎			
	3.保育という仕事に対する理解を深め、主体的な学習態度を身につける。								◎	○		
	4.他者と協調して課題に取り組むことができる。								◎	○	○	
5.学生生活や学びへのモチベーションを高める。								◎				
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ											
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> ルーブリックと履修カルテの記入・授業内でのPC活用について(目標 2,3,5)(担当:弘中、森下、山本、上村) 初年次保育現場体験2-④(夏休み課題実習の振り返り)(目標 1,2,3,5)(担当:上村) 保育職研究①(就職について)(目標 2,3,5)(担当:永田) 保育職研究②(自己を知ろう)(目標 2,5)(担当:永田) 保育職研究③(就職に関する2年生からのアドバイス)(目標 2,3,5)(担当:永田) 子どもあそび体験①(紙人形劇)(目標 1,2,3,5)(担当:山本・森下・難波) 子どもあそび体験②(舞台発表観覧)(目標 1,2,3,5)(担当:山本・永田・森下) 植物栽培(チューリップの植え付け)(担当:山本・富田・野村) 研修旅行①(研修旅行の目的理解とグループ分け等)(目標 2,3,4,5)(担当:山本・上村・山根・永田・難波・船場・杉山) 研修旅行②(各役割の内容理解)(目標 2,3,4,5)(担当:山本・上村・山根・永田・難波・船場・杉山) 研修旅行③(グループでの計画立案)(目標 2,3,4,5)(担当:山本・上村・山根・永田・難波・船場・杉山) 研修旅行④(グループでの準備)(目標 2,3,4,5)(担当:山本・上村・山根・永田・難波・船場・杉山) 初年次保育現場体験(3)-①(幼稚園3日間見学実習:実習園の理解)(目標 1,2,3,4,5)(担当:上村) 初年次保育現場体験(3)-②(幼稚園3日間見学実習:課題理解と実習に関わる留意点)(目標 1,2,3,4,5)(担当:上村) 初年次保育現場体験(3)-③(幼稚園3日間見学実習:振り返り、協議)(目標 1,2,3,4,5)(担当:上村) 											
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク											
成 績 評 価 基 準	<p>評価の方法:提出物・レポート 40%、保育現場体験への取り組み 30%、授業への取り組み 30%</p> <p>評価の基準:○提出物・レポート *知識・理解及び思考・判断を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育職に関する必要な理解と知識を身につけている。 ・保育現場体験をもとに自己を省察し、自己の課題を明らかにすることができる。 <p>○保育現場体験への取り組み *関心・意欲・態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な態度で、現場体験の準備や学習に取り組むことができる。 ・保育者を目指す学生としてふさわしい言動を身につけている。 <p>○授業への取り組み *関心・意欲・態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的にグループ活動に参加できる。 ・他者と協調しながら授業の課題に挑むことができる。 											
フィードバックの方法	提出物やレポートについて、優れた内容の物については他の学生に紹介し、共有する。											
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習:グループワークにおける役割分担に関わる事前準備、現場体験に関する資料の確認(各回 45分程度)</p> <p>復習:授業や現場体験の振り返りをまとめ、考察を深める(各回 45分程度)</p>											
教 材 に か か わ る 情 報	<p>テキスト:『実習の手引き』、『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p> <p>参考書:</p> <p>参考資料:適宜配布</p>											
担当者からのメッセージ等 実務経験について												

科目名	保育原理 (2単位)	講義	保育学科	1年 後期	担当者	野村 不二子 (単独)
ナンバリングコード	JC-S103-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
教科目	必修科目(保育士)					
系列	保育の本質・目的に関する科目					
授業のテーマ	保育に関する基本、専門知識や技術を学び、理解し保育実践に活かせるようにする					
授業概要	保育と法令、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の目的・目標・内容・方法、保育の計画、保育の歴史、保育者の専門性、現代の保育の課題などを学び理解し、実践と結びつくようにする(専門的知識・能力)					
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)
						DP 番号
	1.保育の制度、保育の基本原則をととして保育の本質を理解する					○ ◎ ◎
	2.乳幼児期の発達と保育、保育所保育の特性について理解する					○ ◎
	3.保育の目的・目標・内容・方法などについて理解する					○ ◎
4.保育の計画及び評価について理解する					○ ◎ ◎	
5.保育の思想・歴史の変遷から子ども観、保育の基本について理解する。					◎ ○ ◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	1. 保育の基礎的概念 保育原理の概要 保育について (目標 1) 2. 保育の制度 子どもと保育に関する法令と制度 (目標 1) 3. 保育の基本理論 保育所について学ぶ(1) 保育所保育指針概要 (目標 1,2) 4. 保育の基本理論 保育所について学ぶ(2) 保育の内容 (目標 1,2) 5. 乳幼児の理解 乳児保育、3歳未満児、3歳以上児の保育 (目標 2) 6. 保育の基本理論 幼稚園について学ぶ (目標 1) 7. 保育の基本理論 幼保連携型認定こども園について学ぶ (目標 1) 8. 保育の基本理論 保育所保育の方法 (目標 1,3) 9. 保育の基本理論 保育の計画と評価 (目標 2,3,4) 10. 保育の実践 子ども理解に基づく保育(1) (目標 2,4) 11. 保育の実践 子ども理解に基づく保育(2) (目標 2,4) 12. 保育の実践 地域社会で行う子育ての支援 (目標 1,3) 13. 保育の実践 障害児を受け入れる保育 (目標 2,3) 14. 保育の歴史 日本と西欧の歴史・思想の変遷(目標 2,5) 15. まとめ 日本の保育の現状(目標 1,3,5)					
アクティブ・ラーニング	グループワーク					
成績評価基準	評価の方法:授業内小テスト(60%) 課題・指導案作成(25%) 授業への参加度、予習、復習の自主学習(15%) 評価の基準:○授業内小テスト:知識、理解の定着度を測定 ・各回の知識を扱った問題に回答できる ・応用レベルの問題に回答できる ○指導案作成・準備物製作:思考・判断・技能を測定 ・知識や理解したことを保育実践に応用できる ・必要な準備物を製作し、技法を身に付ける ○復習、予習の自主的学習を含む授業への参加度:関心・意欲・態度を測定 ・教科書を読む、積極的に発言、質問する					
フィードバックの方法	・小テスト返却時に解説を行い、理解につなげる ・指導案、課題はコメントを入れし、よい点は改善点を示し、理解につなげる					
時間外の学習について	予習:教科書を読み、理解する(各回90分程度) 復習:授業の振り返りとノートの整理(各回90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト:保育原理 子どもの保育の基本理論の理解 岡田耕一編者 萌文書林 参考書:保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド社) 参考資料等:保育所保育指針解説 厚生労働省編(フレーベル館)					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	教育原理 I (1単位)	講義	保育学科	1年 前期	担当者	山本 朗登 (単独)
ナンバリングコード	JC-S104-110					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)					
各科目に含めることが必要な事項	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想					
教科目	必修科目(保育士)					
系 列	保育の本質・目的に関する科目					
授業のテーマ	教育の本質に関する幅広い理解、教育に関わる時事的な知識、教師としての倫理観(専門的知識・技能)					
授業概要	教育の基礎的概念を学び、教育とは何か、どのような目的で行われ、どのような意義を有するのか、講義を通じて考察を行う。また教育の歴史や思想を学び、その中で形成された教育理念のいくつかを学習・分析するとともに、これまで教育や学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解し、今後の教育・保育のあり方や現代社会における課題について考察する素地を作る。					
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)
						DP 番号
						(1)
						(2)
					(3)	(4)
1.教育の基礎的概念を理解し、教育成立への諸要因と相互関係を理解する。						◎
2.教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、教育の変遷について理解する。					○	◎
3.教育思想の基礎的概念を習得し、実際の教育や学校との関わりを理解する。					○	◎
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	<p>1. 教育の基礎的概念① これまで受けてきた教育を基に、学校・家庭・地域や子ども・教員・保護者の相互関係を考える(目標 1)</p> <p>2. 教育の基礎的概念② 教育の意義・目的(教育理論と教育の目的の理解)(目標 1)</p> <p>3. 教育の基礎的概念③ 教育の本質と目標(教育とは何かを考える)(目標 1)</p> <p>4. 教育の思想① 児童観・家庭観と教育観の変遷(目標 2,3)</p> <p>5. 教育の思想② 主要な教育思想家と教育論(ペスタロッチ・フレーベル・倉橋惣三等)(目標 2,3)</p> <p>6. 教育の思想③ 主要な教育思想家と教育論(教育論を基に、学習と学校の関係および授業指導案を理解する)(目標 1,2,3)</p> <p>7. 教育の歴史① 学校を取り巻く環境・教育課題の歴史的経緯(近代教育制度の成立と教育課程を題材に)(目標 1,2)</p> <p>8. 教育の歴史② 学校を取り巻く環境・教育課題の歴史的経緯(虐待・学校へのクレーム等、今日的教育課題を基に、教育と家族・社会の関係を考察する)(目標 1,2)</p> <p>定期試験</p>					
アクティブ・ラーニング	グループワーク					
成績評価基準	<p>評価の方法:定期試験 70%、授業内レポート 20%、授業ファイル 10%</p> <p>評価の基準:○定期試験 *知識・理解の定着度および思考力・判断力を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な知識を選択でき、説明することができる。 ・授業をもとに考察し、明確な根拠に基づいて自説を述べるることができる。 <p>○授業内レポート *思考力・判断力を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明確な根拠に基づいて自分の考えを述べるることができる。 <p>○授業ファイル *知識・理解の定着度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な知識を整理しまとめることができる。 					
フィードバックの方法	授業内レポートを回収した次回の授業で、コメント内容を紹介し、それをもとに考察を深める。					
時間外の学習について	<p>予習:教育・保育関連のニュース等に関心を払い、次回授業のテーマに沿って情報収集を行う(各回 90 分程度)</p> <p>復習:授業内容を復習するとともに、関連ニュースについて考察を行う(各回 90 分程度)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト:なし。代わって資料を適宜配布する。</p> <p>参考書:『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p> <p>参考資料:授業中に適宜配布する。</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	教育原理Ⅱ (1単位)	講義	保育学科	1年 前期	担当者	山本 朗登 (単独)
ナンバリングコード	JC-S105-110					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)					
各科目に含めることが必要な事項	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)					
教科目	必修科目(保育士)					
系 列	保育の本質・目的に関する科目					
授業のテーマ	教育の本質に関する幅広い理解、教育に関わる時事的な知識、教師としての倫理観(専門的知識・技能)					
授業概要	現代の学校教育に関する社会的・制度的な事項について、近年の社会状況を踏まえて学校教育のあり方・教育政策を理解するとともに、公教育制度や教育行政の理解など基礎的知識を身につける。 また、学校と地域の連携や学校安全などの現代社会における教育の課題についても基礎的知識を身につける。					
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)
						DP 番号
	1.教育と社会の関係性と教育政策、公教育制度について理解する。					(1) (2) (3) (4)
	2.学校と地域との連携や地域との協働の仕方について理解する。					○ ◎
3.学校内外での事件・事故・災害について学び、危機管理・事故対応・学校安全の必要性について理解する。					○ ◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	1. 教育と社会① 子どもの生活の変化や学校をめぐる社会状況の変遷(目標 1) 2. 教育と社会② 社会状況の変化に対応する昨今の教育政策、生涯学習社会と教育(目標 1) 3. 教育の制度・行政① 公教育制度の基礎と教育法規(目標 1) 4. 教育の制度・行政② 教育制度とそれを支持する教育行政システム(目標 1) 5. 学校と地域の連携① 学校の閉鎖性批判と学校教育活動のあり方と意義・方法(目標 1,2) 6. 学校と地域の連携② 事例から見る地域との連携、開かれた学校とは何か①(目標 1,2) 7. 教育と学校安全① 学校内外の事件事故と危機管理、開かれた学校とは何か②(目標 1,3) 8. 教育と学校安全② 教育現場の災害対応とその課題、阪神淡路大震災・東日本大震災を事例に(目標 3) 定期試験					
アクティブ・ラーニング	グループワーク					
成績評価基準	評価の方法:定期試験 70%、授業内レポート 20%、授業ファイル 10% 評価の基準:○定期試験 * 知識・理解の定着度および思考力・判断力を測定 ・正確な知識を選択でき、説明することができる。 ・授業をもとに考察し、明確な根拠に基づいて自説を述べるができる。 ○授業内レポート * 思考力・判断力を測定 ・明確な根拠に基づいて自分の考えを述べるができる。 ○授業ファイル * 知識・理解の定着度 ・正確な知識を整理しまとめることができる。					
フィードバックの方法	授業内レポートを回収した次回の授業で、コメント内容を紹介し、それをもとに考察を深める。					
時間外の学習について	予習: 教育・保育関連のニュース等に関心を払い、次回授業のテーマに沿って情報収集を行う(各回 90 分程度) 復習: 授業内容を復習するとともに、関連ニュースについて考察を行う(各回 90 分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト:特になし。代わって資料を適宜配布する。 参考書:『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 参考資料:授業中に適宜配布する。					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	子ども家庭福祉 (2単位)		講義	保育学科	1年 後期	担当者	山根 望 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S106-010						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭		
教科目	必修科目(保育士)						
系列	保育の本質・目的に関する科目						
授業のテーマ	児童福祉 子どもの人権 法律と制度 現代的課題 (専門的知識・技能、汎用的能力)						
授業概要	子ども家庭福祉の理念や歴史の変遷を学び、現代社会における保育者のあり方を考える。また、子どもと家庭、地域をめぐる現状と子ども家庭福祉制度・実践体系について理解し、子どもとその家庭への社会的支援に関する知識を深める。						
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)	
						DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的編さんについて理解する。					○	
	2.子どもの人権擁護について理解する。						◎
	3.子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する						○ ◎
	4.子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。					○	
5.子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。					○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	1. 子ども家庭福祉の理念、概念及び現代社会の課題(目標 1,2) 2. 国内外における子ども家庭福祉の歴史の変遷 (目標 1,2) 3. 子どもの人権擁護と児童の権利に関する条約の理解 (目標 1,2,3) 4. 子ども家庭福祉の制度と法体系・児童福祉関連施設(目標 1,2) 5. 子ども家庭福祉の現状と課題 (1)少子化と地域子育て支援(目標 2,3,4,5) 6. 子ども家庭福祉の現状と課題 (2)母子保健・児童の健全育成(目標 2,3,4,5) 7. 子ども家庭福祉の現状と課題 (3)多様な保育ニーズ(目標 2,3,4,5) 8. 子ども家庭福祉の現状と課題 (4)児童虐待の概要 (目標 2,3,4,5) 9. 子ども家庭福祉の現状と課題 (5)児童虐待の影響(目標 2,3,4,5) 10. 子ども家庭福祉の現状と課題 (6)児童虐待の防止と対応 (目標 2,3,4,5) 11. 子ども家庭福祉の現状と課題 (7)ドメスティック・バイオレンスの理解と防止(目標 2,3,4,5) 12. 子ども家庭福祉の現状と課題 (8)社会的養護 (目標 2,3,4,5) 13. 子ども家庭福祉の現状と課題 (9)障がいのある子どもへの対応 (目標 2,3,4,5) 14. 子ども家庭福祉の現状と課題 (10)情緒障がい・非行少年への対応 (目標 2,3,4,5) 15. 多職種との連携(目標 2,3,4) 定期試験						
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法:評価の方法: 授業態度(10%)、活動への取り組み(20%)、試験(70%) 評価の基準:○授業態度 ※関心・意欲の測定 ・ワークシートへの記述内容が適切である。・積極的な発言がある。 ○活動への取り組み ※思考・判断及び技能・表現の測定 ・子ども家庭福祉に関する事柄について調べ、深く考察できる。 ・グループ活動に積極的に参加している。 ・他者にわかりやすい発表ができる。 ○試験 ※知識・理解の定着を測定 ・子ども家庭福祉に関する専門的知識を習得している。 ・子ども家庭福祉に関する事柄について説明できる。						
フィードバックの方法	調査については発表(提出)後に評価を伝える。定期試験については、実施後に解答および模範記述を希望者は閲覧できる。						
時間外の学習について	予習:教科書、ニュースや新聞に目を通し、子ども家庭福祉の現状を把握する。(各回90分程度) 復習:授業プリントを見直し、授業内容に該当するテキストの内容をよく読んでおく。(各回90分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト:櫻井奈津子『保育と子ども家庭福祉』2019年 みらい社 参考書: 参考資料:						
担当者からのメッセージ等実務経験について	公認心理師・臨床心理士経験:実務経験をもとに、子どもの発達や特性の理解、子どもの精神保健および心理的支援、及び保護者に対する支援について話をします。						

科目名	社会福祉 (2単位)		講義	保育学科	1年 前期	担当者	佐藤 真澄 (単独)
ナンバリングコード	JC-S107-010						
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭		
教科目	必修科目(保育士)						
系列	保育の本質・目的に関する科目						
授業のテーマ	社会福祉に関する専門的知識、相談援助の専門的スキルとコミュニケーション力(専門的知識・技能、汎用的能力)						
授業概要	社会福祉の理念、社会福祉における子ども家庭支援の考え方や方法、そのために必要な相談援助の技術について学ぶ。授業は講義が中心となるが、相談援助を扱う回などでは、授業の一部にロールプレイやグループワークなどの演習を取り入れる。						
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)	
						DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。						○ ◎
	2.社会福祉の理念、意義、制度や実施体系等について理解する。						○ ◎
	3.社会福祉における相談援助について理解する。						◎ ○
	4.社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。						◎ ○
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	1. 社会福祉の理念と概念、歴史的変遷(目標 1,2) 2. 子ども家庭支援と社会福祉(目標 1) 3. 社会福祉の制度と法体系(目標 2) 4. 社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設(目標 2) 5. 社会福祉の専門職(目標 2) 6. 社会保障および関連制度の概要(目標 3) 7. 【小テスト】/相談援助の理論(目標 3) 8. 相談援助の意義と機能(目標 3) 9. 相談援助の対象と過程(目標 3) 10. 相談援助の方法と技術(目標 3) 11. 【小テスト】/社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み(目標 4) 12. 少子高齢化社会における子育て支援(目標 1,2) 13. 共生社会の実現と障害者施策(目標 2,5) 14. 在宅福祉地域福祉の推進(目標 2,5) 15. 【小テスト】/総括(目標 1,2,4,5)						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ						
成績評価基準	評価の方法:小テスト3回(80%)、授業への参加度(20%) 評価の基準:○小テスト * 知識・理解の定着度を測定 ・教科書および配布資料に載っている知識を扱った問題に解答できる。 ○授業への参加度 * 思考・判断、関心・意欲を測定 ・演習課題やレスポンスシートの記述内容が適切である。 ・授業中のディスカッションへ積極的に参加できる。						
フィードバックの方法	講義の回では、授業終了時にレスポンスシートに記入してもらい、次回の授業時にコメントする。 演習の回では、演習課題を提出してもらい、次回の授業時にコメントする。						
時間外の学習について	予習:テキストの当該ページを一読しておく。(各回 90 分程度) 復習:ノートを作成し、授業内容を整理しておく。小テストでは、自筆のノートのみ持ち込み可。(各回 90 分程度) 日頃から社会福祉の制度や社会問題に関するニュース(テレビ・新聞等)に関心をもち、情報収集しておく。						
教材にかかわる情報	テキスト:『新・基本保育シリーズ第4巻 社会福祉』中央法規出版 参考書: 参考資料:必要に応じて都度配布する						
担当者からのメッセージ等実務経験について							

科目名	子育て支援 (1単位)	演習	保育学科	2年 前期	担当者	林 和子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S231-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
教科目	必修科目(保育士)					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	保育士の行う子育て支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。 (専門的知識・技能、汎用的能力)					
授業概要	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。また、保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。					
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.子育て支援の必要性について理解する。			○	○	
	2.保育士の行う子育て支援の特性について理解する。				◎	
	3.保育士の行う子育て支援の展開について理解する。				◎	
4.保育士の行う子育て支援の実際(内容・方法)について理解し、技術を身に付ける。				◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	1. 子どもの保育とともに行う保護者の支援(目標 1,2) 2. 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成(目標 1,2) 3. 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解(目標 2,3) 4. 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供(目標 2,3,4) 5. 子ども及び保護者の状況・状態の把握(目標 2,3) 6. 支援の計画と環境の構成(グループ討議による、模擬支援計画の作成)(目標 3,4) 7. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス(目標 3,4) 8. 職員間の連携・協働(保育ドキュメントの活用方法)(目標 3,4) 9. 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働(目標 1,2,3) 10. 保育所等における支援の実際(目標 2,3,4) 11. 地域の子育て家庭に対する支援の実際(目標 2,3,4) 12. 障害のある子ども及びその家庭に対する支援の実際(目標 3,4) 13. 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援の実際(目標 3,4) 14. 子ども虐待の予防と対応(目標 3,4) 15. 要保護児童等の家庭に対する支援、多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解(目標 1,2,3) 定期試験					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション					
成績評価基準	評価の方法: 授業ノート(60%)、試験(40%) 評価の基準: ○授業ノート * 知識・理解、関心・意欲を測定 ・教授したことや自ら学んだこと、グループワークで学んだことを、記録できている ・授業テーマに対して、関心を持って取り組むことができている ○試験 * 知識・理解、思考・判断を測定 ・支援に必要な法令や情報を精査する方法を理解している ・情報を整理し、的確な判断のもと支援計画が作成できる					
フィードバックの方法	グループワーク、実践発表をもとに意見を交わしながら、振り返りを行う。					
時間外の学習について	予習: 毎回の授業テーマに沿った子育てに関する情報(記事)を、新聞やインターネットから収集し、ノートに整理する。(30分程度) 復習: 講義を通して学んだことをノートに整理し、知識の定着を図る。(30分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 特になし 参考資料: 特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	やまぐち子育て福祉総合センターに勤務: 子ども・子育て相談対応、利用者支援の実務経験をもとに、子育て支援、子ども家庭支援について話します。					

科目名	社会的養護 I (2単位)		講義	保育学科	2年 前期	担当者	川村 宏司 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S208-010						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭		
教科目	必修科目(保育士)						
系列	保育の本質・目的に関する科目						
授業のテーマ	社会的養護の理念と概念、子どもの人権擁護、保育士等の倫理と責務、社会的養護の制度・法体系・仕組み・支援のあり方、被措置児童等の虐待防止の現状と課題について理解する(専門的知識・技能、汎用的能力、態度・志向性・創造的思考力)						
授業概要	子どもを取り巻く社会的状況を理解し、子どもの育ちと家庭を支援する専門職として、子どもの権利を保障する支援のあり方を理解する。社会的養護の理念、制度、方法(実践)など基本的な内容について理解する。また、社会的養護の歴史の変換、先駆者の業績を学ぶことで、現在の社会的養護の課題と今後のあり方について考察する。						
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)	
						DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。					○	◎
	2.児童の権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。					◎	◎
	3.社会的養護の制度や実施体系等について理解する。					○	◎
	4.社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。					○	◎
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
	1. 現代社会と社会的養護のあり方について理解し、社会的養護の果たす役割について理解する。(目標 1.2.3) 2. こどもの権利と社会的養護についての基本原則を学ぶ。(目標 2.3.5) 3. 施設養護・家庭養護、家庭的養護について学ぶ。(目標 2.3) 4. 社会的養護に関わる機関について学ぶ。(目標 2.3) 5. 措置制度の仕組み・対象・形態について理解する。(目標 2.3.4) 6. 保育士としての資質と倫理について学ぶ。(目標 2) 7. 被措置児童の虐待の現状と虐待防止の取組について理解し、発生要因と課題について考える。(目標 2.3.4.5) 8. 利用・契約制度の仕組み・対象・形態について理解する。(目標 3.4) 9. 日本における社会的養護の歴史の変遷と子ども観の変遷を学ぶ。(目標 1.2) 10. 欧米における社会的養護の歴史の変遷と子ども観の変遷を学ぶ。(目標 1.2) 11. 社会的養護に関わる専門職とその業務内容、求められている専門性について学ぶ。(目標 2.4) 12. 児童養護施設での実際の支援を学び、施設養護のプロセスごとに行われる支援の要点を理解する。(目標 3.4) 13. ソーシャルワークの基本を理解し、施設養護でのソーシャルワークの展開について理解する。(目標 2.4) 14. 里親の種類・制度・里親に対する支援制度について学ぶ。(目標 1.2.3.5) 15. 施設の運営管理・費用の仕組み等について学ぶ。(目標 2.3.4)						
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ロールプレイ						
成績評価基準	評価の方法: 授業態度(30%)・小テスト(20%)・定期試験(40%) 評価の基準: ○授業態度 関心・意欲の測定 * 態度の測定 ・積極的に発言する。 ・グループワーク、ロールプレイ等に積極的に参加している。 ○小テスト 定期試験 * 知識・理解の定着度を測定 * 思考・判断を測定 ・テキストに載っている知識を扱った問題に解答できる。 ・社会的養護の理念・概要・制度について理解している。 ・子どもの権利擁護の視点をもって自説を述べる事ができる。						
フィードバックの方法	講義後のコメントシートに対して、次回の授業冒頭に講評等を行う。						
時間外の学習について	予習: 次回の授業のテーマについて予め学習しておく。各回 90 分程度 復習: テキスト・配布資料を見て、授業内容を確認しておく。各回 90 分程度						
教材にかかわる情報	テキスト: 『社会的養護 I』原田句哉・杉山宗尚編著、萌文書林 参考書: 特になし 参考資料等: 適宜配布						
担当者からのメッセージ等実務経験について	児童養護施設実務経験: 社会的養護の理念、制度、実践内容について、子どもや家庭への支援を通してお話しします。社会的養護に関する新聞記事やテレビ等の報道に関心を持ち、子どもの権利擁護の視点で考察してください。						

科目名	保育者論 (2単位)		講義	保育学科	1年 前期	担当者	弘中 順一 (実務経験) (単独)				
ナンバリングコード	JC-S109-110										
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修					
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)										
各科目に含めることが必要な事項	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)										
教科目	必修科目(保育士)										
系 列	保育の本質・目的に関する科目										
授業のテーマ	保育者としての専門知識・役割・倫理観・地域との連携(協働)を学ぶ(専門的知識・技能、汎用的能力、態度・志向性)										
授業概要	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 保育現場の実情、実践、事例などを踏まえ、保育者の役割、倫理、資格、専門性について理解を深める。また、保護者、地域の専門機関との連携など保育者の協働について学び、実践力や応用力を持った保育者としての専門的知識・技術を身につける。										
達成目標							科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
							DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 幼児教育や保育の社会的意義や制度的な位置づけ、今日の幼児教育や保育に関する社会的動向を理解する								◎		
	2. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の専門性や職務内容について理解する。							◎	◎	○	
	3. 保育者に求められる役割や資質能力、保育者に課せられる服務上・身分上の義務・倫理について理解する。								○	◎	
4. 保育現場が担う役割が拡大・多様化する中で、保育者間や内外の専門家等と協働(連携・分担)の必要性について理解する。						◎		○	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ										
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割・倫理の重要性を理解する (目標 2) 2. 幼稚園教諭免許・保育士資格・保育教諭資格について認識する (目標 2) 3. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の位置づけについて学ぶ (目標 1) 4. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の責務について、事例を通して学ぶ(目標 1,2)小テスト① 5. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定子ども園教育・保育要領を踏まえ、養護と教育についての学びを深める (目標 2,3) 6. 保育者の専門性・資質・能力に関わる知識・技術を高める (目標 2,3) 7. 子ども理解を深める(発達・行動・遊び) (目標 1) 8. 保育指導案の立案、模擬保育を通して保育の基本的な内容を理解する (目標 2) 9. 保育の省察(実践・実習を通して) (目標 3) 10. 子育て支援について様々な事例を通して理解を深める (目標 3) 11. 幼稚園・保育所(園)及び専門機関との連携について学ぶ (目標 4) 12. 保育者及び地域社会との協働について理解する (目標 4) 13. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭と家庭的保育者等との連携についての必要性を学ぶ チーム学校運営への対応(目標 2,3) 14. 保育者の専門性について理解する (目標 2) 小テスト② 15. 保育者としての成長について考える (目標 2,3) 										
アクティブ・ラーニング	グループワーク										
成績評価基準	<p>評価の方法: 保育者についての知識・理解度・思考・判断・表現力 及び授業に対する意欲・関心・態度などを総合的(まとめレポート 20%・小テスト 30%・授業内レポート 20%・提出課題 20%・授業への取り組み 10%)に評価する。</p> <p>評価の基準: ○まとめレポート * 知識・理解、思考・判断、表現力の測定 ・授業を通して学んだ事項を基に、保育者として自説を述べるができる</p> <p>○小テスト * 知識・理解の測定 ・授業内容にかかわる問題に回答できる</p> <p>○授業内レポート * 知識・理解、思考・判断、表現力の測定 ・各回の授業内容を理解し、課題や質問を見つけることができる</p> <p>○提出課題 * 思考・判断の測定 ・課題に対して自分なりに理解し、調べてまとめることができる ・保育者としての観察力、考察力をもって取り組むことができる</p> <p>○授業への取り組み * 関心・意欲・態度を測定 ・真摯な態度で、保育者に関する学びを積極的に行うことができる</p>										
フィードバックの方法	レポートにコメントを返す。レポート課題を回収し、次回の授業で説明する。授業アンケート結果やコメントを参考にして授業改善に取り組む。										
時間外の学習について	<p>予習: 各回の授業計画を把握しておく。各回 90 分程度</p> <p>復習: プリント、資料等をファイルに綴じて、授業で習ったことをまとめておく。各回 90 分程度</p>										
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 「指導と評価に生かす記録」文部科学省チャイルド本社、幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p> <p>参考書:</p> <p>参考資料: 毎回資料及びレジュメを配布 情報機器教材 保育実践事例</p>										
担当者からのメッセージ等実務経験について	<p>テキスト・ファイルを毎回、持参すること</p> <p>幼稚園長経験、保育現場での造形表現の実務経験をもとに、幼児の保育、子育て支援及び実習について話をします。</p>										

科目名	保育・教育の心理学 (2単位)		講義	保育学科	1年 前期	担当者	上村 有平 (単独)
ナンバリングコード	JC-S121-110						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修	
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)						
各科目に含めることが必要な事項	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程						
教科科目	必修科目(保育士)						
系 列	保育の対象の理解に関する科目						
授業のテーマ	発達と学習の過程の理解、子ども理解に基づく援助(専門的知識・技能)						
授業概要	子どもの心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、養護と教育の一体性や発達に応じた援助の基礎となる考え方を理解する。また、保育・教育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。						
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)	
						DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.子どもの心身の発達の過程・特徴を理解する。(子どもの心身の発達に関連する要因、発達の代表的理論を踏まえ、発達の概念及び保育・教育における発達理解の意義を理解する/乳幼児期から青年期にかけての認知・言語・社会性・情動・パーソナリティの発達について理解する)						◎
	2.子どもの学習に関する基礎的な知識を身につけ、養護と教育の一体性や発達に応じた援助について基礎的な考え方を理解する。(学習に関する代表的理論の基礎を理解する/子どもの主体的な学習を支える動機づけ・集団づくり・評価の在り方について、発達と関連付けて理解する/子どもの発達を踏まえ、主体的な学習を支える保育の基礎となる考え方を理解する)						◎ ○
3.保育・教育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。						◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	1. 保育・教育と心理学について(目標 1,2,3) 2. 子どもの学びの過程と特性について(目標 2) 3. 子どもの学びを支える保育・教育について(目標 2) 4. 子どもの学びに関わる理論について(目標 2,3) 5. 子どもの発達を理解することの意義について(目標 1,2,3) 6. 社会性の発達について(目標 1,3) 7. クラス集団の心理について(目標 2,3) 8. パーソナリティの発達について(目標 1) 9. 認知と言語の発達について(目標 1) 10. 評価について(目標 2) 11. 社会情動的発達について(目標 1) 12. 子どもの発達と環境について(目標 1,3) 13. 発達理論と子ども観・保育観について(目標 1,3) 14. 記憶のメカニズムについて(目標 2) 15. まとめ(目標 1,2,3) 定期試験						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法:定期試験 50% レポート 50% 評価の基準:○筆記試験 * 知識・理解の定着度および、思考・判断を測定 ・子どもの心身の発達及び学習の過程、発達に応じた援助、保育・教育における人との相互的関わりや体験、環境の意義に関する基礎レベルの問題に回答できるか。 ○レポート * 思考・判断、関心・意欲、態度を測定 ・子どもの心身の発達及び学習の過程、発達に応じた援助、保育・教育における人との相互的関わりや体験、環境の意義に関する基礎的事項を理解し、授業内容をふまえながら自分の考えとともに説明できるか。						
フィードバックの方法	レポート課題は、優れている事例を挙げて、その理由を説明する。						
時間外の学習について	予習:次回の授業テーマについて情報を収集する。各回 90 分程度。 復習:授業プリントを整理し、授業をふり返る。疑問点があれば調べる。各回 90 分程度。						
教材にかかわる情報	テキスト:指定しない 参考書:松本峰雄(監修)「保育の心理学 演習ブック[第2版]」ミネルヴァ書房 青木紀久代(編)「保育の心理学」みらい 「平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」チャイルド本社 参考資料:						
担当者からのメッセージ等実務経験について	配付プリントをファイルにまとめ、毎回持参すること。						

科目名	子ども家庭支援の心理学 (2単位)		講義	保育学科	1年 前期	担当者	山根 望 (実務経験) (単独)		
ナンバリングコード	JC-S123-010								
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭				
教科目	必修科目(保育士)								
系列	保育の対象の理解に関する科目								
授業のテーマ	生涯発達 子育て家庭 子どもの精神保健(態度・志向性、専門的知識、総合的な学習経験)								
授業概要	人間の生涯にわたる発達を概観し、乳幼児期の心身の発達や発達を促す要因について理解する。また、現代日本社会においては様々なライフスタイルが可能となり、様々な家庭環境の中で子どもは生活している。伝統的の在り様と現代的の在り様を新聞などで学びながら、子どもを援助するために必要な基礎的知識を習得する。								
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)			
						DP番号	(1) (2) (3) (4)		
	1.生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。							◎	
	2.家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の理解する。							◎	
	3.子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。					○	○		
	4.子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。						◎		◎
5.子どもの精神保健とその課題について理解する。							◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ								
授業計画	1. 生涯発達について(目標 1.2) 2. 乳幼児期の発達① 胎児期から3歳未満までの発達(目標 1.2) 3. 乳幼児期の発達② 初期経験と愛着形成(目標 1.2) 4. 幼児期・学童期前期の発達:満3歳から9歳までの発達(目標 1.2) 5. 学童期後期から青年期までの発達(目標 1.2) 6. 成人期・老年期までの発達(目標 1.2) 7. 家族・家庭の意義と機能(目標 2.3) 8. 子ども家庭支援についての理解:アセスメントの重要性(目標 1.5) 9. 子育て家庭に関する現状と課題① 子育てを取り巻く社会的状況(目標 2.3.4) 10. 子育て家庭に関する現状と課題② ライフコースと仕事・子育て(目標 2.3.4) 11. 子育て家庭に関する現状と課題③ 多様な家庭とその理解(目標 2.3.4) 12. 子育て家庭に関する現状と課題④ 特別な配慮を要する家庭(目標 3.4) 13. 子育て家庭に関する現状と課題⑤ 発達支援の必要な子どものいる家庭(目標 3.4.5) 14. 子どもの精神保健とその課題① 子どもの心の健康に関わる問題(目標 3.4.5) 15. 子どもの精神保健とその課題② 災害と子どもの精神保健(目標 5) 定期試験								
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク								
成績評価基準	評価の方法:授業態度(10%)、活動への取り組み(20%)、試験(70%) 評価の基準:○授業態度 ※関心・意欲の測定 ・ワークシートへの記述内容が適切である。・積極的な発言がある。 ○活動への取り組み ※思考・判断及び技能・表現の測定 ・子ども家庭支援に関する事柄について調べ、深く考察できる。 ・グループ活動に積極的に参加している。 ・他者に自分の意見をわかりやすく述べる事が出来る。 ○試験 ※知識・理解の定着を測定 ・子ども家庭支援に関する専門的知識を習得している。 ・子ども家庭支援に関する事柄について説明できる。								
フィードバックの方法	発表後にプレゼンテーションの評価を伝える。定期試験については、実施後に解答および模範記述を希望者は閲覧できる。								
時間外の学習について	予習:ニュースや新聞に目を通し、子どもとその家庭の現状を把握する。(各回90分程度) 復習:授業内容に該当するテキストの内容をよく読んでおく。(各回90分程度)								
教材にかかわる情報	テキスト:『子ども家庭支援の心理学』青木紀久代 編著 みらい社 2019 参考書: 参考資料:								
担当者からのメッセージ等実務経験について	公認心理師・臨床心理士経験:実務経験をもとに、子どもの発達や特性の理解、子どもの精神保健および心理的支援、及び保護者に対する支援について話します。								

科 目 名	子どもの理解と援助 (1単位)		演習	保育学科	2年 後期	担 当 者	上村 有平 (単独)
ナンバリングコード	JC-S222-010						
卒 業 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭		
教 科 目	必修科目(保育士)						
系 列	保育の対象の理解に関する科目						
授 業 の テー マ	子どもの発達や学びに関する理解、子ども理解の方法、子ども理解に基づく援助(専門的知識・技能、創造的思考力)						
授 業 概 要	子どもの実態に応じた発達や学びを把握することの意義、及び子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 また、子どもを理解するための具体的な方法、及び子どもの理解に基づく援助や態度の基本について理解する。						
達 成 目 標							科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)
							DP 番号
							(1)
							(2)
							(3)
						(4)	
1.保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。							◎
2.子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。							◎
3.子どもを理解するための具体的な方法を理解する。							◎ ○
4.子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。							◎ ○
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
授 業 計 画	1. 保育における子どもの理解の意義、子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開(目標 1) 2. 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり(目標 1) 3. 子どもの生活や遊び(目標 2) 4. 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達(目標 2) 5. 子ども相互の関わりと関係づくり(目標 2) 6. 集団における経験と育ち(目標 2) 7. 葛藤やつまずき(目標 2) 8. 保育の環境の理解と構成(目標 2) 9. 環境の変化や移行(目標 2) 10. 子ども理解のための観察・記録と省察・評価(目標 3) 11. 職員間の対話と保護者との情報の共有(目標 3) 12. 発達の課題に応じた援助と関わり(目標 4) 13. 特別な配慮を要する子どもの理解と援助(目標 4) 14. 発達の連続性と就学への支援(目標 4) 15. まとめ(目標 1,2,3,4)						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション						
成 績 評 価 基 準	評価の方法:小テスト40% レポート40% 授業への取り組み20% 評価の基準:○筆記試験 *知識・理解の定着度および、思考・判断を測定 ・子どもの発達や学びに関する事項、子ども理解の方法、子ども理解に基づく援助のあり方に関する基礎レベルの問題に回答できる。 ○レポート *思考・判断、関心・意欲、態度を測定 ・子どもの発達や学びに関する事項、子ども理解の方法、子ども理解に基づく援助のあり方を理解し、授業内容をふまえながら自分の考えとともに説明できる。 ○授業への取り組み *関心・意欲、態度を測定 ・真摯な態度で学習を積極的に行うことができる。 ・グループディスカッションに積極的に参加し、自分の意見を表明することができる。						
フィードバックの方法	レポート課題は、優れている事例を挙げて、その理由を説明する。						
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習:次回の授業テーマについて情報を収集する。各回15分程度。 復習:授業プリントを整理し、授業をふり返る。疑問点があれば調べる。各回30分程度。						
教 材 に か か わ る 情 報	テキスト:プリントを配布 参 考 書:松本峰雄(監修)「子どもの理解と援助 演習ブック」ミネルヴァ書房 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」チャイルド本社 参考資料:						
担当者からのメッセージ等 実務経験について	配付プリントをファイルにまとめ、毎回持参すること。						

科目名	子どもの保健 (2単位)	講義	保育学科	1年 後期	担当者	松尾 清巧 (単独)				
ナンバリングコード	JC-S124-010									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭					
教科目	必修科目(保育士)									
系列	保育の対象の理解に関する科目									
授業のテーマ	健康保健、子どもの成長発達、子どもの病気や予防についての知識を習得する(専門的知識・技能)									
授業概要	保育者として健康増進・疾病や事故予防・安全教育の理解を深め、保育現場で実践できるようにする。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.子どもの健康増進を図る母子保健行政の現状と意義を理解できる。					◎				
	2.生命の成り立ち、子どもの身体発育や生理運動・精神機能の発達を理解できる。						◎			
	3.子どもを取り巻く環境を理解する、子どもの健康増進と疾病対策を理解する。							◎		
	4.保育や家庭での子どもの事故について理解し、事故防止や安全管理を理解する。							◎		
	5.子どもの病気の成り立ちを理解し、その予防対策を理解できる。							◎		
6.受動喫煙の害を学び、子どもへの防煙対策を習得する。									◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ									
授業計画	1.子どもの健康と保育母子保健を考える(目標1) 2.生物としてのヒトの成り立ちと機能(目標2) 3.子どもの身体発育と保健(目標2) 4.子どもの生理機能の発達と保健(目標2) 5.子どもの運動精神機能と保健(目標2) 6.子どもを取り巻く自然と生活環境(目標3) 7.健康と病気、異常に、子どもの特性について学ぶ(目標3) 8.子どもの事故の特徴(目標4) 9.事故防止と安全対策・安全教育、災害時への備え危機管理について学ぶ(目標4) 10.子どもの病気の成り立ちとその特徴について学ぶ(目標5) 11.学校感染症と出席(登園)停止基準について(目標5) 12.予防接種や伝染性疾患の感染拡大防止について学ぶ(目標5) 13.アレルギー疾患とアレルギーを持つ児への対応(目標5) 14.生活管理や発達障害児への対応を学ぶ(目標5) 15.受動喫煙の子どもへの影響と防煙対策(目標6) 定期試験									
アクティブ・ラーニング	少人数グループでディスカッション(感染拡大期間でなければ)									
成績評価基準	評価の方法:試験 80% 授業参加・学習態度 20% 評価の基準:○試験 * 知識・理解の測定 ・授業内容を理解し、基礎的・応用的な問題に回答できる ○学習態度 * 関心・意欲・態度の測定 ・真摯な態度で授業に臨む									
フィードバックの方法	小テストを授業終了後に毎回行う(解答例を示す)									
時間外の学習について	予習:各回の授業計画を把握する(各回 90 分程度) 復習:授業を振り返り内容理解を確実にする(各回 90 分程度)									
教材にかかわる情報	テキスト:「子どもの保健テキスト」、編集:小林美由紀、診断と治療社 参考書: 参考資料:									
担当者からのメッセージ等実務経験について	保育の現場で役に立つ実務的な感染予防対策法・事故防止・感染症への対処法などの知識と手技の習得をめざす。									

科目名	子どもの健康と安全 (1単位)		演習	保育学科	2年 前期	担当者	三浦 志津子 (実務経験) (単独)				
ナンバリングコード	JC-S232-010										
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭						
教科目	必修科目(保育士)										
系 列	保育の内容・方法に関する科目										
授業のテーマ	保育に必要な子どもの保健についての専門知識を深め、子どもの健やかな成長に必要な保健活動の技術を実践する能力を養う。(専門的知識・技能、創造的思考力)										
授業概要	子どもの健康と安全を守るための保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解し、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策についてや子どもの発達や状態等に即した体調不良等に対する適切な対応・感染症対策など、保育における保健活動についての基本的な知識を学び、必要とされる技術や態度、実践力を身につける。										
達成目標							科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
							DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。						◎				○
	2.保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。								◎		○
	3.子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。							○	◎		
	4.保育における感染症対策について、具体的に理解する。							○	◎		
	5.保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子供の発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。							◎	○		
6.子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。						○				◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ										
授業計画	1. 子どもの健康と保育の環境 (目標 1) 2. 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理 (目標 1) 3. 保育における衛生管理 (目標 2) 4. 保育における事故防止及び安全対策 (目標 2) 5. 保育における危機管理及び災害への備え (目標 2) 6. 体調不良や傷害が発生した場合の対応 (目標 3) 7. 応急処置・救急処置及び救急蘇生法 (目標 3) 8. 感染症の集団発生の予防 (目標 4) 9. 感染症発生時と罹患後の対応 (目標 4) 10. 保育における保健的対応の基本的な考え方 (目標 5) 11. 3歳未満児への対応 (目標 5) 12. 個別的な配慮を要する子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー性疾患等) (目標 5) 13. 障害のある子どもへの対応 (目標 5) 14. 保育における保健活動の計画及び評価と職員間の組織的取組 (目標 6) 15. 母子保健・地域保健における家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携 (目標 6) 定期試験										
アクティブ・ラーニング	グループワーク										
成績評価基準	評価の方法: 筆記試験 40%、授業内レポート 15%、宿題・授業外レポート 15%、授業・演習への取組・態度 30% 評価の基準: ○筆記試験 * 知識・理解の定着度を測定 ・保育保健の基礎的な事柄について回答できる ○授業内レポート * 知識・理解、思考・判断の測定 ・授業内容を踏まえて考察できる ○宿題・授業外レポート * 知識・理解、思考・判断、技能・表現の測定 ・教えた技法を再現できる ・根拠を明確にして実践につなげることができる ○授業・演習への取り組み・態度 * 思考・判断、関心・意欲、態度の測定 ・積極的な発言や質問ができる ・授業に対して主体的、積極的に取り組む										
フィードバックの方法	課題(レポート等)については、評価後に返却し解答解説を実施する。疑問点があれば拾い上げ解決に導く。 筆記試験については、採点后に返却し解答解説を実施する。採点に間違いや不明な点がないかを十分に確認した後回収する。										
時間外の学習について	予習:テキストの該当部分を読んで授業に臨むこと。(1回の講義につき予・復習で45分程度) 復習:小テストを行うので、授業や演習のプリントを使用して知識や技術のポイントを整理しておくこと。										
教材にかかわる情報	テキスト:大西文子編著「子どもの健康と安全」(中山書店) 参考書:なし 参考資料:佐藤益子編著「子どもの保健Ⅱ」(ななみ書房)、厚生労働統計協会「国民衛生の動向」他										
担当者からのメッセージ等実務経験について	実務経験(33年)を基にして、基本的な知識を身につけ、保育現場で実践できる講義をします。										

科目名	子どもの食と栄養 (2単位)	演習	保育学科	2年 後期	担当者	白土 由利枝 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S225-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
教科目	必修科目(保育士)					
系列	保育の対象の理解に関する科目					
授業のテーマ	保育専門職として必要な子どもの栄養に関する知識を理解し、意欲的に食育に取り組むことができる実践力を身に付ける。 (専門的知識・技能、創造的思考力)					
授業概要	子どもの食生活の現状と課題を理解し、子どもの栄養の重要性、成長発達過程に応じた栄養などの基本的事項を学ぶ。さらに、食物アレルギーや疾病・障害のある子どもへの対応、家庭や各職員間の連携、食育の基本について、実践的な内容を学ぶ。					
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)
						DP 番号
						(1)
						(2)
						(3)
						(4)
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	1. 子どもの心身の健康と食生活(目標 1,2) 2. 子どもの食生活の現状と課題。食生活の変化と子どもの食生活上の問題点。(目標 1,4) 3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と働き(目標 1) 4. 食事摂取基準、食事バランスガイド(目標 1) <小テスト> 5. 乳幼児期の授乳・離乳の意義と食生活(目標 2) 6. 乳幼児期の心身の発達と食生活(目標 2) 7. 食育における養護と教育の一体性(目標 3) 8. 食育の内容と計画及び評価。食育計画指導案作成(目標 3) 9. 食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携(目標 3) <小テスト> 10. 食生活指導及び食を通じた保護者への支援(目標 4) 11. 家庭における食事と栄養。人間形成の基盤としての食事のあり方(目標 4) 12. 児童福祉施設における食事と栄養(目標 4) 13. 疾病及び体調不良の子どもへの対応(目標 5) 14. 食物アレルギーの子どもへの対応(目標 5) 15. 障害のある子どもへの対応(目標 5) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	グループワーク プレゼンテーション					
成績評価基準	評価の方法:試験 40%, 小テスト 20%, レポート 20%, 授業への参加度 20% 評価の基準:○筆記試験 * 知識・理解の定着度及び考察力・判断力を測定 ・授業で学んだ知識を扱った問題に解答できる。 ・授業をもとに考察し、明確な根拠を示し、自説をわかりやすく説明できる。 ○授業態度 * 関心意欲の測定 ・グループでの活動に積極的である。 ・相手にわかりやすく自説を述べ、他者の意見を聴くことができる。 ○レポート * 技能・表現を測定 ・授業で学んだことを発展させ、豊富な情報やイラストを活用してわかりやすくまとめることができる。 ・自主的に取り組むことができる。					
フィードバックの方法	小テストや試験終了後、内容を再確認する。レポートなど提出物については、コメントを記入し、意欲付けを図る。					
時間外の学習について	予習: 次回の授業に関連する資料や情報を集め、読んでおくこと。各回 45 分程度 復習: 授業内容を整理して、各章末に示されている課題についてまとめておくこと。各回 45 分程度					
教材にかかわる情報	テキスト: 子どもの食と栄養 中央法規(新・基本保育シリーズ) 2000 円+税 参考書: 参考資料: 必要に応じて配布する。					
担当者からのメッセージ等実務経験について	教育実習・保育実習の際には、子どもの食事の様子や食育の取り組みをよく観察しておくこと。 中学校・高等学校の家庭科教員: 子どもの食生活の現状と課題、食育への対応について話をします。					

科目名	子ども家庭支援論 (2単位)		講義	保育学科	1年 後期	担当者	林 和子 (実務経験) (単独)				
ナンバリングコード	JC-S111-010										
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭						
教科目	必修科目(保育士)										
系 列	保育の本質・目的に関する科目										
授業のテーマ	子育て家庭に対する支援の意義・目的、および多様な子育て家庭のニーズに応じた支援の現状と課題について、事例を基に考える。(専門的知識・技能、創造的思考力)										
授業概要	子育て家庭に対する支援の意義・目的、および支援の体制について理解する。また、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 子育て家庭の多様なニーズを理解し、それぞれに応じた支援の展開について、また、子ども家庭支援の現状と課題について事例を基に考える。										
達成目標							科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
							DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.家庭・家族の機能について理解する。								◎		
	2.子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。							◎	◎		
	3.子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。								◎		
4.子育て支援における保育者の役割について理解する。							○	◎			
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ										
授業計画	1. 子ども家庭支援の意義と役割(1)子ども家庭支援の意義と必要性(目標 1,2) 2. 子ども家庭支援の意義と役割(2)子ども家庭支援の目的と機能(目標 1,2) 3. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本(1)保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義(目標 2,3,4) 4. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本(2)子どもの育ちの喜びの共有(目標 2,3,4) 5. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本(3)保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援(目標 2,3,4) 6. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本(4)保育士に求められる基本的態度(受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等)(目標 2,3,4) 7. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本(5)家庭の状況に応じた支援(目標 2,3,4) 8. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本(6)地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力(目標 2,3,4) 9. 子育て家庭に対する支援の体制(1)子育て家庭の福祉を図るための社会資源(目標 1,2) 10. 子育て家庭に対する支援の体制(2)子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進(目標 1,2) 11. 多様な支援の展開と関係機関との連携(1)子ども家庭支援の内容と対象(目標 3) 12. 多様な支援の展開と関係機関との連携(2)保育所等を利用する子どもの家庭への支援(目標 3) 13. 多様な支援の展開と関係機関との連携(3)地域の子育て家庭への支援(目標 3) 14. 多様な支援の展開と関係機関との連携(4)要保護児童等及びその家庭に対する支援(目標 3) 15. 多様な支援の展開と関係機関との連携(5)子ども家庭支援に関する現状と課題(目標 3) 定期試験										
アクティブ・ラーニング	グループワーク										
成績評価基準	評価の方法: 授業ノート(60%)、試験(40%) 評価の基準: ○授業ノート * 知識・理解、関心・意欲を測定 ・教授したことや自ら学んだことを、正しく記録している ・与えられたテーマに沿って、情報を集め整理ができている ○試験 * 知識・理解、思考・判断を測定 ・授業内容を正しく理解できている ・学んだ知識を基に思考・判断し、的確な支援ができる										
フィードバックの方法	授業時間内に課題(DVD 視聴含む)について考え、発表して振り返りを行う。										
時間外の学習について	予習: 毎回の授業テーマに沿った子育てに関する情報(記事)を、新聞やインターネットから収集し、ノートに整理する。(90分程度) 復習: 講義を通して学んだことをノートに整理し、知識の定着を図る。(90分程度)										
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし。 参考書: 参考資料:										
担当者からのメッセージ等実務経験について	やまぐち子育て福祉総合センターに勤務。子ども・子育て相談対応、利用者支援の実務経験をもち、子育て支援、子ども家庭支援について話をします。										

科目名	保育内容総論 (1単位)		演習	保育学科	2年 後期	担当者	山下 温子 (単独)	
ナンバリングコード	JC-S233-010							
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭			
教科目	必修科目(保育士)							
系列	保育の内容・方法に関する科目							
授業のテーマ	保育の基本と保育内容の専門知識を理解し、主体的に子ども理解・保育内容の展開について学ぶ。(専門的知識・技能、汎用的能力、創造的思考力)							
授業概要	保育内容の基本的な考え方を理解し、具体的な実践事例を通して子どもの発達のとらえ方や保育内容を学ぶ。各自で課題を持ちグループ討議・まとめ・発表を通して保育内容・保育者の援助について考える。							
達成目標							科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)	
							DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解するとともに保育の全体的な構造を理解する。						○	○ ◎
	2.子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育内容の歴史の変遷を踏まえて、保育内容の基本的な考え方を理解する。							◎ ◎
	3.保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画、実践、観察・記録、評価、改善)につなげて理解する。						◎	◎ ○
4.保育の多様な展開について具体的に学ぶ。						○	◎ ◎ ◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業、②オンデマンドによる遠隔授業もあり							
授業計画	1. 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解 (目標 1,2) 2. 保育内容の歴史の変遷について (目標 1,2) 課題グループを決める (目標 1,2,3,4) 3. 保育所保育指針に基づく保育内容の理解ー養護ー (目標 1,3) 4. 保育所保育指針に基づく保育内容の理解ー教育ー (目標 1,3) 5. 子どもの発達と保育内容 -3歳未満児- (目標 1,3) 6. 子どもの発達と保育内容 -3歳以上児- (目標 1,3) 7. 環境を通して行う保育について -事例を通しての演習- (目標 1,3) 小テスト 8. 生活や遊びによる総合的な保育について -3歳未満児の事例を通して- (目標 1,3) 9. 生活や遊びによる総合的な保育について -3歳以上児の事例を通して- (目標 1,3) 10. 養護と教育が一体的に展開される保育について(目標 1,2,3) 11. 小学校との連携・接続を踏まえた保育について(目標 1,2,4) 12. 保育の多様な展開について (目標 1,2,4) 13. グループでの保育内課題検討・まとめ (目標 1,3,4) 14. 発表・討論(目標 1,3,4) 15. 発表討論・まとめ(目標 1,3,4) 小テスト							
アクティブ・ラーニング	グループワーク プレゼンテーション							
成績評価基準	評価の方法:授業内レポート・小テスト 60% 授業外レポート(20%) プレゼン(20%) 評価の基準: ○レポート/課題 *知識・理解・思考の測定 ・根拠を明確にして自説を述べることができる。 ○小テスト *知識・理解の定着度を測定 ・保育の専門的知識について回答できる。 ○プレゼン *知識・理解・思考の測定、関心・意欲・態度・技能・表現の測定 ・グループでの活動に積極的である。 ・専門知識を明確にして発表できる。							
フィードバックの方法	課題を回収し、コメントを入れて返却する。発表に対して学生と一緒に意見交換して振り返りを行う。							
時間外の学習について	予習:授業内容の理解のために保育指針や乳幼児の発達等について把握する。 各回 30分 保育内容についての課題研究 90分 復習:授業の振り返り、整理する 各回 20分							
教材にかかわる情報	テキスト:「保育内容総論」児童育成協会監修 中央法規 参考書:「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 参考資料:ビデオ、保育実践事例など、その都度適宜紹介する。							
担当者からのメッセージ等実務経験について								

科目名	教育課程論・保育の計画と評価 (2単位)		講義	保育学科	1年 後期	担当 者	山本 朗登 (単独)					
ナンバリングコード	JC-S134-110											
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修						
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)											
各科目に含めることが必要な事項	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)											
教科目	必修科目(保育士)											
系 列	保育の内容・方法に関する科目											
授業のテーマ	教育の本質に関する幅広い理解、教師としての倫理観(専門的知識・技能)、計画の作成・協働(汎用的能力、創造的思考力)。											
授業概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領を基準として編成される教育課程および全体的な計画において、計画(および評価)の役割やその意義、必要性、責任について議論・理解するとともに、各年齢のそれぞれの事例を分析し、課程や指導計画の編成方法についてグループワークを通じて学ぶ。あわせて評価から改善につながる一連のサイクルについて触れ、総合的にカリキュラム・マネジメントについて理解する。											
達成目標								科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
								DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.教育課程・全体的な計画と指導計画及び評価の役割・機能・意義を理解する。										◎	
	2.教育課程の基本原理解および幼稚園・保育所・こども園におけるカリキュラム編成の方法を理解する。										◎	
	3.園全体のカリキュラムを把握し、カリキュラム全体をマネジメントすることの意義を理解する。										◎	
4.子どもの理解に基づく教育・保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する							○			◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ											
授業計画	1. カリキュラムの基礎理論① カリキュラム・教育課程・全体的な計画とはなにか(目標 1,2) 2. カリキュラムの基礎理論② 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の性格・位置づけ・社会的背景(目標 1) 3. カリキュラムの基礎理論③ 教育課程・全体的な計画編成の目的と意義(目標 1,2) 4. 教育課程・全体的な計画① 幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂と社会的背景(目標 1) 5. 教育課程・全体的な計画② 教育課程・全体的な計画の作成と社会的役割・意義(目標 1) 6. 教育課程・全体的な計画③ 課程編成の方法(実践例からみる選択・配列)と柔軟な運用(目標 2) 7. 教育課程・全体的な計画④ 指導計画(長期・短期)の作成方法と作成上の留意事項、及び教育課程・全体的な計画との関連性(目標 2) 8. 教育課程・全体的な計画⑤ 領域横断的な教育内容の選択・配列、小テスト(目標 2) 9. 評価とマネジメント① カリキュラム・マネジメントの必要性と方法(目標 1,3) 10. 評価とマネジメント② 地域・学校との連携、長期的視野に基づく課程編成、発達と生活をふまえた指導要録・保育要録(目標 2,3) 11. 評価とマネジメント③ 幼児の実態や家庭・地域・園の状況を踏まえた課程編成(目標 2,3) 12. 課程編成と展開① 保育の計画の編成・評価・改善の意義と取組、PDCAサイクルと保育の質の向上(記録と省察を含む)(目標 1,2,3,4) 13. 課程編成と展開② 教育課程・全体的な計画の検討・作成(目標 1,2,3) 14. 課程編成と展開③ 年間指導計画・月案の検討・作成(目標 1,2,3) 15. 課程編成と展開④ 日案の検討・作成、発表(目標 1,2,3)											
アクティブ・ラーニング	グループワーク											
成績評価基準	評価の方法:小テスト 50%、課題提出物 40%、授業ファイル 10% 評価の基準: 保育の計画全般に関する知識・理解、課程作成の課題への積極的参加とその内容、計画作成・改善に関する意義の理解を評価する。 ○筆記試験 * 知識・理解の定着度および思考力・判断力を測定 ・正確な知識を選択でき、説明することができる。 ・授業をもとに考察し、明確な根拠に基づいて自分の考えを述べることができる。 ○課題提出物 * 知識・理解の定着度と思考力を測定 ・計画に関する正確な知識をもとに計画案を作成することができる。 ・様々な要因を想定し、計画に含めることができる。 ○授業ファイル * 知識・理解の定着度を測定 ・正確な知識を整理しまとめることができる。											
フィードバックの方法	課題について、グループワークの作業内容をもとに授業者と逐次議論することで考察を深め、計画に関する様々な知識・技術の習得を目指す。											
時間外の学習について	予習: 出身園や実習園などの計画を収集、計画を公開している園の情報を集めるなどして調査する。各回 90 分程度。 復習: 収集した園の計画を参照し、授業の内容の確認を行う。各回 90 分程度。											
教材にかかわる情報	テキスト:『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社。 参考書:特になし。 参考資料:必要な資料を授業中に適宜配布する。											
担当者からのメッセージ等 実務経験について												

科 目 名	健康の指導法 (1単位)	演習	保育学科	2年 前期	担 当 者	吉野信朗、船場大資 (複数)
ナンバリングコード	JC-S235-110					
卒 業 要 件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)					
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)					
教 科 目	必修科目(保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授 業 の テー マ	乳幼児期の「健康」に関わる専門的な知識を身につける。とりわけ、子どもの心身の発育、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達の専門的事項に関する知識を習得し、実践で活用することができるように指導方法を身につける。(専門的知識・技能、創造的思考力)					
授 業 概 要	領域「健康」を踏まえた子どもの成長を支える環境構成や安全教育や危機管理など、園で子どもの心身の発育を目標とする指導方法について考える。また現代の子どもの生活を学び、現場でどのように改善を促すか、その指導方法を考察する。最後に、乳幼児期の生活や遊びの中から、発育実態や運動機能や生理的機能の発達、及びこころの発育など子どもの体力や健康を評価する方法を学ぶ。					
達 成 目 標					科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)	
					DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.領域「健康」のねらい及び内容を理解する。					○ ○ ○ ○
	2.乳幼児期の心身の発育について理解するとともにそれを育む指導方法について理解をする。					○ ○ ◎
	3.健康的な発育を促すための運動遊びの意義と指導方法・実践的なスキルを習得する。				○	○ ◎
4.乳幼児期の生活のサイクルと現代的課題を理解してうえで、それを解決するための指導方法について理解する。					◎ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. オリエンテーション—授業概要と子どもの健康課題—(目標 1) 2. 子どもらしい理想の生活習慣と実際の生活習慣(目標 1) 3. 領域「健康」の位置づけと意味(目標 1) 4. 健康的な生活のための保育者の関り(指導方法)(目標 2) 5. 睡眠のサイクルとその指導方法(目標 2) 6. 生活習慣と子どもの発育の関連性と指導方法(目標 2,4) 7. 健康の指導のための長期的見通し(目標 2,4) 8. 子どもの運動遊びの指導方法1—外遊び—(目標 3) 9. 子どもの運動遊びの指導方法2—体操や体づくり運動—(目標 3) 10. 子どもの運動遊びの指導方法3—ボール遊び—(目標3) 11. 子どもの運動遊びの指導方法4—伝承遊びやいろいろな遊び—(目標 3) 12. 遊戯論の基礎知識(目標 4) 13. 身体の発育と動作の発達(目標 4) 14. 戸外遊びの効果(目標 4) 15. 子どものケガとその防止方法(目標 4) 定期試験					
アクティブ・ラーニング	グループワーク ディスカッション ロールプレイ					
成績評価基準	評価の方法:定期試験 40%・実技 30%・レポート・指導案 30% 評価の基準: 定期試験(知識・理解の定着)・実技(運動の指導方法の理解)・レポート(思考と理解)					
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の復習を行う。個別の質疑に対しては、常に対応する。作成した資料にコメントや助言を行う。					
時間外の学習について	予習:教科書での予習(30分) 復習:授業内容を振り返る。定期試験に向けた準備(30分)・レポート課題や指導案の作成(30分)					
教材にかかわる情報	テキスト:池田裕恵編著『子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」』杏林書院 参考書: 参考資料等:適宜配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	実技があるため、体操服等の準備を忘れないようにして下さい。天候によっては順序が変わる可能性があります。その都度連絡します。					

科目名	人間関係の指導法 (1単位)	演習	保育学科	1年 後期	担当者	富田 まり子 (実務経験) (単独)			
ナンバリングコード	JC-S136-110								
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修			
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)								
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)								
教科目	必修科目(保育士)								
系 列	保育の内容・方法に関する科目								
授業のテーマ	領域『人間関係』のねらい及び内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達の特長や保育者の役割についての専門知識や技術を身に付ける。(専門的知識・技能、創造的思考力)								
授業概要	幼稚園や保育所において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域『人間関係』のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、乳幼児の人間関係の発達に即して、他の人々と親しみ、支え合って生活するために自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な保育実践力や指導方法を習得する。								
達成目標					科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
					DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域『人間関係』のねらい及び内容等を理解する。						○	◎	
	2.乳幼児の人間関係の発達について理解すると共に、乳幼児が経験し身に付けていくべき内容と、保育者として指導上の留意点や評価の考え方を理解する。						○	◎	
	3.領域の特長や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解する。					○		◎	
4.指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、保育実践・評価・改善する視点を身に付ける。					○			◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ								
授業計画	1. 領域『人間関係』の「ねらい」「内容」および「内容の取り扱い」とその構造 (目標 1,2) 2. 乳幼児期における人とのかかわりの発達—けんかで学ぶ自己主張と自己抑制— (目標 1,2,3) 3. 乳幼児期における人とのかかわりの発達—道徳性・規範意識の芽生え— (目標 1,2,3) 4. 乳幼児期における人とのかかわりの発達—道徳的態度の育ち— (目標 1,2,3) 5. 遊びの中で育つ人とのかかわりと保育実践—スキルあそび—(目標2,3,4) 6. 遊びの中で育つ人とのかかわりと保育実践—わらべうたあそび— (目標 2,3,4) 7. 遊びの中で育つ人とのかかわりと保育実践—ルールのあるあそび— (目標 2,3,4) 8. 集団遊びにおける保育者の援助について(目標 1,2,4) 9. 自立心を育て、人と関わる力を養うための保育実践—指導案の作成—(目標 1,2,3,4) 10. 指導案に基づく模擬保育、課題の共有(目標 1,2,3,4) 11. 指導案に基づく模擬保育、課題の共有(目標 1,2,3,4) 12. 指導案に基づく模擬保育、課題の共有(目標 1,2,3,4) 13. 指導案に基づく模擬保育、課題の共有(目標 1,2,3,4) 14. 保護者とのかかわり・保育者同士のかかわり(目標 1,2) 15. 人間関係をつくり、学び合い、育ちゆく保育者(目標 1,2,4)								
アクティブ・ラーニング	グループワーク・模擬保育								
成績評価基準	評価の方法:試験(小テストを含む)40% 授業内レポート 40% 発表 20% 評価の基準:目標への理解、思考、関心、意欲、態度などの習得を合否判断とする。 ○試験(小テストを含む) * 知識・理解の測定 ・授業で扱った内容について、基礎的・応用的問題に回答できる ○授業内レポート * 知識・理解、思考・判断の測定 ・授業内容を踏まえて自説を述べることができる ○発表 * 知識・理解、思考・判断、技能・表現の測定 ・主体的、協動的にグループワークに取り組むことができる								
フィードバックの方法	その都度個別に評価・アドバイスを記入し返却すると共に、授業内で課題に対する考え方や保育について具体的方法を示すことで理解を深められるようにする。								
時間外の学習について	予習:テキストを読み、次回講義内容の概要を把握しておくこと(各回 30 分程度) 復習:配布資料整理・授業の振り返り 適宜レポートを課題とする(各回 30 分程度)								
教材にかかわる情報	テキスト:事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係 (萌文書林) 参考書:幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領								
担当者からのメッセージ等実務経験について	幼稚園教諭・保育士・園長経験:実務経験をもとにして、子どもの発達、人とかかわる力を育む保育の内容、援助についてお話をします。								

科目名	環境の指導法 (1単位)		演習	保育学科	2年 前期	担当者	富田 まり子 (実務経験) (単独)					
ナンバリングコード	JC-S237-110											
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修						
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)											
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)											
教科目	必修科目(保育士)											
系 列	保育の内容・方法に関する科目											
授業のテーマ	領域「環境」のねらい及び内容を理解し、知識の習得、好奇心や探究心を育む指導の方法などについて理解する。また、保育者の役割についての専門知識や技術を身に付け、保育への実践力を身につける。(専門的知識、技能、創造的思考力)											
授業概要	領域「環境」のねらい及び内容をふまえた上で、指導計画の意味・指導計画の構成・作成の手順について具体的な事例を用いながら説明し、指導計画の作成方法が理解できるようにする。グループで課題を決め、教材研究をしながら具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行うことで、保育実践力や指導方法を習得できるようにする。また、模擬保育を通してディスカッションを行い、気付きや感想を伝え合うことで、評価の視点について理解を深め、実践を振り返りながら保育の質を高めていくことが理解できるようにする。											
達成目標								科目 DP(ディプロマポリシー): (3)				
								DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.指導計画の作成について理解する。(指導計画の意味について理解する/指導計画の種類について理解する/指導計画を作成する手順について理解する)									○	◎	
	2.領域「環境」のねらい及び内容に基づいた指導計画の作成方法について理解する。(子どもの実態を把握し、具体的なねらいや内容を設定することについて理解する/教材研究や環境構成について理解する/保育者の援助について理解する)							○				◎
	3.具体的な保育を想定した指導案を作成し、教材の活用方法や指導方法について理解する。(教材を研究し指導計画を作成することを理解する/保育実践するための環境構成や保育者の援助について理解する)									◎		○
4.保育実践の改善を図る方法について理解する。(保育実践の反省・評価の視点について理解する/反省・評価を生かした指導計画の作成について理解する)							○			◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ											
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 地球環境と教育—幼児期の環境教育の進め方— (目標 1.2) 幼児期の環境教育—つながりに気付く遊びの実際— (目標 1.2) 持続可能な開発のための教育—幼児教育におけるSDGsの実践— (目標 1.2) 自然とかかわり自然を取り入れて遊ぶ保育の実践 (目標 1.2,3) 保育の実際—小動物とかかわる①小動物の生態と飼育 (目標 1.2,3) 保育の実際—小動物とかかわる②生命の営みにふれる (目標 1.2,3) 物とかかわり物質の変化を楽しむ保育の実践 (目標 1.2,3) 教材研究と環境の構成(目標 1.2,3) 領域「環境」の指導計画、情報機器及び教材の活用(目標 1.2,3) 数量、図形、標識、文字とかかわる保育の実際—事例を通して—(目標 1.2,3) 数量、図形、標識、文字とかかわる保育の実践(目標 1.2,3) 保育の実際—指導案の作成、模擬保育の計画、準備(目標 1.2,3,4) 保育の実際—模擬保育、課題の共有 (目標 1.2,3,4) 保育の実際—模擬保育、課題の共有 (目標 1.2,3,4) まとめ—就学までに身に付けるべき資質・能力を踏まえた指導計画の作成、及び評価・改善について(目標 1.2,3,4) 											
アクティブ・ラーニング	模擬保育											
成績評価基準	<p>評価の方法: 小テスト・レポート(配点:40%) 授業への参加度、復習・調べるなどの自主的な学習(配点:20%)課題(配点30%) 発表・作品制作(配点10%)</p> <p>評価の基準:授業内容への理解、関心、意欲、態度などの習得を合否判断とする</p> <p>○小テスト・レポート * 知識・理解、思考・判断を測定 ・領域「環境」のねらい、内容などについて回答できる ・授業を踏まえて自説を述べるができる</p> <p>○授業への取り組み * 思考・判断、関心・意欲・態度を測定 ・事前調査や復習など、自主的な学習ができる ・活動に積極的にかかわることができる</p> <p>○課題 * 知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定 ・他領域と関連させ、保育に結びつけることができる ・子どもに育つ力について、理解している</p> <p>○授業への参加度 * 関心・意欲・態度を測定 ・グループでの活動に積極的にかかわる ・授業を通して探究心を持ち、自発的に取り組む</p>											
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストや課題回収後に解説を行う。 ・課題、レポート、指導案にコメントを入れ、よい点、改善点などを示す。 											
時間外の学習について	<p>予習:授業内容に合わせて、調べ、理解を深めておく。各回30分程度。事前の準備がいることもあります。</p> <p>復習:授業内容をまとめ、考察を深める。各回30分程度。</p>											
教材にかかわる情報	<p>テキスト:保育内容 体験する・調べる・考える 領域「環境」 田宮 縁 (萌文書林)</p> <p>参考書: 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 植物図鑑 動物図鑑</p>											
担当者からのメッセージ等実務経験について	<p>準備物は早めに知らせますので用意してください。</p> <p>幼稚園教諭・保育士・園長経験:実務経験をもとにして、子どもの発達、環境とかかわる力を育む保育の内容、援助についてお話をします。</p>											

科目名	言葉の指導法 (1単位)		演習	保育学科	1年 後期	担当者	野村 不二子 (実務経験) (単独)			
ナンバリングコード	JC-S138-110									
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修				
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)									
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)									
教科目	必修科目(保育士)									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業のテーマ	領域『言葉』のねらい及び内容を理解し、乳幼児期の言葉の特性や保育者の言葉についての専門知識や技術を身に付ける。 (専門的知識・技能、創造的思考力)									
授業概要	幼稚園や保育所において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域『言葉』のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、乳幼児の言葉の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育実践力や指導方法を習得する。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域『言葉』のねらい及び内容等を理解する。						◎	○	○	
	2.乳幼児の言葉の発達について理解すると共に、乳幼児が経験し身に付けていくべき内容と、保育者として指導上の留意点や評価の考え方を理解している。						○	◎		
	3.領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解している。					○	○	◎		
履修条件・注意事項	4.指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。					○	○	○	◎	
	履修条件・注意事項 授業の実施方法:①面接授業のみ									
	授業計画	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域『言葉』の理解及び位置づけ (目標 1)								
		2. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域『言葉』のねらいと内容の理解 (目標 1)								
		3. 乳幼児の言葉の発達についての知識・理解 (目標 2)								
4. 言葉の発達過程と保育者の援助方法～0・1・2歳児 (目標 2)										
5. 言葉の発達過程と保育者の援助方法～3・4・5歳児 (目標 2)										
6. 保育者の話し方・聞き方・応答的関わり～児童文化財を通して(目標 3)										
7. 保育者の話し方・聞き方・応答的関わり(情報機器及び教材の活用) (目標 3)										
8. 言葉指導に関する保育実践の知識・技術の習得 (目標 4)										
9. 言葉遊びの実践～保育指導案の作成 (目標 4)										
10. 言葉遊びの実践～模擬保育(グループ発表) 10～12 (目標 4)										
11. 言葉遊びの実践～模擬保育(グループ発表) 10～12 (目標 4)										
12. 言葉遊びの実践～模擬保育(グループ発表) 10～12 (目標 4)										
言葉遊びを考える・保育指導案を立案する・模擬保育をする。反省及び考察をする										
13. 絵本について～分類と役割、読み聞かせ技術の向上(目標 3)										
14. 表現媒体の活かし方(情報機器及び教材の活用) (目標 3)										
15. 素話についての知識・技術の向上 (目標 3)										
定期試験										
アクティブ・ラーニング	模擬保育									
成績評価基準	評価の方法: 保乳幼児の言葉の理解、保育技術の習得、学びに対する関心・意欲などを総合的(定期試験 50%・授業内レポート 20%・実践への取組み 20%・授業への参加態度 10%)に評価する。 評価の基準: ○定期試験 * 知識・理解の定着度を測定 ・教科書に載っている知識を扱った問題に回答できる。 ・応用レベルの問題に回答できる。 ○授業内レポート * 知識・理解・思考力を測定 ・根拠を明確にして自説を述べることができる。 ○実践への取り組み * 関心・意欲の測定 * 思考・判断の測定 ・グループでの活動に積極的である。 ・意欲的に実践に取り組み、発表することができる。 ○授業への取り組み * 関心・意欲・態度を測定 ・真摯な態度で乳幼児の言葉に関する学習を積極的に進めることができる。									
フィードバックの方法	レポートにコメントを返す。レポート課題を回収し、次回の授業で説明する。授業アンケート結果やコメントを参考にして授業改善に取り組む。									
時間外の学習について	予習: シラバスを確認しておく。各回 15分 復習: レジューム及びプリントや資料をまとめておき、目を通しておく。(ファイルに綴じる) 各回 30分									
教材にかかわる情報	テキスト: 新保育内容シリーズ「子どもと言葉」 萌文書林 参考書: 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 参考資料: DVD・ビデオ等									
担当者からのメッセージ等実務経験について	『言葉』の内容(子どもの発達・保育者の関わり方など)を具体的にお話しします。 幼稚園教諭経験: 実務経験をもとに、幼児の保育、子育て支援及び実習について話をします。									

科目名	表現の指導法(音楽Ⅰ) (1単位)		演習	保育学科	1年 後期	担当者	永田 実穂 (単独)			
ナンバリングコード	JC-S139-110									
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	必修				
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)									
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)									
教 科 目	選択必修科目(保育士)									
系 列	保育の内容・方法に関する科目									
授 業 の テ ー マ	音楽遊び・表現遊びの実践を通して、領域「表現」のねらい及び内容を理解し、知識の習得、好奇心や探究心を育む指導の方法などについて理解する。また、保育者の役割についての専門知識や技術を身に付け、保育への実践力を身につける。(専門的知識・技能、汎用的能力、創造的思考力)									
授 業 概 要	幼稚園や保育所において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、音楽遊び・表現遊びを実践しながら、領域「表現」に関する理解を深め、保育者として必要な音楽的感性を養う。乳幼児の生活や遊びの中にある音に関する表現について学び、音楽が果たす役割を理解し、それらを基に指導案作成や、模擬保育に生かす。									
達 成 目 標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。						○	○		
	2.乳幼児の心身の発達、および音楽的発達について学び、音楽が果たす役割を考え理解する。							◎	◎	
	3.幼児の生活や遊びの中にある音楽的表現について知る。また、他の領域や表現活動との関わりについて学び、指導案作成、模擬保育等で実践する。						○		◎	◎
	4.保育者として必要な音楽的感性を養い、音遊びや即興アンサンブルを通して、楽器、身体活動の展開法や指導法を身につける。						○	○	◎	◎
5.領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解する。						○		◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ									
授 業 計 画	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」のねらいと内容の理解(目標 1) 2. 子どもの遊びの中に見られる表現事例を学び、子どもの表現と保育者の役割を理解する(目標 2,3) 3. 幼児の生活と音楽表現 言葉と音楽表現～(目標 1,2,3) 4. 音楽あそび・表現あそび(1)身体で遊ぶ活動①リズムの活用(目標 2,3,4,5) 5. 音楽あそび・表現あそび(2)声・歌・言葉で遊ぶ活動(目標 2,3,4) 6. 音楽あそび・表現あそび(3)楽器、身体を使った音遊び①即興あそび(目標 2,3,4) 7. 音楽あそび・表現あそび(4)楽器、身体を使った音遊び②ドラムサークル(目標 2,3,4) 8. 乳児・幼児の音楽的発達についての理解と指導案のねらい～わらべうた・あそびうた(目標 3,4,5) 9. 指導案作成と模擬保育の留意点(ねらい、子どもの姿、環境構成、保育者の援助など)(目標 1,2,3,5) 10. グループでの模擬保育(4) 幼児の音楽活動～うたう活動(目標1,2,3,5) 11. グループでの模擬保育(5) 幼児の音楽活動～ひく活動(目標1,2,3,5) 12. グループでの模擬保育(6) 幼児の音楽活動～うごく活動(目標1,2,3,5) 13. グループでの模擬保育(7) 幼児の音楽活動～きく、つくる活動(目標1,2,3,5) 14. 模擬保育の振り返り～ねらい・題材・教材・環境構成・展開・評価(目標 1,2,3,4,5) 15. 年齢別音楽表現活動解説 ～保育者としての資質・能力 まとめ(目標 1,2,3,4,5) 定期試験									
アクティブ・ラーニング	模擬保育、グループワーク、ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法:定期試験 30%、レポート 20%、指導案・模擬保育 30%、授業への取り組み状況 20% 評価の基準: 音楽活動に必要な技術や指導法の習得状況と、領域「表現」への理解、関心、意欲、態度などを総合的に評価する ○定期試験 * 知識・理解、思考の定着度の測定 ・ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある、領域「表現」のねらいや内容を理解し対応した問題や、乳幼児の音楽との関わり方に関する問題に回答することができる。 ○レポート * 知識・理解、思考・判断、関心の定着度の測定 ・ さまざまな音遊びや身体表現を通して学んだ、音に関する表現活動をまとめ考察することができる。 ○指導案作成・模擬保育の内容 * 知識・理解、関心・意欲、思考・判断、技能・表現の定着度の測定 ・ 子どもの遊びや姿を通して、音に関する内容の指導案の作成や模擬保育ができる ○授業への取り組み * 関心・意欲、態度、技能・表現の定着度の測定 ・ グループ活動をはじめ、さまざまな活動に対して、主体的、積極的に取り組むことができる。									
フィードバックの方法	レポートや振り返りシートから助言や補足を行う									
時間外の学習について	予習: 音楽表現の指導法及び指導案について考え、準備しておく。(各回 30 分程度) 復習: その日の授業内容で大切だと指摘されたことができるようにしておく。(各回 30 分程度)									
教材にかかわる情報	テキスト: 堂本真美子編「保育内容 領域 表現 日々わくわくを生きる子どもの表現」わかば社 参考書: 汐見稔幸編集大豆生田啓友監修、岡本弘子編集「保育内容「表現」」ミネルヴァ書房 細田淳子著「わくわく音遊びでかんたん発表-手拍子ゲームから器楽合奏まで」すずき出版 飯田和子、石川武、菊本るり子著「はじめてのドラムサークル」音楽之友社 無藤隆監修 吉永早苗著「子どもの音感受の世界 心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求」 参考資料: 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領									
担当者からのメッセージ等実務経験について	動きやすい服装で受講すること									

科目名	表現の指導法(音楽Ⅱ) (1単位)		演習	保育学科	2年 前期	担当者	永田 実穂 (単独)
ナンバリングコード	JC-S241-110						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	必修	
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)						
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)						
教科目	選択必修科目(保育士)						
系 列	保育の内容・方法に関する科目						
授業のテーマ	音楽遊び・表現遊びの実践を通して、領域『表現』のねらい及び内容を理解し、知識の習得、好奇心や探究心を育む指導の方法などについて理解する。また、保育者の役割についての専門知識や技術を身に付け、保育への実践力を身につける。 (専門的知識・技能、汎用的能力、創造的思考力)						
授業概要	幼稚園や保育所において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域『表現』のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達段階に応じた音楽表現を指導する上で必要な環境構成及び具体的に展開するための表現や指導法を学ぶ。情報機器および教材の活用法について実践を踏まえ理解し、子どもの生活や遊びを通じた音楽表現活動の展開や援助ができるような指導や実践力を身につけ、改善する力を養う。						
達成目標							科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)
							DP 番号
							(1)
							(2)
							(3)
						(4)	
1.幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域『表現』のねらい及び内容等を理解する。						◎	
2.子どもの生活や遊びから考える音楽表現の役割や内容についての援助方法を学び、他の領域との関連性及び小学校の教科等の繋がりを理解する。						○ ◎	
3.即興的なアンサンブルや音活動を通してファシリテーション技術を学ぶとともに、コミュニケーション力や指導の展開力を身につける。						◎ ○	
4.指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成、保育実践・評価・改善する視点を身に付け、指導上の留意点や評価の考え方を理解す	◎					○ ◎	
履修条件・注意事項	「表現の指導法(音楽Ⅰ)」の単位を取得済みの者 授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	1. 領域『表現』における音楽の役割(目標 1.2) 2. 身体、声を使つての音楽表現活動～声を使つた音遊び、わらべうた、リミックスの活用(目標 1.2,4) 3. きく、耳を澄ます音楽表現活動(目標 1.2,4) 4. モノを使った音楽表現活動・即興アンサンブルの指導法①(ドラムサークル・ファシリテーション)(目標 1.2,3,4) 5. 乳児・幼児の音楽的発達についての指導案のねらい(情報機器及び教材の活用)(目標 1.2,4) 6. 模擬保育(1) 子どもの遊びから考える音楽表現活動 ひく活動(目標 1.2,3,4) 7. 模擬保育(2) 子どもの遊びから考える音楽表現活動 ひく活動(目標 1.2,3,4) 8. 模擬保育(3) 子どもの遊びから考える音楽表現活動 ひく活動(目標 1.2,3,4) 9. モノを使った即興アンサンブルの指導法②(ドラムサークル・ファシリテーション)(目標 1.2,3,4) 10. 実習の振り返り ファシリテーションを用いた歌唱、合奏の指導法(目標 1.2,3,4) 11. 模擬保育(4) 子どもの遊びから考える音楽表現活動～きく活動(目標 1.2,3,4) 12. 模擬保育(5) 子どもの遊びから考える音楽表現活動～つくる活動①(目標 1.2,3,4) 13. 模擬保育(6) 子どもの遊びから考える音楽表現活動～つくる活動②(目標 1.2,3,4) 14. 模擬保育の振り返り、まとめ(目標 1.2,3,4) 15. 年齢別音楽表現活動解説～就学までに身に付けるべき資質・能力と保育者の役割について(目標 1.2,3,4)						
アクティブ・ラーニング	模擬授業、グループワーク、ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法:レポート 30%、保育指導案と模擬保育の内容 30%、実技 20%、 授業への取り組み状況 20% 評価の基準: 幼児の音楽活動の知識、指導案作成の基礎知識の理解、保育の展開技術の基礎的な力、ファシリテーション及びグループ活動状況を評価する。 ○レポート * 知識・理解、思考、関心・意欲の定着度の測定 ・ 幼児の音楽活動に関する知識、また保育指導案を書く上で重要な知識や理解、及び自分の考えを文章で述べることができる。 ○保育指導案と模擬保育の内容 * 知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現 ・ 幼児の音楽活動の指導案を、子どもの姿やねらいに沿って書くことができ、ねらいに沿った模擬保育や展開をすることができる。 ○実技 * 知識・理解、関心・意欲、思考・判断、技能・表現の定着度の測定 ・ ドラムサークル・ファシリテーションを用いたアイコンタクト、表情、言葉かけ、合図出しなどを音楽活動の中で表現豊かに行うことができる。 ○授業への取り組み * 関心・意欲、態度、技能・表現の定着度の測定 ・ グループ活動の取り組みや、模擬保育後の振り返りで積極的に発言を行うことができる。						
フィードバックの方法	振り返りノートや、指導案の添削後、返却を行う						
時間外の学習について	予習: 音楽表現の指導方法・指導案について考えておく。(各回 30 分程度) 復習: 授業中に大切だと指摘されたことができるようにしておく。(各回 30 分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト: 堂本真美子編「保育内容 領域 表現 日々わくわくを生きる子どもの表現」わかば社 参考書: 汐見稔幸編集大豆生田啓友監修、岡本弘子編集「保育内容『表現』」ミネルヴァ書房 細田淳子著「わくわく音遊びでかんたん発表 手拍子ゲームから器楽合奏まで」すずき出版 飯田和子、石川武、菊本るり子著「はじめてのドラムサークル」音楽之友社 無藤隆監修 吉永早苗著「子どもの音感受の世界 心の耳を育む音感受教育による保育内容『表現』の探求」 参考資料: 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領						
担当者からのメッセージ等実務経験について	動きやすい服装で受講すること。						

科目名	表現の指導法(造形Ⅰ) (1単位)		演習	保育学科	1年 前期	担当者	森下 嘉昭 (単独)			
ナンバリングコード	JC-S142-110									
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修				
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)									
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)									
教科目	必修科目(保育士)									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業のテーマ	造形的な遊びの内容・方法に関する知識、乳幼児の造形表現活動の必要性の理解、材料・用具の知識の習得、指導の留意点の理解(専門的知識・技能)									
授業概要	この授業では、幼稚園や保育所、認定こども園において育みたい資質・能力を理解し、造形表現活動がどのように関係しているか、幼児の造形的な表現にかかわる様々な素材や用具、遊びの体験を通して学ぶ。 遊びの場面において幼児は主体的に素材や用具とかかわりながらどのように表現するか、体験を通して素材・用具の特性を理解するとともに、発達を踏まえた表現の事例をもとに理解を深めていく。また、具体的な準備物や対話の在り方など、保育の初歩的な留意点を学ぶ。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領での領域「表現」の位置づけを踏まえた造形表現のねらい及び内容を理解している。							○	◎	
	2.表現を通して幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や、幼児の造形的な表現をどのように捉えるか、指導上の留意点や評価の考え方を、体験を通して理解している。					○			◎	
	3.幼児の視点から造形的な表現を捉え保育を構想する重要性を理解する。								◎	
4.幼児の体験をもとに、情報機器や教材(造形素材や題材)を保育に活用できる。							○	◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ									
授業計画	1. 教育要領、保育指針、教育・保育要領を踏まえた保育における造形表現のねらい及び内容(目標 1) 2. パスを用いた遊びの指導上の留意点や言葉かけ及び評価について(目標 2,3) 3. パスの特性を踏まえた題材の活用と保育の構想について(目標 3,4) 4. クレヨンを用いた遊びの指導上の留意点や言葉かけ及び評価について(目標 2,3) 5. クレヨンの特性を踏まえた題材の活用と保育の構想について(目標 3,4) 6. 水彩絵の具を用いた遊びの指導上の留意点や言葉かけ及び評価について(目標 2,3) 7. 水彩絵の具の特性を踏まえた題材の活用と保育の構想について(目標 3,4) 8. 技法遊び(1)ーマープリング・スパッタリング・マスキングの活用と評価について(目標 2,3,4) 9. 紙の種類と活用方法について(目標 2,3,4) 10. コンテパステルの特性を生かした遊びの留意点と評価について(目標 2,3,4) 11. マーカー(水性・油性)の特性を生かした遊びの留意点と評価について(目標 2,3,4) 12. 版遊び(1)ーステンシル・紙を活用した版作りと指導の留意点について(目標 2,4) 13. 版遊び(2)ー写して遊ぶ際の留意点について(目標 2,3,4) 14. 造形遊びにおける情報機器及び教材の活用(目標 2,3,4) 15. 技法遊び(2)ーステンシルの活用について(目標 2,3,4)									
アクティブ・ラーニング	グループワーク									
成績評価基準	評価の方法:授業内容の記録物(50%)、作品(30%)、授業への取り組み(20%) 評価の基準:○授業内容の記録物 *知識・理解の定着度の測定 *思考・判断、関心・意欲の測定 ・伝えられた内容を正確に記録している。 ・活動内容を、領域「表現」の位置づけを踏まえた視点から理解している。 ・活動内容を実習や保育現場で生かす視点で、主体的に考えたり調査したりできる。 ○作品 *思考・判断、技能・表現、関心・意欲の測定 ・授業で取り上げた技能を適切に扱って制作できる。 ・学んだ技能をもとに、自分なりの工夫ができる。 ○授業への取り組み *関心・意欲・態度、思考・判断、表現の測定 ・主体的かつ丁寧な態度で取り組むことができる ・自分なりの疑問を持ち、積極的に質問や意見を表現できる。									
フィードバックの方法	授業内容や課題(作品含む)の記録物を回収し、コメントを入れて返却する。									
時間外の学習について	予習:参考書の関係箇所を目を通す。各回 15 分程度 復習:授業内容や課題(作品含む)をスケッチブックにまとめる。各回 30 分程度									
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考書:「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」チャイルド社 参考資料:花篤實・岡田悠吾「新造形表現(理論・実践編)」三晃書房									
担当者からのメッセージ等実務経験について										

科目名	表現の指導法(造形Ⅱ) (1単位)		演習	保育学科	1年 後期	担当者	森下 嘉昭 (単独)			
ナンバリングコード	JC-S143-110									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	必修				
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)									
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)									
教科目	選択必修科目(保育士)									
系 列	保育の内容・方法に関する科目									
授業のテーマ	乳幼児の造形表現活動の発達段階の理解、発達段階を踏まえた指導の留意点の理解、造形表現の保育指導案の作成方法の理解(専門的知識・技能)									
授業概要	この授業では、実際の乳幼児の造形表現の事例や成果物(作品)をもとに、造形表現活動に見られる特徴から乳幼児の発達段階をより詳しく理解し、表現に表れる幼児の気持ちや想定した指導の在り方を考察する。また教育要領、保育指針、教育・保育要領におけるねらい・内容を、具体的な活動と照らし合わせながらより深く理解し、乳幼児が主体的に造形表現活動に取り組めるように、具体的な留意点を踏まえて保育指導案を作成する力を身に付ける。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領での領域「表現」の位置づけを踏まえた造形表現のねらい及び内容を理解し、乳幼児が造形表現を通して身に付けていく内容と指導の留意点を理解するとともに、評価の考え方を理解している。							◎		
	2.表現を通して乳幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。							◎		
	3.乳幼児の視点から乳幼児の造形的な表現を捉え保育を構想する重要性を理解している。						○	◎		
	4.具体的な造形表現の指導案を作成し模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善・向上する視点を身に付けている。					○		◎	○	
5.乳幼児の体験をもととして、情報機器や教材(造形素材や題材)を保育に活用できる。						○	◎			
履修条件・注意事項	授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業等の併用									
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の遊びの実際と幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらい及び内容について(目標 1,2,3) 2. 実践事例から捉える幼児の造形表現の特質について(実践動画や画像をもとに)(目標 1,2,3) 3. 3歳未満児の描画発達と指導・評価の留意事項について(実践動画・画像や実物をもとに)(目標 1,2) 4. 3歳以上児の描画発達と指導・評価の留意事項について(実践動画・画像や実物をもとに)(目標 1,2) 5. 幼児画の特徴から幼児の発達と思い及び小学校教科とのつながりを探る(目標 2,3,5) 6. 立体的な活動に見られる発達と保育構想(目標 1,2,3,5) 7. 造形遊びと各種素材の活用について(目標 1,2,3,5) 8. 共同的な造形表現活動について(目標 1,2,3,5) 9. 造形表現の環境と準備物、保育における情報機器及び教材の活用(目標 1,2,3,5) 10. 模擬保育と保育の留意点について(目標 1,3,4,5)(オンデマンド) 11. 保育指導案作成の留意点について(目標 1,3,4,5)(オンデマンド) 12. 保育指導案の作成について(作成)(目標 3,4,5)(オンデマンド) 13. 模擬保育(絵遊びの指導案実践及び振り返り協議)(目標 3,4,5) 14. 模擬保育(造形遊びの指導案実践及び振り返り協議)(目標 3,4,5) 15. 保育指導案の作成について(手直し)(目標 3,4,5) 									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション									
成績評価基準	<p>評価の方法:小テスト(30%)、毎回の振り返りシート(30%)、指導案(20%)、授業への取り組み(20%)</p> <p>評価の基準:○小テスト * 知識・理解の定着度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの内容や授業内に解説した内容を扱った問題に回答できる。 <p>○毎回の振り返りシート * 知識・理解/関心・意欲を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を踏まえ、自分の理解したことや疑問点などを整理し、解決することができる。 <p>○指導案 * 知識・理解の定着度 * 思考・判断の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教わったルールを踏まえた上で、指導案を作成できる。 ・子どもの発達段階を想定した指導案を作成できる。 <p>○授業への取り組み * 関心・意欲・態度、表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真剣な態度で集中して取り組むことができる。 ・自分なりの疑問を持ち、積極的に質問や意見を表現できる。 									
フィードバックの方法	小テストを回収・採点后に返却し、答え合わせ後に再テストを行う。感想・質問用紙を回収し、次回授業時にディスカッションを行い、解説を加える。									
時間外の学習について	<p>予習:各回の授業計画を把握し、テキストを読んでおく。各回 20 分程度</p> <p>復習:授業内容の記録をまとめる。各回 25 分程度</p>									
教材にかかわる情報	<p>テキスト:「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」チャイルド社</p> <p>参考書:</p> <p>参考資料:花篤實・岡田愨吾「新造形表現(理論・実践編)」三晃書房</p>									
担当者からのメッセージ等実務経験について										

科目名	表現の指導法(造形Ⅲ) (1単位)		演習	保育学科	2年 前期	担当者	弘中 順一 (単独)			
ナンバリングコード	JC-S242-010									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭					
教 科 目	選択必修科目(保育士)									
系 列	保育の内容・方法に関する科目									
授 業 の テーマ	模擬保育を通して、環境構成や乳幼児の援助の専門的知識・技術について理解を深める。造形表現活動の実践力を高める。 (専門的知識・技能)									
授 業 概 要	保育現場で実際に行われる造形表現活動について幅広く取り上げ、模擬保育指導案を作成、実施する。実施した模擬保育について検討会を通してふり返り、造形表現の保育のあり方について再構築する。									
達 成 目 標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領での領域「表現」の位置づけを踏まえた造形表現のねらいや内容を理解し、乳幼児が造形表現活動を通して身につけていく内容と指導の留意点を理解するとともに、評価の考え方を理解している。					○		◎	○	
	2.表現を通して乳幼児が経験し身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。							○		
	3.乳幼児の視点から乳幼児の造形的な表現を捉え、保育を構想する重要性を理解している。						○	◎		
	4.具体的な造形表現の指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善・向上する視点を身につけている。							◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ									
授 業 計 画	1. 講義「保育実習での学びと模擬保育」造形表現設定保育の指導のあり方と指導案の書き方。模擬保育の計画。(目標 1,3) 2. 講義「つくって楽しい、遊んで楽しい製作あそび」保育後の検討会の持ち方。模擬保育題材の決定と指導案作成。(目標 1,3,4) 3. 講義「絵本から発展していく絵あそび」保育指導案の作成と模擬保育の準備。(目標 1,3,4) 4. 模擬保育①「造形あそび」(空間あそび)(目標 1,2,3,4,5) 5. 模擬保育②「造形あそび」(材料・構成あそび)(目標 1,2,3,4,5) 6. 模擬保育③「造形あそび」(操作・模倣あそび)(目標 1,2,3,4,5) 7. 模擬保育④「描く活動」(絵あそび)(目標 1,2,3,4,5) 8. 模擬保育⑤「描く活動」(想像、お話し絵)(目標 1,2,3,4,5) 9. 模擬保育⑥「描く活動」(表現技法からの絵あそび)(目標 1,2,3,4,5) 10. 模擬保育⑦「描く活動」(絵本からの絵あそび)(目標 1,2,3,4,5) 11. 模擬保育⑧「製作あそび」(動く仕組みを生かして)(目標 1,2,3,4,5) 12. 模擬保育⑨「製作あそび」(輪ゴムを使って)(目標 1,2,3,4,5) 13. 模擬保育⑩「製作あそび」(飾るものをつくる)(目標 1,2,3,4,5) 14. 模擬保育の反省①(保育者の関わり方と子どもの見とり方、保育指導案の修正)(目標 1,3,4) 15. 模擬保育の反省②(環境構成のあり方をもとに)(目標 1,2,3,4)									
アクティブ・ラーニング	模擬保育									
成績評価基準	評価の方法: 模擬保育指導案(30%)、模擬保育の準備・環境構成と実践(40%)、模擬保育検討会への取り組みとまとめ(30%) 評価の基準: ○模擬保育指導案 * 知識・理解の定着度、思考・判断の測定 ・子どもの発達を理解し、関心意欲を促すために導入の組み立てや関わり方を配慮して立案できる。 ○模擬保育の環境構成と実践 * 知識・理解の定着度、思考・判断の測定 ・導入において子どもの関心・意欲を起させる見せ方、関わり方を工夫できる。 ・子どもの良さを認めるまとめができる。 ○模擬保育検討会への取り組みとまとめ * 関心・意欲・態度、表現力の測定 ・真剣な態度で臨み、自分なりの意見や疑問を持って質問や意見を表現できる。まとめのファイル作成ができる。									
フィードバックの方法	各回の模擬保育をふり返り、指導案を修正する(教材、環境構成、保育者の関わり方について)検討会で協議したことについて、自分のコメントを入れる。自分で指導案を作成することで設定保育の再構築を図る。									
時間外の学習について	予習: 模擬保育のための教材研究、模擬保育指導案の作成、模擬保育実施のための準備をする。(各回 20 分程度) 復習: 模擬保育実施後の反省、修正案の作成、他学生の模擬保育について再構成をまとめる。(各回 25 分程度)									
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 参考資料: 画集「明日をひらく子」: 山口県子どもの造形を考える会(弘中順一編)									
担当者からのメッセージ等実務経験について	保育現場で実際に保育した事例をもとに環境構成、教材化、保育の流れ等のあり方について話をします。実習で実施する設定保育のあり方について、子どもの興味・関心のみとりから子ども主体の保育展開について話をします。									

科目名	表現の指導法(造形Ⅳ) (1単位)		演習	保育学科	2年 後期	担当者	弘中 順一 (単独)			
ナンバリングコード	JC-S243-010									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭					
教科目	選択必修科目(保育士)									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業のテーマ	模擬保育を通して、環境構成や乳幼児の援助の専門的知識・技術について理解を深める。造形表現活動の実践力を高める。 (専門的知識・技能)									
授業概要	造形遊び、描く活動、製作あそびなど保育における造形表現活動を幅広く取り上げ、保育指導案を作成する。 模擬保育とその振り返りをもとに造形表現の保育のあり方について検討する。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定子ども園教育・保育要領での領域「表現」の位置づけを踏まえた造形表現のねらいや内容を理解し、乳幼児が造形表現活動を通して身につけていく内容と指導の留意点を理解するとともに、評価の考え方を理解している。					○		◎	○	
	2.表現を通して乳幼児が経験し身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。							○		
	3.乳幼児の視点から乳幼児の造形的な表現を捉え、保育を構想する重要性を理解している。						○	◎		
	4.具体的な造形表現の指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善・向上する視点を身につけている。							◎		
	5.乳幼児の体験に適した造形素材を加工し、保育に活用できる。					○		○	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ									
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絵あそびの保育のポイント、保育ドキュメンテーション・付箋による検討会について、模擬保育の計画、指導案作成(目標 1,2) 2. 触感覚を育てる造形あそびのポイント、模擬保育・検討会①、模擬保育・検討会②(目標 1,2,3,4,5) 3. 造形における幼保小の連携・接続のポイント、模擬保育・検討会③、模擬保育・検討会④(目標 1,2,3,4,5) 4. 描く活動の保育のポイント、模擬保育・検討会⑤、模擬保育・検討会⑥(目標 1,2,3,4,5) 5. 製作あそびの保育のポイント、模擬保育・検討会⑦、模擬保育・検討会⑧(目標 1,2,3,4,5) 6. 子どもの思いと表現、模擬保育・検討会⑨、模擬保育・検討会⑩(目標 1,2,3,4,5) 7. 作品の見方・とらえ方、模擬保育・検討会⑪、模擬保育・検討会⑫(目標 1,2,3,4,5) 8. 保育の中の造形表現、模擬保育・検討会⑬、模擬保育・検討会⑭(目標 1,2,3,4,5) 9. 子どもの思いと援助のあり方、模擬保育・検討会⑮、模擬保育・検討会⑯(目標 1,2,3,4,5) 10. 環境を通した保育のポイント・壁面構成のあり方、壁面構成模擬保育指導案作成(目標 1,2,3,4,5) 11. 子どもの絵の見方と保育のあり方、壁面構成の模擬保育準備(目標 1,2) 12. 作品展と子どもの表現のあり方、壁面構成の模擬保育①(物語をテーマにした壁面構成)(目標 1,4,5) 13. 壁面構成の模擬保育②(季節をテーマにした壁面構成)(目標 1,4,5) 14. 壁面構成の模擬保育③(行事をテーマにした壁面構成)(目標 1,4,5) 15. 壁面構成(完成)(目標 1,4,5)、表現の指導法のまとめ(目標 1,2,5) 									
アクティブ・ラーニング	模擬保育									
成績評価基準	<p>評価の方法: 指導案作成(30%)、模擬保育の準備と実践(40%)、検討会への取り組みとまとめファイルの作成(30%)</p> <p>評価の基準: ○指導案作成 * 知識理解の定着度 * 思考判断の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を理解し、意欲関心を促すために導入の組み立てや関わり方を配慮して立案できる。 ○模擬保育の準備と実践 * 知識理解の定着度 * 思考判断の測定 ・導入において子どもの関心意欲を起こさせる見せ方、関わり方を工夫できる。 ・子どもの良さを認めるまとめができる。 ○検討会への取り組みとまとめファイルの作成 * 関心・意欲・態度、表現の測定 ・真剣な態度で臨み、自分なりの意見や疑問を持って質問や意見を表現できる。 									
フィードバックの方法	毎回の模擬保育を振り返り、指導案を修正する。協議したことをもとに、ポイントにコメントを入れながら自分の意見をまとめる。同じ内容で、新たな題材を考え、保育指導案として立案し、ファイルにまとめる。									
時間外の学習について	<p>予習:造形表現活動の題材の選択、模擬保育案の作成(各回 20 分程度)</p> <p>復習:模擬保育をもとに指導案を再構成し、検討会での反省をまとめる(各回 25 分程度)保育ドキュメンテーションの作成</p>									
教材にかかわる情報	<p>テキスト:特になし</p> <p>参考書:特になし</p> <p>参考資料:画集「明日をひらく子」 山口県子どもの造形を考える会 弘中順一編</p>									
担当者からのメッセージ等実務経験について	保育現場で実際に保育をした事例を紹介します。子どもを主体にする題材のあり方、保育者の関わり方について検討します。									

科目名	保育方法論 (2単位)		講義	保育学科	2年 前期	担当者	中原 久子 (実務経験) (単独)			
ナンバリングコード	JC-S244-110									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	必修				
教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(幼稚園)									
各科目に含めることが必要な事項	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)									
教 科 目	選択必修科目(保育士)									
系 列	保育の内容・方法に関する科目									
授業のテーマ	乳幼児期に経験させたい保育内容や保育実施のための保育形態・保育方法について理解する。(専門的知識・技能)									
授業概要	この講義で幼稚園教諭としての基本的な資質を養うとともに、幼児の幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる5つの領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定しながら保育を構想する方法を学ぶ。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、幼稚園教育の全体構造を理解する。						◎		◎	
	2.幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び指導上の留意点を学び、小学校の教科等とのつながりを理解する。							◎	○	
	3.幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した指導案の作成や、保育を構想する方法を学ぶ。								◎	
4.各領域の特性及び幼児の体験との関連を考慮した、情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想の向上に取り組むことの重要性を学ぶ。								○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ									
授業計画	1. 幼稚園教育の目的と目標及び今日の幼児教育の在り方について(目標 1) 2. 幼稚園教育要領に示された「生きる力」の基礎となる資質・能力の「3つの柱」について(目標 1,2) 3. 幼稚園教育の各領域のねらい・内容・内容の取り扱いについて(目標 1,2) 4. 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について(目標 1,2,3) 5. 幼稚園教育要領で示された「主体的・対話的で深い学び」について(目標 1,2,3,4) 6. 幼稚園教育におけるカリキュラム・マネジメントとPDCA サイクルについて(目標 1,2,3,4) 7. 幼稚園教育における評価のとらえ方について(目標 1,2,3) 8. 保育の計画と実践(1)－日案作成と保育実践の評価・反省:3歳児について(目標 1,2,3,4) 9. 保育の計画と実践(2)－日案作成と保育実践の計画・反省:4歳児について(目標 1,2,3,4) 10. 保育の計画と実践(3)－日案作成と保育実践の計画・反省:5歳児について(目標 1,2,3,4) 11. こどもの「なぜ」「どうやって」が入ってくるような深い学びの活動や遊びの展開についての指導案の立案・模擬保育について(目標 1,2,3,4) 12. 模擬保育とその振り返り・保育の改善について(目標 1,2,3) 13. 幼稚園教育における教材の捉え方・情報機器活用について(目標 1,2,3,4) 14. 幼児が5領域で経験し身につけていく内容の関連性及び小学校教育との接続について(目標 1,2,3,4) 15. 教師の役割とその専門性について(目標 1,2) 定期試験									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、模擬保育									
成績評価基準	評価の方法: 毎回授業終了時の小レポート・指導案の作成(30%)、試験(70%) 評価の基準: ○毎回授業終了時の小レポート・指導案の作成 * 思考・判断、関心・意欲の測定 ・教職に対する受講生の適性や意欲を表明できる ○試験 * 知識・理解、技能・表現の測定 ・幼稚園教育に関する基礎的・基本的事項を理解している ・保育を構想する方法を修得している									
フィードバックの方法	コメントをつけて返却する。									
時間外の学習について	予習: 次の授業で扱う内容を事前に読んでおくこと。製作課題がある場合は事前に下準備をすること。各回90分程度。 復習: 授業で扱った内容を見返し、整理すること。各回90分程度。									
教材にかかわる情報	テキスト: 森上史郎・渡辺英則・大豆田啓友(編)『保育方法・指導法の研究』ミネルヴァ書房 神長美津子・津金美智子・五十嵐市郎(編著)『保育方法論』株式会社光生館 参考書: 文部科学省『幼稚園教育要領』/厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料:									
担当者からのメッセージ等実務経験について	幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとにこれからの保育を創造するための保育の方法について話をします。									

科目名	保育リトミック I (1単位)		演習	保育学科	2年 前期	担当者	植山 典子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S245-011						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭		
教科目	選択必修科目(保育士)						
系 列	保育の内容・方法に関する科目						
授業のテーマ	3歳児対象のリトミックの指導法を学ぶ。(専門的知識・技能、汎用的能力)						
授業概要	様々な角度からリズムという素材にアプローチする。保育現場での実践に役立つリトミック指導法を学ぶ。						
達成目標						科目 DP(ディプロマポリシー): (3)	
						DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.リトミックの理論を理解する。						◎ ○
	2.3歳児対象のリトミックの指導ができる。					○	◎ ○
3.リズムを表現する基礎的な動きができる						◎ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	<p>1. リトミックについて・楽しいリトミックの経験①(導入) (目標 1,3)</p> <p>2. 楽しいリトミックの経験②(即時反応)、強弱・テンポ・空間・アクセント、基礎的な動き①(クラブの仕方)、基礎リズム①(2拍子の基礎リズムの作り方) (目標 3)</p> <p>3. 3歳児指導法・リズムの演奏法(1学期前半) (目標 2)</p> <p>4. 3歳児指導法・リズムの演奏法(1学期後半) (目標 2)</p> <p>5. 楽しいリトミックの経験③(数の把握)、基礎的な動き②(ステップの仕方)、基礎リズム②(リズム唱)、拍子①(導入) (目標 3)</p> <p>6. 3歳児指導法・リズムの演奏法(2学期前半) (目標 2)</p> <p>7. 3歳児指導法・リズムの演奏法(2学期後半) (目標 2)</p> <p>8. 楽しいリトミックの経験④(拍の把握)、基礎リズム③(2拍子のリズムステップ)、拍子②(2・3・4拍子) (目標 3)</p> <p>9. 3歳児指導法・リズムの演奏法(3学期前半) (目標 2)</p> <p>10. 3歳児指導法・リズムの演奏法(3学期後半) (目標 2)</p> <p>11. 楽しいリトミックの経験⑤(拍子の把握)、基礎リズム④(3・4拍子)、拍子③(総合) (目標 3)</p> <p>12. 楽しいリトミックの経験⑥(教具を使って)、リズムカノン①(導入)、リズムフレーズ①(導入) (目標 3)</p> <p>13. リズムの演奏法(3歳児指導法-1~3学期) (目標 2)</p> <p>14. 試験課題練習</p> <p>15. リトミックの理論とダルクローズについて①(基礎知識)、まとめ (目標 1,2,3)</p> <p>「資格認定試験」(14回と15回の間に行う)</p>						
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ						
成績評価基準	<p>評価の方法:試験 60%、課題に対する取り組み 20%、授業態度・授業への参加度 20%</p> <p>評価の基準: ○試験 * 知識・理解、技能・表現を測定</p> <p>- 「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」の認定条件(70点以上)をクリアしている</p> <p>○課題に対する取り組み * 思考・判断、関心・意欲・態度を測定</p> <p>・授業内容を踏まえて、実践できる</p> <p>○授業態度、授業への参加度 * 関心・意欲・積極性を測定</p> <p>・活動に意欲的である</p>						
フィードバックの方法	課題の返却の際に、コメント・アドバイスを記入する。						
時間外の学習について	<p>予習: 毎回の授業計画を確認し、「3歳児指導法、リズムの演奏法」の回はテキストを読み、ピアノの練習をしておくこと。各回 25分程度</p> <p>復習: 実技小テストを行うので練習しておくこと。各回 20分程度</p>						
教材にかかわる情報	<p>テキスト:「幼稚園・保育園のためのリトミック～年間カリキュラムとその実践～(3歳児)」(リトミック研究センター)</p> <p>参考書:</p>						
担当者からのメッセージ等実務経験について	<p>実習先でも積極的にリトミックをしてください。短時間でも毎日必ずピアノに向かいましょう。</p> <p>「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」取得のための授業である。</p> <p>動きやすい服装(スカートのみは不可)と、素足、又はバレエシューズで受講すること。</p> <p>リトミック研究センター山口第一支局チーフ指導者及びローランド・ミュージック・スクール幼児科指導スタッフ。それぞれの研修会・講習会での講師を担当。県内外での研修、県内での保育士研修、幼稚園・保育園での課内授業、又、自身の運営する教室での実務経験をもとに、リトミック指導について話し、実践をします。</p>						

科目名	保育リトミックⅡ (1単位)		演習	保育学科	2年 後期	担当者	植山 典子 (実務経験) (単独)			
ナンバリングコード	JC-S246-011									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭					
教科目	選択必修科目(保育士)									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業のテーマ	4歳児・5歳児対象のリトミックの指導法を学ぶ。(専門的知識・技能、汎用的能力)									
授業概要	様々な角度からリズムという素材により深くアプローチする。保育現場での実践に更に役立つリトミック指導法を学ぶ。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.4歳児対象のリトミックの指導ができる。						○		◎	
	2.5歳児対象のリトミックの指導ができる。						○		◎	
	3.リズムを表現する実践的な動きができる。								○	◎
4.リトミックの理論を理解する							◎	○		
履修条件・注意事項	「保育リトミックⅠ」の単位を取得済みの者 授業の実施方法:①面接授業のみ									
授業計画	1. 4歳児指導法・リズムの演奏法(1学期) (目標 1) 2. 4歳児指導法・リズムの演奏法(2学期) (目標 1) 3. 楽しいリトミックの経験⑦(ソルフェージュ)、リズムカノン②(3拍子)、リズムフレーズ②(2拍子) (目標 3) 4. 4歳児指導法・リズムの演奏法(3学期) (目標 1) 5. リズムの演奏法(4歳児指導法1～3学期) (目標 1) 6. 5歳児指導法・リズムの演奏法(1学期) (目標 2) 7. 楽しいリトミックの経験⑧(歌あそび)、リズムカノン③(4拍子)、複リズム Ostinato(J)①(導入) (目標 3) 8. 5歳児指導法・リズムの演奏法(2学期) (目標 2) 9. 5歳児指導法・リズムの演奏法(3学期) (目標 2) 10. リズムの演奏法(5歳児指導法1～3学期) (目標 2) 11. 楽しいリトミックの経験⑨(身体表現)、リズムカノン④(3、4拍子)、複リズム Ostinato(J)②(よく知っている曲を使って) (目標 3) 12. リズムの演奏法(4歳児・5歳児総合) (目標 1,2) 13. 楽しいリトミックの経験⑩(総合)、リズムカノン⑤(2、3、4拍子)、複リズム Ostinato(J)③(基礎リズムで) (目標 3) 14. 試験課題練習 15. リトミックの理論とダルクローズについて②(復習)、まとめ (目標 1,2,3,4) 「資格認定試験」(14回と15回の間に行う)									
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ									
成績評価基準	評価の方法: 試験 60%、課題に対する取り組み 20%、授業態度・授業への参加度 20% 評価の基準: ○試験 * 知識・理解、技能・表現を測定 - 「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格1級」の認定条件(70点以上)をクリアしている ○課題に対する取り組み * 思考・判断、関心・意欲・態度を測定 ・授業内容を踏まえて、実践できる ○授業態度、授業への参加度 * 関心・意欲・積極性を測定 ・活動に意欲的である									
フィードバックの方法	課題の返却の際に、コメント・アドバイスを記入する。									
時間外の学習について	予習: 毎回の授業計画を確認し、「4歳児・5歳児指導法、リズムの演奏法」の回はテキストを読み、ピアノの練習をしておくこと。各回 25分程度 復習: 実技小テストを行うので練習しておくこと。各回 20分程度									
教材にかかわる情報	テキスト: 「幼稚園・保育園のためのリトミック～年間カリキュラムとその実践～(4歳児)(5歳児)」(リトミック研究センター) 参考書:									
担当者からのメッセージ等実務経験について	実習先でリトミックをしたら、その報告をしてください。毎日ピアノに向かう習慣をつけましょう。 「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格1級」取得のための授業である。 動きやすい服装(スカートのみは不可)と、素足、又はバレエシューズで受講すること。 リトミック研究センター山口第一支局チーフ指導者及びローランド・ミュージック・スクール幼児科指導スタッフ。それぞれの研修会・講習会での講師を担当。県内外での研修、県内での保育士研修、幼稚園・保育園での課内授業、又、自身の運営する教室での実務経験をもとに、リトミック指導について話し、実践をします。									

科目名	乳児保育 I (2単位)		講義	保育学科	1年 前期	担当者	磯部 恵子 (実務経験) (単独)				
ナンバリングコード	JC-S147-010										
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭						
教科目	必修科目(保育士)										
系列	保育の内容・方法に関する科目										
授業のテーマ	乳児保育の意義と基本、乳児の発達と保育内容、保育者の援助の専門知識について学び、保育現場での実践に活かす。 (専門的知識・技能、創造的思考力)										
授業概要	乳児保育の意義と基本について学ぶ。また、3歳未満児の発達と保育内容、保育者の援助や関わりについて理解を深める。 * 本科目における乳児保育は3歳未満児の保育を指す。										
達成目標							科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
							DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。						◎	◎	◎		
	2.保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。						○	◎	◎		
	3.3歳未満児の発育、発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の保育の内容について理解する。						◎	○	◎		
4.職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。						○	◎	◎			
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ										
授業計画	1. 乳児保育の理念-(目標1)乳児の手遊び実践発表について(2~15回グループでの発表)(目標3) 2. 乳児保育の制度と課題-子ども・子育てをめぐる社会的状況と課題(目標2) 3. 3歳未満児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場(目標2) 4. 乳児保育の基本(目標1,2) 5. 乳児保育における養護及び教育(目標1,2) 6. 保育の計画と乳児保育(目標1,2) 7. 3歳未満児の心身の発達-身体及び運動の発達(目標3) 8. 3歳未満児の心身の発達-言葉とコミュニケーションの発達(目標3) 9. 3歳未満児の心身の発達-認知の発達(目標3) 10. 3歳未満児の心身の発達-人間関係の発達(目標3) 11. 0歳児~満3歳児の生活と環境(目標3) 12. 0歳児~満3歳児の遊びと環境(目標3) 13. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり(目標3) 14. 乳児保育における連携-職員間の連携・協働・地域の関係機関との連携-(目標4) 15. 乳児保育における連携-保護者との連携-(目標4) ◎定期試験										
アクティブ・ラーニング	模擬保育										
成績評価基準	評価の方法:定期試験50%、授業態度20%、授業内レポート・課題30% 評価の基準:○定期試験 * 知識・理解の定着度を測定 ・教科書や講義で学んだ問題に回答できる。 ○授業態度 * 関心・意欲の測定 思考・判断の測定 ・記述内容が適切である。 ・積極的に発言する。 ・グループでの活動に積極的である。 ○レポート/課題 * 知識・思考・判断/意欲・表現の測定 ・学んだことに対して自説を述べるができる。 ・学んだことを根拠に発達の表の作成ができる。										
フィードバックの方法	課題を回収しコメントを入れて返却する。										
時間外の学習について	予習:乳児の手遊びについて調べる。自分の生育歴や学んだことから発達の表をつくる。(各回90分程度) 復習:発達段階についてまとめる(60分) テストを行うので資料、テキストを読み復習しておくこと(各回90分程度)										
教材にかかわる情報	テキスト:「乳児保育 一人一人を大切に」加藤敏子編著、富永由佳著、萌文書林、2019年 ¥1,760 978-4-89347-342-4 参考書: 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針 幼稚園教育要領「チャイルド社」 参考資料: 都度適宜紹介する。(ビデオ、資料など)										
担当者からのメッセージ等実務経験について	レポート、課題の提出は期限を守るようにする。 保育士・園長として保育園に勤務。実務経験を基にして、乳幼児の発達、保育の内容、援助について話をします。										

科目名	乳児保育Ⅱ (1単位)		演習	保育学科	1年 後期	担当者	磯部 恵子 (実務経験) (単独)			
ナンバリングコード	JC-S148-010									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭					
教科目	必修科目(保育士)									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業のテーマ	乳児一人一人の発達を促す環境、生活と遊び、保育の計画、記録、評価、乳児の指導案の立案について学ぶ。また、地域過程との連携、保健衛生及び安全についての専門知識を身につける。(専門的知識・技能、創造的思考力)									
授業概要	乳児保育Ⅰで学んだことを基に実践事例を通して個々の発達を促す生活と遊びについて理解を深める。また、保育の計画、記録、評価について学び、乳児の保育指導案作成に取り組む。また、乳児の健康・安全、家庭や地域との連携について理解を深める。 * 本科目における乳児保育は3歳未満児の保育を指す									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わりの方の基本的考え方について理解する。							◎	◎	
	2.養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に学ぶ。						○	◎	○	
	3.乳児保育における配慮の実践について具体的に学ぶ。								◎	○
	4.乳児保育における計画の作成について具体的に学ぶ。						◎	◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ									
	5.保育者の資質と専門性について理解する。					○	◎			◎
授業計画	<p>1. 3歳未満児の生活の流れ(目標 1,2) 歌遊びの実践(2~15回)グループでの模擬保育(目標 2,4)</p> <p>2. 3歳未満児の保育環境-0歳児クラス- (目標 1,2)</p> <p>3. 3歳未満児の保育環境-1歳児・2歳児クラス- (目標 1,2)</p> <p>4. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践 -食事- (目標 1,2,3)</p> <p>5. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践 -排泄- (目標 1,2,3)</p> <p>6. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践 -睡眠- (目標 1,2,3)</p> <p>7. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践 -着脱・清潔- (目標 1,2,3)</p> <p>8. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践 -新聞紙で遊ぶ- (目標 2,3,4)</p> <p>9. 3歳未満児の発育発達を踏まえた遊びと援助の実践 -小麦粉粘土で遊ぶ- (目標 2,3,4)</p> <p>10. 長期的な指導計画と短期的指導計画 (目標 4)</p> <p>11. 個別的な指導計画と集団の指導計画 (目標 4)</p> <p>12. 実践事例を通して指導案の作成、記録、評価について考える (目標 2,3,4)</p> <p>13. 子どもの心身の健康・安全・情緒の安定を図るための配慮-集団での生活における配慮-(目標 1,3)</p> <p>14. 子どもの心身の健康・安全・情緒の安定を図るための配慮-子どもの病気と対応-(目標 1,3)</p> <p>15. 乳児保育の基本-保育者の資質と専門性について-(目標 1,2)</p> <p>◎ 定期試験</p>									
アクティブ・ラーニング	模擬保育 グループワーク									
成績評価基準	<p>評価の方法: 定期試験 50%、授業態度(模擬保育を含む)20%、授業内レポート・課題 30%</p> <p>評価の基準: ○定期試験 * 知識・理解の定着度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や講義で学んだ問題に回答できる。 ・応用レベルの問題に解答できる。 <p>○授業態度 * 関心・意欲の測定 技能・表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動が積極的に取り組むことができる。 ・保育に活かせる活動に対して意欲的に取り組むことができる。 <p>○レポート/課題 * 知識・思考・判断の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にして自説を述べている。 ・ねらいや発達の姿に沿って指導案の立案ができる。 									
フィードバックの方法	課題を回収しコメントを入れて返却する。									
時間外の学習について	<p>予習: 乳児の絵本や歌遊びについて調べ、模擬保育について準備する。(各回 90分)</p> <p>復習: テストを行うので資料、教科書を読み復習しておくこと(各回 90分)</p>									
教材にかかわる情報	<p>テキスト:「乳児保育 一人一人を大切に」加藤敏子編著、富永由佳著、萌文書林、2019年 ¥1,760 978-4-89347-342-4</p> <p>参考書: 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「チャイルド社」</p> <p>参考資料: その都度適宜紹介する(ビデオ、資料など)</p>									
担当者からのメッセージ等実務経験について	事例を通して3歳未満児の保育の計画や方法を学んでいきます。積極的な態度で臨んで下さい。保育士・園長として保育園に勤務。実務経験を基にして、乳幼児の発達、保育の内容、援助について話をします。									

科目名	特別支援の保育・教育概論 (2単位)		演習	保育学科	2年 後期	担当者	岡本 実 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S226-110						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修	
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)						
各科目に含めることが必要な事項	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解						
教科目	必修科目(保育士)						
系 列	保育の内容・方法に関する科目						
授業のテーマ	保育・教育現場に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童が達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童の学習上又は生活上の困難を理解し、個別のニーズに対して他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。(専門的知識・能力)						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育所等における障害児保育の意義を知り、現状を把握する。 ・特別な支援を必要とする幼児、児童の援助法について、具体的かつ実践的に学習する。 						
達成目標							科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)
							DP 番号
							(1) (2) (3) (4)
	1.特別な支援を必要とする幼児・児童の障害特性や発達、発達支援について理解する。						◎
2.特別な支援を必要とする幼児・児童の保護者との連携や両者にかかわる保健・医療・福祉・教育等の関係機関との連携や協働について理解する。						◎	
3.障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育実践について理解を深める。						◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(授業の概要、発達障害とは、障害の社会モデル) (目標 1,2) 2. 特別な支援を必要とする児童の概要(子育て環境の変容、発達障害、児童虐待、貧困) (目標 1,2) 3. 障害児教育・保育の歴史と現状、課題(障害児教育・保育を支える理念、現状と課題) (目標 1,2) 4. 関係機関との連携と保護者支援 (目標 1,2) 5. 特別支援教育の実際(特別支援を必要とする児童の教育の制度、教育課程) (目標 1,2) 6. 障害児保育の実際(保育所等における障害児保育) (目標 1,2) 7. 知的障害のある児童の理解と援助 (目標 1,3) 8. 自閉症スペクトラム障害のある児童の理解 (目標 1,3) 9. 自閉症スペクトラム障害のある児童の援助 (目標 1,3) 10. 運動障害のある児童の理解と援助 (目標 1,3) 11. コミュニケーション障害のある児童の理解と援助 12. てんかんや病弱児の理解と援助 (目標 1,3) 13. 障害のある児童を理解するためのアセスメント (目標 1,3) 14. 個別支援計画作成演習 (目標 1,3) 15. まとめ (目標 1,2,3) 定期試験						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク						
成績評価基準	<p>評価の方法: 定期試験 50%、小テスト・授業内レポート・授業への参加度 50%</p> <p>評価の基準: 定期試験(授業で扱った内容を理解している)、小テスト・授業内レポート・授業への参加度(授業に積極的に参加している)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小テスト・授業内レポート・授業への参加度 * 関心・意欲、思考・判断の測定 <ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加している ・授業で扱った内容を理解し、記述できる ○定期試験 * 知識・理解の定着度の測定 <ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育に関する応用的な課題に回答できる 						
フィードバックの方法	ワークシートやレポートについてコメントや助言を行う。						
時間外の学習について	<p>予習: 次回の学習内容について、テキストの関連箇所を目を通し、ポイントを整理する。各回 45 分程度</p> <p>復習: 授業内容の整理、復習を行う。毎回 45 分程度</p>						
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 「障害のある子どもの保育・教育の実践」中山智哉編著 2022 年 学文社 ISBN:978-4-7620-3121-2</p> <p>参考書: <平成 29 年告示>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、特別支援学校幼稚部教育要領</p> <p>参考資料等:</p>						
担当者からのメッセージ等実務経験について	近年、障害児支援の分野では、障害者権利条約の批准、特別支援教育や障害児通所支援の創設など、大きな変化の中にあります。障害児支援に長年携わってきた経験をもとに、障害児支援の醍醐味について伝えていきたいと考えています。						

科目名	社会的養護Ⅱ (1単位)		演習	保育学科	2年 後期	担当者	川村 宏司 (実務経験) (単独)	
ナンバリングコード	JC-S249-010							
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭			
教科目	必修科目(保育士)							
系列	保育の内容・方法に関する科目							
授業のテーマ	社会的養護の方向性と、家族・子どもへの支援のあり方を「子どもの最善の利益」という視点で探求し、考察する。 (広い見識、専門知識、技能、実践力)							
授業概要	子どもの権利や保育士等の倫理や責務について理解を深め、施設養護と家庭養護の実際を学ぶ。事例を通して、日常生活支援・治療的支援・自立支援の支援内容を具体的に検討し考察を行う。相談援助の知識・技術・方法を理解し、具体的な実践の場を想定し、ソーシャルワークの知識や視点を持った対応の方法を学ぶ。家庭支援・児童家庭福祉・地域福祉について理解や認識を深め、社会的養護の課題と展望について検証、考察を行う。(専門的知識・技能)							
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)		
						DP 番号	(1) (2) (3) (4)	
	1.社会的養護における児童の権利擁護と保育士等の倫理について具体的に学ぶ。					○	◎	○
	2.施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ。					◎	○	○
	3.社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について学ぶ。						○	◎
	4.社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法・技術について理解する。						○	◎
履修条件・注意事項	5.社会的養護の課題とこれからの展望について、児童家庭福祉、地域福祉について理解する。						◎	○
	授業の実施方法:面接授業のみ							
	授業計画	1. 子どもの権利擁護について理解し、その取り組みや支援の質の向上を図るための方法について学ぶ。(目標 1,3)						
		2. 社会的養護における子どもの理解について学ぶ。(目標 1,2)						
		3. 日常生活支援に関する事例分析を通してグループ討議等を行い、理解を深める。(目標 1,3,4)						
		4. 治療的支援に関する事例分析を通してグループ討議等を行い、理解を深める。(目標 1,3,4)						
5. 自立支援に関する事例分析を通してグループ討議等を行い、理解を深める。(目標 1,3,4)								
6. 施設養護の生活特性及び実際(乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設)について理解する。(目標 2,3)								
7. 施設養護の生活特性及び実際(児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児施設)について理解する。(目標 2,3)								
8. 家庭養護の生活特性及び実際(里親・ファミリーホーム事業・養子縁組制度)について理解する。(目標 2,3)								
9. 自立支援計画策定について理解し、アセスメントを行う上での視点を学ぶ。(目標 1,2,3,4)								
10. 事例をもとに、自立支援計画の策定を通して、子どもの自立への理解を深める。(目標 1,2,3,4)								
11. 記録の意義と役割・自己評価について学び、理解を深める。(目標 1,2,3)								
12. 児童福祉施設における保育士の位置づけを理解し、社会的養護における保育士の専門性について学ぶ。(目標 1)								
13. ソーシャルワークの意味・必要性知識を理解し、実践におけるソーシャルワークについて考察する。(目標 1,3,4)								
14. 社会的養護における家庭支援について理解を深める。(目標 1,3,4)								
15. 社会的養護の課題と展望について理解を深め、考察する。(目標 2,4)								
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ロールプレイ							
成績評価基準	<p>評価の方法:授業態度(30%)・小テスト・レポート(30%)・定期試験(40%)</p> <p>評価の基準:○授業態度 * 関心・意欲の測定 * 態度の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に発言する。 ・グループワーク、ロールプレイ等に積極的に参加している。 <p>○小テスト・レポート 定期試験 * 知識・理解の定着度を測定 * 思考・判断を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストに載っている知識を扱った問題に解答できる。 ・子どもの権利擁護の視点をもって自説を述べる事ができる。 							
フィードバックの方法	講義後のコメントシートに対して、次回の授業冒頭に講評等を行う。							
時間外の学習について	<p>予習:次回の授業のキーワードを提示し、それについて調べておく。各回 30 分程度。</p> <p>復習:テキスト・配布資料を見て、授業内容を確認しておく。各回 45 分程度。</p>							
教材にかかわる情報	<p>テキスト:特になし。</p> <p>参考書:特になし。</p> <p>参考資料等:適宜配布。</p>							
担当者からのメッセージ等実務経験について	児童養護施設実務経験:子どもとのかかわりを通して、子どもがどのように感じていたか等のエピソードを話します。社会的養護社会的養護に関する新聞記事やテレビ等の報道に関心を持ち、子どもの権利擁護の視点で考察してください。							

科目名	幼児理解と教育相談 (2単位)		講義	保育学科	2年 前期	担当者	山根 望 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S227-100						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭	必修
教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(幼稚園)						
各科目に含めることが必要な事項	・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法						
授業のテーマ	児童の発達 発達の課題 相談援助(専門的知識・技能、汎用的能力)						
授業概要	現在の教育現場が抱える問題や課題について考察しながら、子どもや保護者と信頼関係を結び、よりよい教育相談を実施できるように専門的知識と態度、及びカウンセリング理論について講義やロールプレイを通して学ぶ。						
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)	
						DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1. 幼児の心身の発達を理解し、幼児についての理解を深める。						◎
	2. 教育相談の意義と理論を理解する。						○ ◎
3. 教育相談における実際(計画と実施)について理解し、現代的課題に対応できる知識と技術を習得する。						○ ◎ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	1. 教育相談の意義と役割(目標 2) 2. 教育相談の歴史と教育現場における現代的課題(目標 2) 3. 子どもの発達理解と相談支援(乳幼児期から思春期まで)(目標 1) 4. 教育相談のための子ども理解(個と集団の観察及び記録・発達検査)(目標 1,3) 5. 教育相談の計画と活動の実際(幼児教育現場を中心に)(目標 3) 6. カウンセリング理論や技法の理解(目標 2,3) 小テスト 7. 子どものつまずき①:不登校(園)に対する理解と対応(目標 1,3) 8. 子どものつまずき②:いじめの理解と対応(目標 1,3) 9. 子どものつまずき③:発達障害及び学習障害の理解と対応(目標 1,3) 10. 子どものつまずき④:反社会的行動や情緒障害の理解と対応(目標 1,3) 11. 性的マイノリティ(LGBT)の理解と対応(目標 1,3) 12. 児童虐待の理解と対応(目標 1,3) 13. 事件、事故、災害時の組織的危機対応と子どもへの心のケア(目標 1,3) 14. 保護者心理の理解と保護者対応(目標 3) 15. 幼保小の連携、他職種との連携、及び社会資源の活用(目標 2,3)小テスト						
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、ディスカッション、グループワーク						
成績評価基準	評価の方法:授業態度(10%)、レポート(20%)、小テスト(70%) 評価の基準:教育相談の意義について理解し、基本的知識と基本的技法を習得している。 ○授業態度 ※関心・意欲の測定 ・ワークシートへの記述内容が適切である。・積極的な発言がある。 ○レポート * 知識・理解、思考・判断を測定 ・授業内容を踏まえ、自説を述べるができる ○小テスト * 知識・理解の定着を測定 ・幼児理解及び教育相談に関する専門的知識を習得している ・幼児理解及び教育相談に関する事柄について説明できる						
フィードバックの方法	ワークシート及び定期試験については、実施後に解答及び模範記述を希望者は閲覧できる。						
時間外の学習について	予習:ニュースや新聞に目を通し、子どもとその家庭の教育的課題を把握する。(各回 90 分程度) 復習:授業内容に該当するテキストの内容をよく読んでおく。(各回 90 分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト:授業内容に関する資料を毎回配布する。 参考書:参考資料:						
担当者からのメッセージ等実務経験について	公認心理師・臨床心理士経験:スクールカウンセラー経験をもとに、子どもの発達や特性の理解、子どもの精神保健および心理的支援、及び保護者に対する支援について話をします。						

科目名	保育内容の理解と方法・健康 (1単位)		演習	保育学科	1年 前期	担当者	吉野信朗、船場大資 (複数)
ナンバリングコード	JC-S151-110						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	選択必修	
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)						
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項						
教科目	選択必修科目(保育士)						
系 列	保育の内容・方法に関する科目						
授業のテーマ	乳幼児期の「健康」に関わる専門的な知識を身につける。とりわけ、子どもの心身の発育、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達の専門的事項に関する知識を習得する。また、子どもの健康管理の基礎理解や、地域での取り組みについての理解を深める。(専門的知識・技能、創造的思考力)						
授業概要	乳幼児期の生活や遊びの中から、子どもの身体の発育や運動機能や生理的機能の発達、及び、情緒の安定など、子どもの心身の発育発達を学ぶとともに、子どもの体力や健康を評価する方法を学ぶ。また、領域「健康」を踏まえた子どもの成長を支える環境構成や安全教育や危機管理など、保育に必要な専門的知識などについて考えていく。また、現場や自治体で行われている取り組みについても学び、子どもの健康的な生活習慣を考察する。						
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1.保育の基本を踏まえた領域「健康」のねらい及び内容を理解する。			○	◎		
	2.乳幼児期の身体の発育の機序と保育者としての関わり方を理解する。			○	○	○	
	3.子どもの安全を確保するための指導上の留意点を理解する。				○	◎	
4.乳幼児期の生活習慣とその援助と改善する視点を身につける。			◎	○			
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	1. オリエンテーション・子どもの心身の発達の特徴(目標 1) 2. 現代における乳幼児の健康課題—体力調査・生活調査から—(目標 1,2) 3. 子どもの生活習慣の形成について(目標 1,2) 4. 子どもの健康的な生活習慣の改善事例—教育機関や各地域の取り組みから—(目標 1,2) 5. 現代社会における子どもの体力課題—課題克服のための運動遊び考察—(目標 2) 6. 子どもの健康管理や病気に関する基本的な理解—リスク・ハザードの理解—(目標 3) 7. 子どものケガの特徴や熱中症の理解と対策—避難訓練や園庭環境を含む—(目標 3) 8. 月齢毎における子どもの多様な所作の習得について(目標 2) 9. 子どもの生活にみられる動作と発育理解—粗大運動と微細運動を通じて—(目標 2) 10. 神経系に関わる運動と巧緻性の獲得の重要性について(目標 2) 11. MKS 幼児運動能力調査の理解(目標 4) 12. 子どもの外遊びと運動発達の特徴の考察(目標 4) 13. 子どもの室内遊びと運動発達の特徴の考察(目標 4) 14. 伝承遊びの特徴と教育的価値(目標 4) 15. 乳幼児期における健康的な生活について—まとめ—(目標 4) 定期試験						
アクティブ・ラーニング	グループワーク ロールプレイ ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法:定期試験 60% レポート 40% 評価の基準:定期試験(知識・理解の定着)・レポート(思考と理解)						
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の復習を行う。個別の質疑に対しては、常に対応する。作成した資料にコメントや助言を行う。						
時間外の学習について	予習:教科書での予習(30分) 復習:授業内容を振り返る。定期試験に向けた準備(30分)・レポート課題の作成(30分)						
教材にかかわる情報	テキスト:『コンパス 保育内容健康』前橋明編著 建帛社出版 参考書:『幼児のからだを測る・知る—測定の留意点と正しい評価法』出村慎一監修 杏林書院出版 『幼児のからだところを育てる運動遊び—元気に育てちびっ子たち!』出村慎一監修 杏林書院出版 『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 参考資料等:						
担当者からのメッセージ等実務経験について	見本が示せる指導者になってほしい。						

科目名	保育内容の理解と方法・人間関係 (1単位)		演習	保育学科	1年 前期	担当者	富田 まり子 (実務経験) (単独)		
ナンバリングコード	JC-S152-110								
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修			
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)								
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項								
教科目	必修科目(保育士)								
系 列	保育の内容・方法に関する科目								
授業のテーマ	領域『人間関係』のねらい及び内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達の特性や保育者の役割についての専門知識や技術を身に付ける。(専門的知識・技能)								
授業概要	学生が、自分の乳幼児期の家族や地域の人との関係や関わりについて振り返り、領域「人間関係」への関心や学習意欲が持てるようにする。そして、家庭・地域・生活環境がどのように変わっていったか事例と合わせながら説明し、子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴や課題について理解できるようにする。子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項については、子どもの発達の諸側面が人との関わりの中で育つことについて、園生活のエピソードを通して、発達の時期と関連づけて学べるようにする。併せて、具体的な場面を通して保育者の関わり方や役割・資質についての理解を深め、専門的知識を身に付ける。また、学生自身が自分の人間関係や関わりを意識しながら、学生生活の中で人とかかわる力を磨いていけるようにする。								
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)			
		DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)			
1.子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴と課題を理解する。(子どもを取り巻く人間関係の特徴・現代の課題・社会的背景を理解する/人とかかわる力の育ちが生きる力の原点となることを理解する)					◎				
2.乳幼児期の人と関わる力の発達が、園生活における保育者・友達等、人とかかわりによって育つことを理解する。(乳児期の人とかかわる力の育ちと身近な大人との関係について理解する/幼児期の園生活の中で育つ人とかかわる力の発達と、保育者・友達・集団との関係について理解する/自立心・協同性の育ちについて発達の姿と合わせて理解する/道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて理解する/家族や地域との関わりと育ちについて発達の姿と合わせて理解する)						◎			
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ								
授業計画	1. 「生きる力」の原点としての人間関係・保育の基本と領域「人間関係」について(目標1) 2. 自己理解と自己概念について・大学生生活で求められる人とかかわる力について(目標1) 3. 子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴と課題について(目標1) 4. 領域「人間関係」がめざすもの一ねらいと内容の考え方について(目標1, 2) 5. 子ども理解について一子どもの思いを理解するとは一 6. 集団保育の中で人とかかわりの発達①実習を通して(目標2) 7. 集団保育の中で人とかかわりの発達②事例を通して(目標2) 8. 子どもと保育者の相互理解について(目標2) 9. 人間関係を育む保育者のかかわりについて①個の育ちと集団の関係(目標2) 10. 人間関係を育む保育者のかかわりについて②豊かな集団とは(目標2) 11. 乳幼児の発達課題について①保育所保育指針のねらい及び内容(目標1,2) 12. 乳幼児の発達課題について②愛着の形成(目標1,2) 13. 乳幼児の発達課題について③人とかかわりの中で育つ自我(目標1,2) 14. 乳幼児の発達課題について④社会性の発達と遊び(目標1,2) 15. 人とかかわりを育てる保育者としての資質・学生生活で身に付けたい力について(目標1,2)								
アクティブ・ラーニング	グループワーク・模擬保育								
成績評価基準	評価の方法:試験(小テストを含む)40% 授業内レポート40% 課題20% 評価の基準:目標への理解、思考、関心、意欲、態度などの習得を合否判断とする。 ○試験(小テストを含む) * 知識・理解の測定 ・授業で扱った内容について、基礎的・応用的問題に回答できる ○授業内レポート * 知識・理解、思考・判断の測定 ・授業内容を踏まえて自説を述べるができる ○発表 * 知識・理解、思考・判断、技能・表現の測定 ・主体的、協動的にグループワークに取り組むことができる								
フィードバックの方法	その都度個別に評価・アドバイスを記入し返却すると共に、授業内で課題に対する考え方や保育について具体的方法を示すことで理解を深められるようにする。								
時間外の学習について	予習:テキストを読み、次回講義内容の概要を把握しておくこと(各回30分程度) 復習:配布資料整理・授業の振り返り 適宜レポートを課題とする(各回30分程度)								
教材にかかわる情報	テキスト:体験する・調べる・考える 領域「人間関係」(田宮縁著、萌文書林出版) 参考書、参考資料等:幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領								
担当者からのメッセージ等実務経験について	幼稚園教諭・保育士・園長経験:実務経験をもとにして、子どもの発達、人とかかわる力を育む保育内容、援助についてお話をします。								

科目名	保育内容の理解と方法・環境 (1単位)		演習	保育学科	1年 後期	担当者	富田 まり子 (実務経験) (単独)				
ナンバリングコード	JC-S153-110										
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修					
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)										
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項										
教科目	必修科目(保育士)										
系 列	保育の内容・方法に関する科目										
授業のテーマ	領域『環境』のねらい及び内容を理解し、知識の習得、好奇心や探究心を育む指導の方法などについて理解する。また、保育者の役割についての専門知識や技術を身に付け、保育への実践力を身につける。(専門的知識・技能)										
授業概要	領域『環境』の指導において、ねらい及び内容については、背景となる専門領域と関連させながら、具体的な事例などを用いて分かりやすく説明し、理解を深める。乳幼児と環境との関わりや発達における重要性については、実際に学生が身近な自然や生物に触れたり、調べたり、観察したりする中で、学生自身の気付きや感動を伝え合いながら学ぶ。また、数量・図形、標識・文字等を遊びに取り入れたり、身近な施設や情報について調べたりする等、体験を通して理解を深めることを重視する。その中で保育者としての感性を養い、領域『環境』における主体的・対話的な学びについて理解し、保育者のかかわり方や役割について専門的知識が身に付くようにする。										
達成目標							科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
							DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.乳幼児の身近な環境と、乳幼児の発達における意義を理解する。(身近な環境の諸側面・現代的課題について知り、乳幼児の発達における重要性や関わり方について理解する)									◎	
	2.身近な環境との関わりにおける乳幼児期の思考・科学的概念の発達について理解する。(乳幼児の認知的発達の特徴や筋道を理解する/乳幼児の物理的、数量・図形との関わりや、興味・関心、理解の発達について理解する/乳幼児の生物・自然との関わりや、興味・関心、理解の発達について理解する)									◎	
3.身近な標識・文字等、情報・施設との関わりと乳幼児の発達について理解する。(身近な標識・文字等への興味・関心、関わり方について理解する/乳幼児の生活に関係の深い情報・施設への興味・関心、関わり方について理解する)									◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ										
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と保育内容のとらえ方・領域『環境』に示されている保育内容(目標 1) 2. 人間の生活と環境—子どもを取り巻く環境の現状と課題(目標 1) 3. 子どもの発達と環境—誕生から満3歳まで—(目標 1,2) 4. 領域『環境』のねらい及び内容・自然と触れ合い感動する(目標 1,2) 5. 自然と触れ合い感動する—自然観察の仕方—(目標 2) 6. 自然を取り入れて遊ぶ保育の実践(目標 2,3) 7. 自然散策が目指すもの・自然を見る視点(目標 2,3) 8. 生命の営みに触れる保育の実践①(目標 2,3) 9. 生命の営みに触れる保育の実践②(目標 2,3) 10. 身近な物を利用した遊び・風を利用した遊びの実践①(目標 2,3) 11. 身近な物を利用した遊び・風を利用した遊びの実践②(目標 2,3) 12. 物事の法則性に気付く保育の実践①(目標 2,3) 13. 物事の法則性に気付く保育の実践②(目標 2,3) 14. 物の性質や仕組みに興味を持つ保育の実践①(目標 2,3) 15. 物の性質や仕組みに興味を持つ保育の実践②(目標 2,3) 										
アクティブ・ラーニング	模擬保育										
成績評価基準	<p>評価の方法: 小テスト・レポート(40%)復習・調べるなどの自主的な学習(20%)課題(40%)</p> <p>評価の基準: 授業内容への理解、関心、意欲、態度などの習得を合否判断とする</p> <p>○小テスト・レポート * 知識・理解、思考・判断を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育の基本と領域『環境』とのかかわりについて理解している ・領域『環境』のねらい、内容などについて回答できる ・授業を踏まえて自説を述べるができる <p>○授業への取り組み * 思考・判断、関心・意欲・態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前調査や復習など、自主的な学習ができる ・活動に積極的にかかわることができる <p>○課題 * 知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げた知識・技能が身につけている ・他領域と関連させ、保育に結びつけることができる ・子どもに育つ力について、理解している <p>○授業への参加度 * 関心・意欲・態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの活動に積極的にかかわる ・授業を通して探究心を持ち、自発的に取り組む 										
フィードバックの方法	・小テストや課題回収後に解説を行う。・課題、レポート、指導案にコメントを入れ、よい点、改善点などを示す。										
時間外の学習について	予習: 授業内容に合わせ、調べ、理解を深めておく。各回30分程度。事前の準備がいることもあります。 復習: 授業内容をまとめ、考察を深める。各回15分程度。										
教材にかかわる情報	テキスト: 体験する・調べる・考える 領域『環境』<第2版> (田宮緑著、萌文書林出版) 参考書・参考資料等: 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 植物図鑑 動物図鑑										
担当者からのメッセージ等実務経験について	準備物は早めに知らせますので用意をしてください。 幼稚園教諭・保育士・園長の経験・実務経験をもち、子どもの発達、環境とかかわる力を育む保育内容、援助についてお話をします。										

科目名	保育内容の理解と方法・表現Ⅰ (1単位)		演習	保育学科	1年 前期	担当者	永田 実穂 森下 嘉昭 (複数)				
ナンバリングコード	JC-S155-110										
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修					
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)										
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項										
教科目	必修科目(保育士)										
系 列	保育の内容・方法に関する科目										
授業のテーマ	3 法令における領域「表現」の理解、乳幼児の遊びや生活の中の素朴な表現を捉える視点の獲得、乳幼児の発達に応じた表現、乳幼児の表現を支える基礎知識・技能・環境構成の方法の理解(専門的知識・技能)、表現することの楽しさを体感(汎用的能力、総合的な学習経験)										
授業概要	3 法令での領域「表現」の位置づけやねらい及び内容を知り、画像等で乳幼児の具体的な姿も参考にしながら、生活や遊びの中での、発達に応じた素朴な表現を受け止める視点の獲得を目指す。また、五感を通じて周囲の環境とかかわる中で表現が生まれ、遊びにつながっていく面白さを学生自身が感じながら、表現を促す環境構成などの専門的な知識・技能、表現力の基礎を身につける。さらに、様々な感覚を働かせ感じたことや思考したことを協働して表現する中で、他者の視点や表現に触れながら、より豊かな表現に展開させ創作活動を行うことで、感性や創造性に対する理解を深める。										
達成目標							科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
							DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の位置づけを理解する。							○	◎		
	2.乳幼児の遊びや生活の中から生まれる素朴な表現を捉える視点を獲得し、発達や経験に応じた表現を共感的に受け止めることができる。							○	◎		
3.体験を通して、表現することの楽しさを知り、乳幼児の様々な表現を支える基礎的知識・技能や環境構成の方法を身につける。						○	○	◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ										
授業計画	1. 3 法令を踏まえた保育における領域「表現」の位置づけ(目標 1) 2. 領域「表現」に関わるねらい及び内容① 乳児～3 歳未満児(目標 1,2) 3. 領域「表現」に関わるねらい及び内容② 3 歳以上児(目標 1,2) 4. 表現における発達段階 表現と表出について(目標 1,2) 5. 素材とのかかわりによる表現遊び(目標 1,2,3) 6. 他者とかかわりによる表現遊び①(身体の表現)(目標 1,2,3) 7. 他者とかかわりによる表現遊び②(声・音の表現)(目標 1,2,3) 8. 他者とかかわりによる表現遊び③(光と影の表現)(目標 1,2,3) 9. 色と形からの表現遊び(目標 1,2,3) 10. 総合的な表現活動の探求①(テーマ設定)(目標 1,3) 11. 総合的な表現活動の探求②(ディスカッション)(目標 1,3) 12. 総合的な表現活動の探求③(準備)(目標 1,3) 13. 総合的な表現活動の探求④(練習)(目標 1,3) 14. 総合的な表現発表(目標 1,3) 15. まとめ 子どもの表現とかかわる保育者の視点(目標 1,2,3)										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク										
成績評価基準	評価の方法: レポート(30%)、毎回の振り返りシート(30%)、総合的な表現発表(20%)、授業への積極的な取り組み(20%) 評価の基準: ○レポート * 知識・理解/思考・判断を測定 ・3法令の領域「表現」の位置づけを理解している。 ・授業内容を踏まえて、保育現場での自分の考えをまとめることができる。 ・子どもの素朴な表現を捉える視点を身につけている。 ○毎回の振り返りシート * 知識・理解/関心・意欲を測定 ・3法令の領域「表現」の内容を理解し、自分の理解したこと、疑問点などを整理し、解決することができる。 ○総合的な表現発表 * 思考・判断/関心・意欲/態度/技能・表現を測定 ・学んだ知識や技能をもとに、様々な感覚を働かせて表現を模索できる。 ・子どもの表現を支える視点を身につけている。 ○授業への積極的な取り組み * 関心・意欲・態度を測定 ・主体的かつ協力的な態度で、意欲的に取り組むことができる。 ・自分なりの意見を持ち、積極的に質問や意見を表現できる。										
フィードバックの方法	毎回の振り返りシートの内容を次回授業時に採り上げ、解説を加えたりディスカッションの題材とする。										
時間外の学習について	予習:テキストや参考書の関係箇所を目を通す。(各回 25 分) 復習:授業内容の疑問点について整理する。(各回 20 分)										
教材にかかわる情報	テキスト:『保育内容 領域表現 日々わくわくを生きる子どもの表現』(堂本真実子編 わかば社出版) 参考書: 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>(チャイルド本社) 参考資料等:										
担当者からのメッセージ等実務経験について											

科目名	保育内容の理解と方法・表現Ⅱ (1単位)		演習	保育学科	2年 後期	担当者	永田 実穂 森下 喜昭 (複数)			
ナンバリングコード	JC-S255-110									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	選択必修				
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)									
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項									
教科目	選択必修科目(保育士)									
系 列	保育の内容・方法に関する科目									
授業のテーマ	3法令における領域「表現」の理解、乳幼児の生活や遊びの中から子どもの表現を捉える視点を持ち、保育者の援助として展開したり環境構成を工夫したりする(専門的知識・技能)。子どもの表現を支える保育者の役割を理解し、自分の考えやお互いのアイデア等を、発表を通して共有する。(汎用的能力、創造的思考力)									
授業概要	乳幼児の生活や遊びの姿から、感性や創造性の働きに着目し、子どもの発達に応じた表現を支える環境構成等の保育者の役割について様々な角度から理解し、領域「表現」の指導に関する知識・技能、表現力を身につける。また、季節や行事などの日常生活や伝統文化と表現のかかわりを体験的に学ぶことで感性を豊かにし、表現力を身につけつつ、子どもの表現遊びへの展開を具体的実践的に学び、成果を他者と共有することで表現にかかわる専門的知識・技能を深める。									
達成目標						科目 DP(ディプロマポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の理解を深め、「育みたい資質・能力」幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を見出すことができる。						○	◎		
	2.発達や経験に応じた乳幼児の表現を共感的に受け止め、発展させることができる。						○	◎	○	
3.乳幼児が身の回りの生活環境と関わりながら、様々な表現を生み出すことを支える基礎的知識・技能を身につけ、感性を豊かにする					○	○	◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ									
授業計画	1. 3 法令における領域「表現」と「育みたい資質・能力」幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(目標 1) 2. 表現の発生と展開①(身体表現)(目標 1,2,3) 3. 表現の発生と展開②(音楽表現)(目標 1,2,3) 4. 表現の発生と展開③(造形表現)(目標 1,2,3) 5. 季節と表現①(春・夏)(目標 1,3) 6. 季節と表現②(秋・冬)(目標 1,3) 7. 伝統文化に親しむ(生け花等)(目標 3) 8. 児童文化と表現(目標 1,2,3) 9. 行事と表現(目標 1,2,3) 10. 表現を誘う遊びの環境構成①(物的環境の工夫)(目標 1,2,3) 11. 表現を誘う遊びの環境構成②(環境構成の実践及び人的環境としての保育者)(目標 1,2,3) 12. 子どもの表現を支える保育者の役割(目標 1,2,3) 13. 保育における表現①(生活や遊びから考える)(目標 1,2,3) 14. 保育における表現②(アイデアの発表・共有)(目標 1,2,3) 15. 保育における表現③(アイデアの発表・共有及びフィードバック)(目標 1,2,3)									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク									
成績評価基準	評価の方法: レポート(30%)、毎回の振り返りシート(30%)授業内課題(20%)授業への取り組み(20%) 評価の基準: ○レポート * 知識・理解/思考・判断、関心・意欲を測定 ・3 法令の領域「表現」の位置づけを理解している。 ・ 授業内容を踏まえて、保育現場での子どもの発達に応じた表現を支える保育者の役割や展開方法を理解している。 ○毎回の振り返りシート * 知識・理解/関心・意欲を測定 ・ 3 法令の内容を理解し、自分の理解したこと、疑問点などを整理し、解決することができる ○授業内課題 * 思考・判断/関心・意欲/態度/技能・表現を測定 ・ 子どもの表現を支える保育者の役割を理解し、生活や遊びの中から環境構成を工夫することができる ・ 季節や行事などの日常生活や伝統文化と表現のかかわりを体験的に学ぶことで表現力を身につけ、子どもの表現遊びを具体的に展開することができる。 ○授業への取り組み * 関心・意欲/態度 ・主体的かつ協調的な態度で、意欲的に取り組むことができる ・自分なりの意見を持ち、アイデアを共有したり意見交換したりすることができる									
フィードバックの方法	振り返りシートの内容を次回授業時に採り上げ、ディスカッションの題材とし、補足や解説を行う									
時間外の学習について	予習: 予習: テキストや参考書の関係箇所に通す。(各回 25 分程度) 復習: 授業内容の疑問点について整理する。(各回 20 分)									
教材にかかわる情報	テキスト: 『保育内容 領域表現 日々わくわくを生きる子どもの表現』(堂本真実子編 わかば社出版) 参考書: 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>(チャイルド本社) 参考資料等:									
担当者からのメッセージ等 実務経験について										

科目名	保育内容の理解と方法・音楽Ⅰ (1単位)		演習	保育学科	1年 前期	担当者	杉山 綾子 大筋 公子 井上 史恵 (実務経験)(クラス分け)			
ナンバリングコード	JC-S156-010									
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭					
教 科 目	選択必修科目(保育士)									
系 列	保育の内容・方法に関する科目									
授業のテーマ	保育者として様々な幼児歌曲や遊び歌を学び、豊かな音楽表現力と基礎技能の修得を目指す。 (専門的知識・技能、総合的な学習経験)									
授業概要	子どもの歌唱教材に数多く接しながら、教材の特徴や遊びの応用について研究し実践する。また歌唱の中に打楽器を取り入れることによる効果について理解を深め表現法を研究する。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.発声のしぐみを知り、無理のない明るく響きのある声が出せるようになる。								◎	
	2.正確に楽譜を読み取り、子ども達と歌う喜びを共有する感性を高める。								◎	○
	3.子どもの発達に応じた歌唱教材やその遊び方を知り、身につける。								◎	○
	4.簡易打楽器を拍子、リズムに合わせて鳴らしながら豊かに歌うことができる。								◎	○
5.手づくり楽器や簡易打楽器を歌や合奏への表現方法や取り入れ方を工夫し身につける。								◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ									
授業計画	1. 子どもの発達と音楽表現 (目標 1,3) 2. 幼児歌曲・あそびうた・ダルクローズ・コダーイ・オルフの音楽教育 (目標 1,3) 3. 幼児歌曲・(3拍子のリズム)・あそびうた (目標 1,2,3) 4. 幼児歌曲・あそびうた・ボディパーカッション (目標 2,3,4) 5. 幼児歌曲・手あそびうた (目標 2,3) 6. 幼児歌曲・あそばせうた(見せる) (目標 2,3) 7. 幼児歌曲・あそびうた・オノマトペ (目標 2,3) 8. 幼児歌曲・あそばせうた(くすぐる) (目標 2,3) 9. 幼児歌曲・あそばせうた(隠れる)・音あそび(カスタネット・鈴) (目標 3,4) 10. 幼児歌曲・あそばせうた(揺れる)・音あそび(タンブリン・トライアングル) (目標 3,4) 11. あそばせうた(揺れる)・音あそび(小太鼓・大太鼓) (目標 2,5) 12. あそばせうた(手をとる)・楽器作り (目標 2,5) 13. あそばせうた(身体を動かす)・グループアンサンブルの中での手づくり楽器 (目標 2,4,5) 14. あそばせうた(真似る) (目標 2,3) 15. 簡易打楽器と歌による発表 (目標 4,5) ◎定期試験									
アクティブ・ラーニング	模擬保育 ロールプレイ									
成績評価基準	評価の方法:歌唱試験(40%) 提出物(40%) 授業への取り組み(20%) 評価の基準: ○歌唱試験 *知識・理解、技能・表現の測定 ・正しく読譜し、表情豊かに歌える ・遊び歌、わらべうたを覚えて、表現豊かに行うことができる ○提出物 *知識・理解、判断、関心・意欲の測定 ・手作り楽器の活用法を考えて制作する ・学習曲のポイント等がノートに整理できる ○授業への取り組み *関心・意欲・態度、技能・表現の測定 ・しっかり予習・練習・復習をして授業に参加することができる									
フィードバックの方法	ノートに助言を記して返却する。表現活動を豊かにするためのポイントをアドバイスする。									
時間外の学習について	予習: 次の授業で学習する曲の調性、拍子、詩をノートに書き出し、歌い方等の気付きや疑問点を考える。(各回 30分程度) 復習: 概習曲のポイント等をノートに整理して、いつでも歌えるように練習する。(各回 30分程度)									
教材にかかわる情報	テキスト:「幼稚園・保育所・家庭で楽しくうたあそび123」河北邦子・坂本久美子編著 ミネルヴァ書房 参考書:「幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集」本廣明美・加藤照恵共編 ドレミ楽譜出版社、「保育者のためのリズム遊び」木許隆 高倉秋子 高橋一行 三繩公一編著 音楽之友社 参考資料:「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」チャイルド社									
担当者からのメッセージ等実務経験について	子どもたちと共感できるよう、遊びを通して歌や音、リズムを楽しみましょう。 杉山…短期大学児童教育学科や専門学校でのピアノと声楽の指導経験・実務経験をもとに子どもの表現活動における、歌唱や器楽の理解と内容・実践方法について授業をします。 大筋…養護学校、高等学校等(音楽)教師の経験・実務経験をもとにピアノや歌唱の指導を行います。 井上…公立保育園に保育士として勤務。実務経験をもとに保育現場における音楽活動についての内容と方法についてお話しします。									

科目名	保育内容の理解と方法・音楽Ⅱ (1単位)		演習	保育学科	1年 後期	担当 者	杉山 綾子 大筋 公子 井上 史恵 (実務経験)(クラス分け)				
ナンバリングコード	JC-S157-010										
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭						
教 科 目	選択必修科目(保育士)										
系 列	保育の内容・方法に関する科目										
授 業 の テ ー マ	保育者として、必要な音楽表現力を身につけ、保育の場と念頭に置きながらさまざまな音楽表現活動の過程で、豊かな感性や創造性を培う。(専門的知識・技能、汎用的能力)										
授 業 概 要	幼児歌曲や合奏、ドラムジカを通して音楽表現活動の楽しさや奥深さを知り、指導法を研究する。										
達 成 目 標							科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
							DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.さまざまな幼児歌曲を歌ったり、合奏することで子ども達と共有する喜びを培い、レパートリーを増やす。								◎	○	
	2.楽器の正しい使い方を知り、活用法を身につける。								◎		
	3.合奏の中で個々の楽器の響きや音色に、深く耳を傾け調和の美しさや音楽表現を追求する力を身につける。							○	◎	○	
4.さまざまな音楽表現活動に必要な歌唱法、演奏法、編曲法、指導法を理解し、グループでドラムジカを体験する。								◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ										
授 業 計 画	1. 幼児歌曲 (目標 1) 2. 幼児歌曲と合奏 (打楽器) (目標 1,2,3) 3. 幼児歌曲、「吹く」ということの考察(鍵盤ハーモニカ) (目標 1,2) 4. 鍵盤ハーモニカによる合奏 (目標 2,3) 5. 幼児歌曲、音あそび(木琴・鉄琴) (目標 1,2) 6. 幼児歌曲と合奏(鍵盤ハーモニカ・木琴・鉄琴・打楽器) (目標 1,2,3) 7. 合奏「細田式合奏編曲法」・指揮法 (目標 4) 8. 合奏編曲法の基本 (目標 4) 9. ドラムジカ(表現あそび)の作り方 (目標 4) 10. グループ作り、選曲と台本制作 (目標 1,4) 11. 楽器と配役の確認と練習 (目標 1,3,4) 12. 小道具等の制作と練習 (目標 1,2,3,4) 13. 編曲と練習 (目標 1,2,3,4) 14. グループ別リハーサルと改善点の練習 (目標 1,2,3,4) 15. グループ発表会と振り返り (目標 3,4) ◎定期試験										
アクティブ・ラーニング	グループワーク ロールプレイ										
成 績 評 価 基 準	評価の方法:グループによる発表(40%) 台本楽譜(20%) 提出物(20%) 授業への取り組み(20%) 評価の基準:○グループによる発表 *知識・理解、思考・判断、技能・表現の測定 ・音楽的な知識やアイデアを用いて、共同的にグループ活動をすることができる ○台本楽譜 *知識・理解、関心、思考・判断の測定 ・保育現場(実習)にふさわしい音楽表現活動として、ドラムジカ台本や楽譜を作ることができる ○提出物 *知識・理解、判断、関心・意欲の測定 ・学習曲のポイント等がノートに整理できる。 ○授業への取り組み *知識・理解、関心・意欲・態度、表現の測定 ・グループ活動において、主体的・積極的に取り組むことができる										
フィードバックの方法	より豊かな表現をするためのポイントや活用法等をアドバイスする。										
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習:次の授業で学習する幼児歌曲にどう器楽を活用できるか案をノートに書き出す。(45分) 復習:実践した概習曲の活用法やポイントをノートに整理し、いつでも歌えたり取り出せるように練習する。(45分)										
教 材 に か か わ る 情 報	テキスト:「幼稚園・保育所・家庭で楽しくたあそび123」河北邦子・坂本久美子編著 ミネルヴァ書房・授業中に配布。 参 考 書:「わくわく音遊びでかんたん発表会」細田淳子著 すずき出版 「子どもとつくる劇あそびドラムジカ」伊藤嘉子編著 音楽之友社 参考資料:「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」チャイルド社										
担当者からのメッセージ等 実務経験について	保育の現場では歌唱と器楽演奏は一体です。表現活動を豊かにするため、実践的な技術を磨いていきましょう。 杉山…短期大学児童教育学科や専門学校でのピアノと声楽の指導経験:実務経験をもとに子どもの表現活動における、歌唱や器楽の理解と内容・実践方法について授業をします。 大筋…養護学校、高等学校等(音楽)教師の経験:実務経験をもとにピアノや歌唱の指導を行います。 井上…公立保育園に保育士として勤務。実務経験をもとに保育現場における音楽活動についての内容と方法についてお話しします。										

科目名	保育内容の理解と方法・造形 I (1単位)		演習	保育学科	1年 後期	担当者	難波 章人 (単独)
ナンバリングコード	JC-S158-010						
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭		
教科目	選択必修科目(保育士)						
系列	保育の内容・方法に関する科目						
授業のテーマ	造形表現活動に必要な知識や技術を実践的に習得する(専門的知識・技能)						
授業概要	<p>○ 子どもの発達、特に手の発達について、可塑性の高い紙を使った造形表現活動を通して考える。 また、同時に基本的な材料・用具の特性や正しい使い方について実践的に習得する。</p> <p>○ ものの色や形、重さや感触等に関心を持つ。</p> <p>○ 子どもを対象とした表現媒体の制作を行い、保育現場での実習で使用して、活用方法や具体的展開のための技術を習得する。なお、演じ方、活かし方については保育内容の理解と方法・言葉で学ぶ。</p>						
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)	
						DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識や技術を習得する。						○
	2.造形素材としての紙の特性や扱い方(関連する材料・用具を含む)を習得する。						○
	3.色や形を活かした表現媒体の制作を通して、特徴や制作方法を理解し、実践を通して表現力や活用技術を習得する						○ ○
4.学んだことを記録し、知識や技術の定着を図ると共に、振り返る意味を理解し、分かり易くまとめる技術を習得する。						○	
履修条件・注意事項	<p>道具類は各自で用意していただきます。</p> <p>授業の実施方法:①面接授業のみ</p>						
授業計画	<p>1. 紙を使った造形表現活動①【折り紙の基本】、スケッチブックの表紙の制作①【紙芝居画面の選択】(目標 1,2)</p> <p>2. 紙を使った造形表現活動②【切り紙の技法・はさみの使い方】、スケッチブックの表紙の制作②【模写】(目標 1,2)</p> <p>3. 紙を使った造形表現活動③【折り切り紙】、スケッチブックの表紙の制作③【着色】(目標 1,2)</p> <p>4. 紙を使った造形表現活動④【画用紙:お話ちぎり絵、パンフレット:紙帯を使った制作】(目標 1,2)</p> <p>5. 新聞紙を使った造形活動①【新聞紙の特性】(目標 2)</p> <p>6. 新聞紙を使った造形活動②【可塑性を活かした制作・身に付ける衣服を作る】(目標 1,2)</p> <p>7. ペーパーサートの制作①【基本的な作り方・自己紹介】、張り子人形の制作①【張り子の技法】(目標 2,3)</p> <p>8. ペーパーサートの制作②【色】、張り子人形の制作②【耳・鼻を作る】(目標 2,3)</p> <p>9. ペーパーサートの制作③【形】、張り子人形の制作③【着色】(目標 2,3)</p> <p>10. ペーパーサートの制作④【食材・料理】、ミニ舞台の制作(目標 2,3)</p> <p>11. 張り子人形の制作④【化粧・ニス】(目標 1,2)</p> <p>12. 張り子人形の制作⑤【組み立て】(目標 1,2)</p> <p>13. 紙を使った造形活動⑥【牛乳パックの加工方法】(目標 2)</p> <p>14. 紙を使った造形活動⑦【牛乳パック・段ボールを使った玩具の制作】(目標 2,3)</p> <p>15. 造形活動(手指を使う意味を含む)の意義、お店屋さんごっこ大会の開催目的(目標 1,4)</p>						
アクティブ・ラーニング	フィールドワーク						
成績評価基準	<p>評価の方法: 授業内での制作作品(50%)、授業記録(50%)</p> <p>評価の基準: ○授業作品 * 技能・表現、関心・意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具の正しい使い方ができる ・対象である子どもをイメージした表現ができる ・材料の特性を生かし、向上心を持って取り組むことができる <p>○授業記録 * 知識・理解、関心・意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形表現活動に必要な知識や技術が理解できている ・授業中の学びだけでなく、自ら調べた事項や取り組んだことを記録している 						
フィードバックの方法	期末に提出するスケッチブック(授業のまとめや制作や体験の振り返り)については、チェック表(授業開始時に配布)に基づき評価し、コメントを記入して返却する						
時間外の学習について	<p>予習: 授業予定表を事前に読み、授業内容を理解した上で授業に臨む。(15分)</p> <p>復習: 授業内容の記録を通して、振り返りを行い、知識や技術の定着を図る。(45分)</p>						
教材にかかわる情報	<p>テキスト:『コンパクト版・保育内容シリーズ 造形表現』(編)竹井史 一藝社</p> <p>参考資料: 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>						
担当者からのメッセージ等実務経験について	指定した材料や用具は、各自が必ず準備して授業に臨んでください						

科目名	保育内容の理解と方法・造形Ⅱ (1単位)		演習	保育学科	2年 前期	担当者	難波 章人 (単独)
ナンバリングコード	JC-S259-010						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭		
教科目	選択必修科目(保育士)						
系列	保育の内容・方法に関する科目						
授業のテーマ	様々な造形素材・表現媒体についての知識と技術を習得すると共に、コミュニケーション能力を養う。 (専門的知識・技能、汎用的能力)						
授業概要	子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊び(ごっこ遊び)を題材として取り上げる。『お店屋さんごっこ大会』を通して、様々な造形素材の特徴や活用方法、そして子どもの発達(興味や関心)について学ぶと共に、コミュニケーション能力を養う。 実習で使用することを目的とした表現媒体の制作を通して、子どもの表現活動を引き出す教材の活用方法について学ぶ。なお、制作した表現媒体の演じ方、活かし方については言葉の指導法で学ぶ。						
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)	
						DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識や技術を習得する。						○
	2.様々な造形素材の特性や扱い方(関連する材料・用具を含む)を習得する。						○
	3.協働意識やお買い物ごっこ遊びを展開する力(対象の子どもの理解する力やコミュニケーション力を含む)を習得する。					○	○ ○
4.表現媒体の制作を通して、特徴や制作方法を理解し、実践を通して表現力や活用技術を習得する。						○ ○	
5.学んだことを記録し、知識や技術の定着を図ると共に、振り返る意味を理解し、分かり易くまとめる技術を習得する。						○	
履修条件・注意事項	保育表現技術・造形Ⅰの単位を修得していること。 授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. お店屋さんごっこ大会①【商品の試作・廃材の特性理解】(目標 1,2) 2. お店屋さんごっこ大会②【商品の制作】(目標 1,2,4) 3. お店屋さんごっこ大会③【チラシ・商品説明の制作】(目標 2) 4. お店屋さんごっこ大会④【看板や店舗の制作】(目標 1,2) 5. お店屋さんごっこ大会⑤【店舗の制作・商品の飾り付け】(目標 1,2,3) 6. お店屋さんごっこ大会⑥【販売】(目標 1,2,3) 7. お店屋さんごっこ大会⑦【振り返り】、パネルシアター①【絵人形の作り方】(目標 2,4,5) 8. パネルシアター②【絵人形の縁取り・切断、ハンドパネルの制作】(目標 2,4) 9. パネルシアター③【絵人形の着色】(目標 2,4) 10. パネルシアター④【絵人形の縁取り・切断・仕掛け・舞台の使い方】(目標 2,4) 11. 造形あそびのための教材開発①【小麦粉粘土と絵画を用いた絵画あそび～感触あそびを中心に～】(目標 1,2,5) 12. 造形あそびのための教材開発②【新聞紙を用いた造形あそび～空間作りの視点から～】(目標 1,2,5) 13. 造形あそびのための教材開発③【ローラーや足で描く絵画あそび～ステンシルの技法を通して～】(目標 1,2,5) 14. 造形あそびのための教材開発④【光・影絵あそび～色セロハンを使って～】(目標 1,2,5) 15. 造形あそびのための教材開発・まとめ⑤【木の実・木の葉を使った造形あそび～手を使う意味・造形素材や用具の特性・実践を通して～】(目標 1,2,5) 						
アクティブ・ラーニング	グループワーク、フィールドワーク						
成績評価基準	<p>評価の方法: 授業内での制作作品(50%)、授業記録(50%)</p> <p>評価の基準: ○授業作品 * 技能・表現、関心・意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の特性を生かし、対象である子どもをイメージした表現や制作ができる ・子どもの笑顔をイメージして、向上心や協調性を持って取り組むことができる <p>○授業記録 * 知識・理解、関心・意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の特性や活用方法を記録に留めておくことができる ・自ら学んだことや他の学生やグループなどから学んだことを記録に留めておくことができる 						
フィードバックの方法	期末に提出するスケッチブック(授業のまとめや制作や体験の振り返り)については、チェック表(授業開始時の配布)に基づき評価し、コメントを記入して返却する。						
時間外の学習について	<p>予習: テキストを事前に読み、授業内容を理解した上で授業に臨む。(15分)</p> <p>復習: 授業内容の記録を通して、振り返りを行い、知識や技術の定着を図る。(45分)</p>						
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 『コンパクト版・保育内容シリーズ 造形表現』(編)竹井史 一藝社</p> <p>参考資料: 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>						
担当者からのメッセージ等実務経験について	指定した材料や用具は、各自が必ず準備して授業に臨んでください						

科目名	保育内容の理解と方法・言葉 (1単位)		演習	保育学科	1年 前期	担当者	野村 不二子 (実務経験) (単独)			
ナンバリングコード	JC-S154-110									
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修				
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)									
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項									
教科目	必修科目(保育士)									
系 列	保育の内容・方法に関する科目									
授業のテーマ	幼児の言語について専門的知識の理解及び言語指導の技術を修得する。(専門的知識・技能)									
授業概要	乳幼児の言葉の表現を豊かに広げるための専門知識を理解し、保育者としての言語表現技術の基礎的知識、及び必要な技術を、演習を通して身に付ける。 また、言語表現活動に係る児童文化財等の指導理論や技術を習得する。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.乳幼児の言葉の発達過程を理解し、言葉の意義や機能等の専門的知識を習得する。						◎	○		
	2.乳幼児の言葉の表現能力の実態に基づき、言葉に対する感覚をより豊かにする遊び等の適切な指導について、実践的に身に付ける。								◎	○
	3.乳幼児にとっての児童文化財(絵本、お話、紙芝居等)について、基礎的な知識を身に付け、意義を理解する。					○	◎	○		
4.保育者としての言語表現技術を、実践的に習得する。								◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ									
授業計画	1. 乳幼児期の言語の発達過程や特性について①【音声からコミュニケーションへ】(目標 1,2) 2. 乳幼児期の言語の発達過程や特性について②【一語文、二語文から多語文へ】(目標 1,2) 3. 発達に応じた言葉による伝え合い①【発声と発音、挨拶や返事等の基本的事項について】(目標 1,2) 4. 発達に応じた言葉による伝え合い②【聞き方・尋ね方・聞き返し方の基本的事項について】(目標 1,2) 5. 言葉への興味を豊かにする遊び【しりとり、なぞなぞなど】(目標 2,3) 6. 文字への興味を豊かにする遊び【読み聞かせ、かるたなど】(目標 2,3) 7. 3法令における領域「言葉」のねらい及び内容について(目標 4) 8. 言葉の楽しさの体験的理解①【乳児～2・3歳児の実態を踏まえた紙芝居の意義と演じ方】(目標 3,4) 9. 言葉の楽しさの体験的理解②【4・5歳児の実態を踏まえた紙芝居の意義と演じ方】(目標 3,4) 10. 言葉の感覚を豊かにする児童文化財①【人形劇(張り子人形)の特性と演じ方】(目標 3,4) 11. 言葉の感覚を豊かにする児童文化財②【人形劇(ペープサート)の特性と演じ方】(目標 3,4) 12. 読み聞かせの基礎理論【幼児に対する読み聞かせ】(目標 4) 13. 言葉から想像する楽しさについて①【素話の基礎的知識・お話作り】(目標 4) 14. 言葉から想像する楽しさについて②【素話の話し方、演じ方。ストーリーテリング】(目標 4) 15. 幼児の演劇指導の基礎的知識【事例を通して言葉の表現の意義や機能について学ぶ】(目標 2,4)									
アクティブ・ラーニング	グループワーク									
成績評価基準	評価の方法: まとめレポート 50% 授業内レポート 20% 指定教材の実演評価 20% 授業への取り組み 10% 評価の基準: ○まとめレポート及び授業内レポート * 関心・理解・思考・表現力の測定 ・ 授業を通して学んだことを基に、保育内容(言葉)の知識・理解・思考・表現力が身についている。 ○指定教材の実演評価 * 関心・意欲・思考・表現力の測定 ・ 意欲的に実演に取り組み、表現技術を習得し、発表することができる。 ○授業への取り組み * 関心・意欲・態度を測定 ・ 真摯な態度で、保育内容(言葉)に関する学びに積極的に取り組むことができる。									
フィードバックの方法	課題回収後、返却時に解説を行う。また、レポートにコメントを返し、良かったところや今後の課題等を示す。 個別の質問に対して、オフィスアワー等で対応する。									
時間外の学習について	予習:各回の授業内容を把握しておく。絵本や表現媒体の研究をする。(30分) 復習:配布された資料をまとめて復習をする。(ファイルに綴じる)、授業の振り返りをしておく。(30分)									
教材にかかわる情報	テキスト:特に使用しませんが、毎回、レジュメを配布します。 参考書:『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 参考資料: 絵本・紙芝居・DVD等。『保育者のための言語表現の技術』(古橋)和夫編著、萌文書林出版(2019)									
担当者からのメッセージ等実務経験について	紙芝居等の実演について、積極的に取り組み、保育技術を習得しましょう。 幼稚園教諭経験:実務経験をもとに、保育者としての言語表現技術について話をします。									

科目名	音楽基礎 (1単位)	演習	保育学科	1年 前期	担当者	永田 実穂 他 (クラス分け)			
ナンバリングコード	JC-S161-000								
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士		幼稚園教諭				
授業のテーマ	音楽に関する専門的知識の基礎と鍵盤楽器による伴奏づけの基礎技術を習得する。(専門的知識・技能)								
授業概要	読譜に必要な楽典の基礎知識、およびハ長調、ト長調、ヘ長調、ニ長調のメロディの初見演奏とコードネーム等による簡単な伴奏づけを学ぶ。鍵盤経験により1クラスを2グループに分けて授業を行う。								
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)			
						DP番号			
	1. 音符や、記号、コードネーム、音楽用語など基礎的な楽典の知識を習得する。					(1)	(2)	(3)	(4)
	2. リズム感や読譜力を身につける。					○		◎	
	3. 鍵盤楽器による簡易伴奏の方法を理解する。							◎	
	4. 鍵盤楽器の保育現場での活用法を知り実践力をつける。						○	◎	○
5. コードや和音記号による演奏や初見奏に慣れ実践力をつける。							◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ								
授業計画	<p>1. 音楽の基礎知識(1)1. 音部記号、2. 階名 3. 五線譜と鍵盤の関係 4. 臨時記号 5. 音名 ハ長調の音階と和音(I・V・V7)コードネームと音名 (目標 1~4)</p> <p>2. 音楽の基礎知識(2)6. 小節 7. 音符 8. 休符 ハ長調の伴奏づけ演習(1)(I・IV・V・V7) コードネーム(英米音名と根音) リズムについて①(目標1~4)</p> <p>3. 音楽の基礎知識(3)9. 拍子 ハ長調の伴奏づけ演習(2)(I・IV・V・V7) 和音記号とコードの関係(目標 1~4) リズムについて②(目標 1~4)</p> <p>4. 音楽の基礎知識(4)10. 演奏の順序 メロディの初見奏① ハ長調の伴奏づけ演習(3)コードによるベース音①(目標 1~5)</p> <p>5. 音楽の基礎知識(5)11. いろいろな記号 12. 音階 13. 調号の理解 メロディの初見奏②ハ長調の伴奏づけ演習(4)コードによるベース音②(目標 1~5)</p> <p>6. 小テスト1(ハ長調の伴奏づけ:和音記号、コードベース音)音楽の基礎知識(6)14. 調号読み① (目標 1~5)</p> <p>7. 音楽の基礎知識(7) コードの仕組み① 14. 調号読み②15. 長音階① リズムについて③確認問題① (目標 1~5)</p> <p>8. コードの仕組み②メジャーコード 16. 長音階と調号、和音の関係 確認問題②(目標 1~5)</p> <p>9. 小テスト2(音楽の基礎知識筆記) コードの仕組み③メジャーコード、マイナーコード (目標 1~4)</p> <p>10. ハ長調、ト長調のコード伴奏付け演習① コードの仕組み③メジャーコード、マイナーコードと和音記号 (目標 1~5)</p> <p>11. ト長調、ヘ長調のコード伴奏付け演習 リズムについて④ (目標 1~5)</p> <p>12. ニ長調、(変ロ長調)のコード伴奏付け演習 (目標 1~5)</p> <p>13. 小テスト3(コード筆記・弾く)コードによる伴奏付け いろいろな伴奏形(オルタネート) (目標 1~5)</p> <p>14. コードによる伴奏づけ いろいろな伴奏形(リズム伴奏) リズムについて⑤(目標1~5)</p> <p>15. コードによる伴奏づけ いろいろな伴奏形(両手伴奏)(目標1~5)</p> <p>定期試験</p>								
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション								
成績評価基準	<p>評価の方法:小テスト 65%、定期試験 25%、授業への取り組み 10%</p> <p>評価の基準:○小テスト * 知識・理解の定着度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を演奏することができる。 ・和音記号、コード(ベース音、和音)の理解ができる。また、初見、演奏することができる。 ・基礎的な楽典を理解し解答できる。 <p>○定期試験 * 知識・理解/技能表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コードネーム付きメロディを初見演奏し、伴奏をつけることができる。 <p>○授業への取り組み * 関心・意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って積極的に参加する。 								
フィードバックの方法	小テストごとに解答を示し、理解不足については個人指導を行う。								
時間外の学習について	<p>予習:学習計画表を参考に、伴奏付けの練習や副教材・補足教材を行い、音楽の基礎知識を身につける</p> <p>復習:音楽の基礎知識の学習と、授業で行った伴奏づけを反復練習する。 (毎日30分程度、予習・復習をすること)</p>								
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 本廣明美・加藤照恵編「幼稚園・保育園のうた ピアノ伴奏曲集」(ドレミ楽譜出版社)、 加藤照恵・本廣明美編「ぴあのちゃんのピアノ即興入門」(ドレミ楽譜出版社)、副教材(音楽の基礎知識)</p> <p>参考書: 参考資料:音楽基礎副教材・補足教材集</p>								
担当者からのメッセージ等実務経験について	音楽の基礎を楽しく学び応用できるように頑張りましょう。								

科目名	保育ピアノI (1単位)		演習	保育学科	1年 前期	担当者	杉山 綾子 他 (クラス分け)				
ナンバリングコード	JC-S191-001										
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭					
授業のテーマ	ピアノの基礎的な知識・技術を学び、ピアノ曲や弾き歌い曲を表現力豊かに演奏する。(専門的知識・技能、汎用的能力)										
授業概要	各自の音楽経験や技術レベルに合わせたグレード別カリキュラムにより学習を進める、個人レッスン授業である。ピアノ曲と季節の弾き歌い曲を学習しながら、音楽の基礎的知識(音符、拍子、調、奏法など)や技術を習得する。また、保育への活用法について考える。										
達成目標							科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
							DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.グレード別カリキュラムのピアノ曲が表現力豊かに演奏できる。							○	○	◎	
	2.課題となっている子どもの歌が弾き歌いできる技術を身につける。									◎	○
	3.音楽の基礎的な知識を習得する。									◎	
	4.曲へのイメージを持ち、豊かな演奏表現をすることができる。								○	◎	○
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ										
授業計画	1. オリエンテーション・弾き歌い曲確認 (目標2) 2. ピアノ曲:基礎的な動き (歩く奏法) 弾き歌い1(春の歌) (目標 1,2,3,4) 3. ピアノ曲:基礎的な動き (歩く表現) 弾き歌い1(春の歌) (目標 1,2,3,4) 4. ピアノ曲:基礎的な動き (走る奏法) 弾き歌い2(春の歌) (目標 1,2,3,4) 5. ピアノ曲:基礎的な動き (走る表現) 弾き歌い2(春の歌) (目標 1,2,3,4) 6. ピアノ曲:基礎的な動き (とぶ奏法) 弾き歌い3(春の歌) (目標 1,2,3,4) 7. ピアノ曲:基礎的な動き (とぶ表現) 弾き歌い3(春の歌) (目標 1,2,3,4) 8. ピアノ曲:基礎的な動き (ゆれる奏法) 弾き歌い試験1(弾き歌い1~3より2曲を選択) (目標 1,2,3,4) 9. ピアノ曲:基礎的な動き (ゆれる表現) 弾き歌い4(夏の歌) (目標 1,2,3,4) 10. ピアノ曲:定期試験曲決め 弾き歌い4(夏の歌) (目標 1,2,3,4) 11. ピアノ曲:試験曲 読譜 弾き歌い5(夏の歌) (目標 1,2,3,4) 12. ピアノ曲:試験曲 奏法(右手・左手) 弾き歌い5(夏の歌) (目標 1,2,3,4) 13. ピアノ曲:試験曲 奏法(両手) 弾き歌い6(夏の歌) (目標 1,2,3,4) 14. ピアノ曲:試験曲 表現(拍子・フレーズ・テンポ) 弾き歌い6(夏の歌) (目標 1,2,3,4) 15. ピアノ曲:試験曲 仕上げ 弾き歌い試験曲(弾き歌い4~6より2曲を選択) (目標 1,2,3,4) 定期試験										
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション										
成績評価基準	評価の方法: ピアノ曲演奏(60%) 弾き歌い演奏(20%) イメージペイント発表(10%) 授業への取り組み(10%) 評価の基準: ○ピアノ曲演奏 * 知識・理解/技能表現の測定 ・正しく読譜し演奏できる。 ・曲の特徴や雰囲気をつかみ表情豊かに表現できる。 ○弾き歌い演奏 * 技能表現の測定 ・大きい声を出して歌える。 ・ピアノ伴奏しながら歌うことができる。 ○イメージペイント * 関心・意欲/知識・理解の測定 ・曲に対するイメージを持ちストーリーを作る。 ○授業への取り組み * 関心・意欲の測定 ・時間をかけて十分な練習をしている。										
フィードバックの方法	より豊かな表現をするためのポイントや練習方法についてアドバイスする。										
時間外の学習について	予習:レッスンが受けられるように十分な練習をする。(45分) 復習:既習曲(ピアノ曲・弾き歌い曲)は、保育現場で実践できるよう弾いておく。(45分)										
教材にかかわる情報	テキスト:「ピアノ名曲でこどもとあそぼう」「基礎から学べるピアノ1, 2, 3」「幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集」 本廣明美・加藤照恵(ドレミ楽譜出版社) 参考書:「ぴあのちゃんのピアノ即興入門」本廣明美・加藤照恵(ドレミ楽譜出版社) 参考資料:「楽しくたあそび 123」河北邦子・坂本久美子(ミネルヴァ書房)										
担当者からのメッセージ等実務経験について	ピアノの上達に近道はありません。毎日の練習を欠かさない地道な努力が必要です。										

科目名	保育ピアノⅡ (1単位)		演習	保育学科	1年 後期	担当者	杉山 綾子 他 (クラス分け)			
ナンバリングコード	JC-S192-001									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭				
授業のテーマ	ピアノの基礎知識・技術、弾き歌い、豊かな表現力(専門的知識・技能、汎用的能力)									
授業概要	各自の音楽経験や技術レベルに合わせたグレード別カリキュラムにより学習を進める個人レッスン授業である。ピアノ曲と季節の弾き歌い曲(主に秋冬の歌)を学習しながら、音楽の基礎的知識や演奏技術を習得し表現力豊かに演奏する。また、実習において活用できるように準備する。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.グレード別カリキュラムによるピアノ曲・弾き歌い曲を表現力豊かに演奏できる。						○	○	◎	
	2.音楽の基礎的な知識を習得する。								◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ									
	授業計画	1. オリエンテーション・夏休み		弾き歌い課題曲の確認(生活の歌)			(目標 1,3)			
		2. ピアノ曲:自由表現(動物)奏法		弾き歌い:試験1(夏休み課題曲)			(目標 1,2,3)			
3. ピアノ曲:自由表現(動物)表現		弾き歌い1:秋の歌(メロディ奏、歌唱)			(目標 1,2,3)					
4. ピアノ曲:自由表現(乗り物)奏法		弾き歌い1:秋の歌(伴奏表現)			(目標 1,2,3)					
5. ピアノ曲:自由表現(乗り物)表現		弾き歌い2:秋の歌(メロディ奏、歌唱)			(目標 1,2,3)					
6. ピアノ曲:自由表現(感情)奏法		弾き歌い2:秋の歌(伴奏表現)			(目標 1,2,3)					
7. ピアノ曲:自由表現(物語)表現		弾き歌い3:秋の歌(メロディ奏、歌唱)			(目標 1,2,3)					
8. ピアノ曲:自由表現(物語)奏法		弾き歌い3:秋の歌(伴奏表現)			(目標 1,2,3)					
9. ピアノ曲:自由表現(物語)表現		弾き歌い試験2(弾き歌い1~3より2曲を選択)			(目標 1,2,3)					
10. ピアノ曲:定期試験曲決め		弾き歌い4:冬・行事の歌(メロディ奏、歌唱)			(目標 1,2,3)					
11. ピアノ曲:試験曲 読譜		弾き歌い4:冬・行事の歌(伴奏表現)			(目標 1,2,3)					
12. ピアノ曲:試験曲 奏法(右手・左手)		弾き歌い5:冬・行事の歌(メロディ奏、歌唱)			(目標 1,2,3)					
13. ピアノ曲:試験曲 奏法(両手)		弾き歌い5:冬・行事の歌(伴奏表現)			(目標 1,2,3)					
14. ピアノ曲:試験曲 表現(拍子・フレーズ、テンポ)		弾き歌い6:冬・行事の歌(メロディ奏、歌唱)			(目標 1,2,3)					
15. ピアノ曲:試験曲 仕上げ		弾き歌い6:冬・行事の歌(伴奏表現)			(目標 1,2,3)					
定期試験										
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ									
成績評価基準	<p>評価の方法: ピアノ曲演奏(60%) 弾き歌い演奏(30%) 授業への取り組み(10%)</p> <p>評価の基準: ○ピアノ曲演奏 * 知識・理解/技能表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しく読譜し演奏できる。 ・曲の特徴や雰囲気をつかみ表情豊かに表現できる。 <p>○弾き歌い演奏 * 技能表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きい声を出して歌える。 ・ピアノ伴奏しながら歌うことができる。 ・コードネームを理解する。 ・歌詞の理解をして表情豊かに演奏できる。 <p>○授業への取り組み * 関心・意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間をかけて十分な練習をしている。 									
フィードバックの方法	より豊かな表現をするためのポイントや練習方法についてアドバイスする。									
時間外の学習について	<p>予習:レッスンが受けられるように十分な練習をする。(45分)</p> <p>復習:既習曲(ピアノ曲・弾き歌い曲)は、保育現場で実践できるよう弾いておく。(45分)</p>									
教材にかかわる情報	<p>テキスト:「ピアノ名曲でこどもとあそぼう」「基礎から学べるピアノ1, 2, 3」「幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集」 本廣明美・加藤照恵(ドレミ楽譜出版社)</p> <p>参考書:「ぴあのちゃんのピアノ即興入門」本廣明美・加藤照恵(ドレミ楽譜出版社)</p> <p>参考資料:「楽しくうたあそび 123」河北邦子・坂本久美子(ミネルヴァ書房)</p>									
担当者からのメッセージ等実務経験について	ピアノの上達に近道はありません。毎日の練習を欠かさない地道な努力が必要です。									

科目名	保育ピアノⅢ (1単位)		演習	保育学科	2年 前期	担当者	杉山 綾子 他 (クラス分け)
ナンバリングコード	JC-S291-000						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭	
授業のテーマ	保育現場で使える弾き歌い曲のレパートリーを持つ。ピアノ演奏技術を高める。表現力豊かに演奏する。 (専門的知識・技能、汎用的能力)						
授業概要	各自の音楽経験や技術レベルに合わせたグレード別カリキュラムにより学習を進め、ピアノ演奏力を身につける。弾き歌いの力を高めレパートリーを増やしながら、保育現場で必要な実践力を養う。						
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)	
						DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.保育現場に必要なピアノ演奏と弾き歌いの技術を習得する。					○	◎
	2.課題となっている子どもの歌の歌詞・メロディ・リズムなどの特徴やおもしろさなどを理解する。						◎
	3.子どもに指導することを念頭において、表情豊かに演奏できる。						◎ ○
4.学んだピアノ曲や弾き歌いを実習で実践できる力を身につける。					○	◎ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	1. オリエンテーション・春休み弾き歌い課題曲の確認(目標 1,2,3) 2. 弾き歌い試験1(春休み課題曲) 弾き歌い1(春の歌・いろいろな歌)(目標 1,2,3) 3. 弾き歌い1(春の歌・いろいろな歌)メロディ奏、メロディ唱 ピアノ曲 選曲(目標 1,2,3) 4. 弾き歌い2(春の歌・いろいろな歌)伴奏 ピアノ曲 読譜(目標 1,2,3) 5. 弾き歌い3(春の歌・いろいろな歌)伴奏唱 ピアノ曲 奏法(右手)(目標 1,2,3) 6. 弾き歌い4(春・夏・いろいろな歌)表現法 ピアノ曲 奏法(左手)(目標 1,2,3) 7. 弾き歌い5(春・夏・いろいろな歌)活用法 ピアノ曲 奏法(両手)(目標 1,2,3) 8. 弾き歌い5(春・夏・いろいろな歌)5曲の仕上げ ピアノ曲 表現(拍子)(目標 1,2,3) 9. 弾き歌い試験2(弾き歌い1~5より2曲を選択)(目標 1,2,3,4) 10. 弾き歌い6(夏の歌・いろいろな歌) // ピアノ曲 表現(フレーズ)(目標 1,2,3) 11. 弾き歌い7(夏の歌・いろいろな歌) // ピアノ曲 表現(全体)(目標 1,2,3) 12. 弾き歌い8(夏の歌・いろいろな歌) // ピアノ曲 仕上げ(テンポ)(目標 1,2,3) 13. 弾き歌い9(夏の歌・いろいろな歌) // ピアノ曲 仕上げ(弾き込み)(目標 1,2,3) 14. 弾き歌い10(夏の歌・いろいろな歌) // ピアノ曲 仕上げ(グループで弾き合い)(目標 1,2,3) 15. 弾き歌い試験3(弾き歌い6~10より2曲を選択) ピアノ曲試験 前期のまとめ (目標 1,2,3,4)						
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ						
成績評価基準	評価の方法:弾き歌い演奏(60%) ピアノ曲演奏(30%) 授業への取り組み(10%) 評価の基準:○ピアノ曲演奏 *知識・理解/技能表現の測定 ・正しく読譜し演奏できる。 ・曲の特徴や雰囲気をつかみ表情豊かに表現できる。 ○弾き歌い演奏 *知識・理解/技能表現の測定 ・課題曲を全て学習する。 ・コードネームで伴奏できる。 ・曲の面白さを理解し弾き歌いできる。 ○授業への取り組み *関心・意欲の測定 ・授業を受けるまでに十分な練習をしている。						
フィードバックの方法	より豊かな表現をするためのポイントや練習方法についてアドバイスする。						
時間外の学習について	予習:レッスンが受けられるように練習をする。(45分) 復習:すでに学習した曲(ピアノ曲・弾き歌い曲)は、保育現場で実践できるよう弾いておく。(45分)						
教材にかかわる情報	テキスト:「ピアノ名曲でこどもとあそぼう」幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集」本廣明美・加藤照恵(ドレミ楽譜出版社) 参考書:「ぴあのちゃんのピアノ即興入門」本廣明美・加藤照恵(ドレミ楽譜出版社) 参考資料:「楽しくうたあそび 123」河北邦子・坂本久美子(ミネルヴァ書房)						
担当者からのメッセージ等実務経験について	ピアノの上達に近道はありません。毎日の練習を欠かさない地道な努力が必要です。						

科目名	保育ピアノⅣ (1単位)		演習	保育学科	2年 後期	担当者	杉山 綾子 他 (クラス分け)			
ナンバリングコード	JC-S292-000									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭				
授業のテーマ	保育現場で使える弾き歌い曲のレパートリーを持つ。ピアノ演奏技術を高める。表現力豊かに演奏する。 (専門的知識・技能、汎用的能力)									
授業概要	保育現場で歌われる歌のレパートリーを増やしなが弾き歌い演奏力を高め、実習で実践して子どもに歌の楽しさや面白さを伝える力を身につける。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (3)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.保育現場に必要な弾き歌いの力を身につける。						○		◎	
	2.弾き歌いできる子どもの歌のレパートリーを持ち、指導できる力を身につける。							○	◎	
3.学んだ弾き歌いを、保育現場で実践できる。					○			◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ									
授業計画	1. オリエンテーション・夏休み弾き歌い課題曲の確認 (目標 1,2,3) 2. 弾き歌い試験1(夏休み課題曲) 弾き歌い1: 秋の歌・いろいろな歌メロディ奏 メロディ唱 (目標 1,2,3) 3. 弾き歌い2: 秋の歌・いろいろな歌 伴奏法 (目標 1,2,3) 4. 弾き歌い3: 秋の歌・いろいろな歌 伴奏唱 (目標 1,2,3) 5. 弾き歌い4: 秋の歌・いろいろな歌 表現法 (目標 1,2,3) 6. 弾き歌い5: 秋の歌・いろいろな歌 活用法 (目標 1,2,3) 7. 弾き歌い5: 秋の歌・いろいろな歌 5曲の仕上げ (目標 1,2,3) 8. 弾き歌い試験2(弾き歌い1~5より2曲を選択) (目標 1,2,3) 9. 弾き歌い6: 冬の歌・いろいろな歌 メロディ奏・メロディ唱 (目標 1,2,3) 10. 弾き歌い7: 冬の歌・いろいろな歌 伴奏法 (目標 1,2,3) 11. 弾き歌い8: 冬の歌・いろいろな歌 伴奏唱 (目標 1,2,3) 12. 弾き歌い9: 冬の歌・いろいろな歌 表現 (目標 1,2,3) 13. 弾き歌い10: 冬の歌・行事の歌 活用法 (目標 1,2,3) 14. 弾き歌い10: 冬の歌・行事の歌 5曲の仕上げ (目標 1,2,3) 15. 弾き歌い試験3(弾き歌い6~10より2曲を選択) ・後期授業のまとめ (目標 1,2,3)									
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション									
成績評価基準	評価の方法:弾き歌い演奏(90%) 授業への取り組み(10%) 評価の基準:○弾き歌い演奏 * 知識・理解/技能・表現の測定 ・課題曲を全て学習する。 ・曲の楽しさや面白さを理解している。 ・曲のイメージを正しく捉えた豊かな演奏表現ができる。 ・コードネーム・両手伴奏で弾き歌いができる。 ○授業への取り組み * 関心・意欲の測定 ・授業を受けるための十分な準備ができています。 ・実習での実践に意欲的に取り組んだ。									
フィードバックの方法	より豊かな表現をするためのポイントや練習方法についてアドバイスする。									
時間外の学習について	予習:レッスンが受けられるように練習をする。(45分) 復習:既習曲(ピアノ曲・弾き歌い曲)は、保育現場で活用できるよう弾いておく。(45分)									
教材にかかわる情報	テキスト:「幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集」本廣明美・加藤照恵(ドレミ楽譜出版社) 参考書:「ぴあのちゃんのピアノ即興入門」本廣明美・加藤照恵(ドレミ楽譜出版社) 参考資料:「楽しくうたあそび123」河北邦子・坂本久美子(ミネルヴァ書房)									
担当者からのメッセージ等実務経験について	ピアノの上達に近道はありません。毎日の練習を欠かさない地道な努力が必要です。									

科目名	子ども総合研究 I (2単位)		演習	保育学科	2年 前期	担当者	弘中・森下・上村 山本・山根・永田 難波・船場・杉山			
ナンバリングコード	JC-S281-000									
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭				
授業のテーマ	グループでの研究活動(汎用的能力)、主体的に学び続ける力(態度・志向性)、これまでの学びの集大成(専門的知識・技能、総合的な学習体験)、子どもの視点に立って考え研究・実践する力、子どもや保育に関わる社会的な問題を捉え、考察する力(創造的思考力)									
授業概要	<p>○さまざまな研究分野の中から1つを選び、10人～20人程度のグループを作る。</p> <p>○1年次の授業で学んだ知識や技能、実習体験をふまえ、より深く研究したいテーマを選択しグループで研究活動を行う。</p> <p>○児童文化財としての舞台表現や絵本、あるいは保育現場での実践・調査研究を通して、子どもや保育における諸問題の理解を深めるとともに、保育者としての力量を向上させる。</p> <p>○研究をまとめ、中間報告会として発表する。</p>									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (4)				
						DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 主体的に研究に取り組む姿勢を養い、学び続ける姿勢を身につける。						○		○	○
	2. 1年次の学びを生かし、子どもの視点に立って考え研究を進めることができる。							○	○	◎
	3. グループワークを通して、協調性や協働意識を身につける。						○			○
4. 学びをまとめ、他人に分かりやすくプレゼンする能力を身につける						○		○	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ									
授業計画	<p>1. 授業目標・授業の流れの説明、グループ分け・自己紹介(目標 1,3)</p> <p>2. 研究テーマの決定(目標 1,2,3)</p> <p>3. 研究計画の検討・立案(目標 1,2,3)</p> <p>4. テーマに沿った研究①(先行研究・資料の収集)(目標 1,2,3)</p> <p>5. テーマに沿った研究②(先行研究・資料の分析)(目標 1,2,3)</p> <p>6. テーマに沿った研究③(協力園等候補の決定)(目標 1,2,3)</p> <p>7. テーマに沿った研究④(題材決定・調査・実践準備等)(目標 1,2,3)</p> <p>8. テーマに沿った研究⑤(脚本たたき台作成・データ集計等)(目標 1,2,3)</p> <p>9. テーマに沿った研究⑥(脚本たたき台について協議・データ分析等)(目標 1,2,3)</p> <p>10. テーマに沿った研究⑦(脚本修正・問題点の確認等)(目標 1,2,3)</p> <p>11. テーマに沿った研究⑧(読み合わせ・再調査・実践等)(目標 1,2,3)</p> <p>12. テーマに沿った研究⑨(脚本完成・効果音等・データ整理、問題点の確認)(目標 1,2,3)</p> <p>13. 中間報告会準備(進捗状況をプレゼンテーションソフトなどを使ってまとめる)(目標 1,3,4)</p> <p>14. 中間報告会(発表)(目標 1,3,4)</p> <p>15. 夏季休業中(実習を含む)の研究活動・後期の活動計画確認、レポート課題(目標 1,3)</p>									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク									
成績評価基準	<p>評価の方法:活動内容(30%)、記録・レポート(30%)、報告会(20%)、態度(20%)</p> <p>評価の基準:○活動内容 * 知識・理解の定着度、思考・判断、技能・表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次から現在までの学びを生かして研究を推進できる。 ・子どもの視点を想定して研究・協議ができる。 <p>○記録・レポート * 思考力・判断力の測定、知識・理解の定着度の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の経緯や成果を正確に記録できる。 ・研究内容をもとに、自己の考えをまとめることができる。 ・自己の研究イメージをより具体化することができる。 <p>○報告会 * 思考・判断、表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の経緯や成果を、他者に分かりやすくまとめプレゼンできる。 <p>○態度 * 関心・意欲・態度の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な態度で主体的に研究に取り組むことができる。 ・協力的にグループワークに取り組むことができる。 									
フィードバックの方法	記録ファイル・レポートを回収し、チェックを入れる、コメントをつけるなどして返却する。グループでの研究活動に生かすため、場合によっては学生間で内容を共有できるようにする。									
時間外の学習について	<p>予習:各グループ、研究活動に必要な準備(資料準備や制作物など)をして臨む。各回45分程度</p> <p>復習:記録ファイルへの記録(振り返り)。各回45分程度</p>									
教材にかかわる情報	<p>テキスト:なし</p> <p>参考書:幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p> <p>参考資料:各グループで収集</p>									
担当者からのメッセージ等実務経験について										

科目名	子ども総合研究Ⅱ (2単位)		演習	保育学科	2年 後期	担当者	弘中・森下・上村 山本・山根・永田 難波・船場・杉山				
ナンバリングコード	JC-S282-000										
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭					
授業のテーマ	研究発表に向けたグループでの研究活動、研究をまとめ発表及び報告会においてプレゼンする(汎用的能力)、自ら学び続ける保育者としての力(態度・志向性)、学びの集大成(専門的知識・技能、総合的な学習体験)、子どもの視点に立って考え研究・実践する力、子どもや保育に関わる社会的な問題を捉え、考察する力(創造的思考力)										
授業概要	2年前期の子ども総合研究Ⅰの成果や、授業で学んだ知識・技能、教育実習や保育実習体験を踏まえ、グループ内で進捗状況や課題を共有しながら、研究を推進し、成果を具体化していく。 舞台表現系のグループは、年末の「子ども総合研究発表会」において、舞台発表の形式で研究成果を一般に向け公开发表する。最終的には、発表会の成果も含め、調査・実践系を含むすべてのグループにおいて研究成果をまとめ、学内で研究成果報告会を行う。										
達成目標							科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (4)				
							DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 主体的に研究に取り組む姿勢を養い、学び続ける姿勢を身につける。						○				
	2. 子どもや保育を取り巻く諸問題を捉え、解決しようとする姿勢を身につける。										◎
	3. 子どもの視点に立って考え、研究する力を高める。							○	○	○	◎
	4. グループワークを通して、協調性や協働意識を身につける。						○				○
5. 学びを整理してまとめ、他人に分かりやすくプレゼンする能力を身につける。						○		○	○	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ										
授業計画	1. 後期の授業目標・授業の流れの確認(目標 1,4) 2. 後期のグループ研究計画の確認(目標 1,2,4) 3. テーマに沿った研究①(舞台装置・道具類制作計画等立案、調査・実践準備等)(目標 1,2,3,4) 4. テーマに沿った研究②(背景画制作、フィールドワーク等)(目標 1,2,3,4) 5. テーマに沿った研究③(大道具制作、データ集計等)(目標 1,2,3,4) 6. テーマに沿った研究④(小道具制作、データ分析等)(目標 1,2,3,4) 7. テーマに沿った研究⑤(各教室で動きの段取り確認、問題点の確認等)(目標 1,2,3,4) 8. テーマに沿った研究⑥(通し練習、フィールドワーク等)(目標 1,2,3,4) 9. テーマに沿った研究⑦(フィールドワーク、データ集計等)(目標 1,2,3,4) 10. テーマに沿った研究⑧(現場実践をもとに修正・練習、データ分析等)(目標 1,2,3,4) 11. テーマに沿った研究⑨(学内発表会)(目標 1,2,3,4,5) 12. テーマに沿った研究⑩(発表会:あつまれ!チビッコ!他)(目標 1,2,3,4,5) 13. 研究成果のまとめ(発表会や実践・調査データをもとに原稿まとめ)(目標 1,2,3,4,5) 14. 研究成果のまとめ(プレゼンテーションソフトなどを使い、報告会準備・練習)(目標 1,4,5) 15. 研究成果報告会、総括(目標 1,4,5)										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク										
成績評価基準	評価の方法:活動内容(30%)、記録・レポート(20%)、発表会(20%)、報告会(20%)、態度(10%) 評価の基準:○活動内容 * 知識・理解の定着度、思考・判断、技能・表現の測定 ・実習や授業での学びや、前期の研究内容を生かして研究を推進できる。 ・子どもの視点を前提として子どもや保育を取り巻く諸問題を捉え、研究・協議ができる ○記録・レポート * 思考力・判断力の測定、知識・理解の定着度の測定 ・研究の経緯や成果を正確に記録できる。 ・研究内容をもとに、自己の考えをまとめることができる。 ・自己の研究イメージをより具体化することができる。 ○発表会 * 思考・判断、技能・表現、関心・意欲・態度の測定 ・舞台上での発表や発表会の運営に対して、保育者としてふさわしい立ち振る舞いができる。 ・研究内容を生かして発表することができる。 ○報告会 * 思考・判断、表現の測定 ・研究の経緯や成果を、他者に分かりやすくまとめプレゼンできる。 ○態度 * 関心・意欲・態度の測定 ・積極的態で主体的に研究に取り組むことができる。 ・協力的にグループワークに取り組むことができる。										
フィードバックの方法	記録ファイル・レポートを回収し、チェックを入れる、コメントをつけるなどして返却する。グループでの研究活動に生かすため、場合によっては学生間で内容を共有できるようにする。										
時間外の学習について	予習:各グループ、研究活動に必要な準備(資料準備や制作物など)をして臨む。各回45分程度 復習:記録ファイルへの記録(振り返り)。各回45分程度										
教材にかかわる情報	テキスト:なし 参考書:幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 参考資料:各グループで収集										
担当者からのメッセージ等実務経験について											

科目名	保育実習指導 I (2単位)		演習	保育学科	1年前後期 2年前後期	担当者	杉山 綾子 難波 章人 (複数)			
ナンバリングコード	JC-S171-010									
卒業要件	選択	免許・資格との関係		保育士	必修	幼稚園教諭				
教科目	必修科目(保育士)									
系 列	保育実習									
授業のテーマ	保育実習(保育所・施設)を通して、保育者としての高度な技術と実践力を身に付ける(専門的知識・技能)。									
授業概要	保育実習 I は保育所での 10 日間実習と、保育所以外の児童福祉施設(知的障害児(者)施設、児童養護施設など)での 10 日間実習の両方からなる。この実習は見学・観察・参加実習を中心に行い、対象児及び保育者の仕事内容、また施設の役割を体験的かつ具体的に学ぶ(総合的な学習経験、専門的知識・技能)。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (4)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 保育実習の目的・意義を理解する。						○		○	
	2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。								○	◎
	3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、守秘義務等について理解する。								○	◎
	4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。								○	◎
履修条件・注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが 1.10 以上である。									
	授業の実施方法: ①面接授業のみ									
授業計画	1. 保育実習の意義・目的(目標 1) 2. 保育所見学実習準備①(実習の説明)(目標 1,2) 3. 保育所見学実習準備②(保育内容の理解)(目標 1,2,3) 4. 保育所見学実習準備③(保育所での実習)(目標 1,3,4) 5. 保育所見学実習準備事後指導(実習反省)(目標 1,4,5) 6. 保育所実習準備①(紹介票・誓約書)(目標 1,3) 7. 保育所実習準備②(テーマ設定)(目標 1,2,4) 8. 保育所実習準備③(日誌、検便指導)(目標 2,4) 9. 保育所実習準備④(指導案)(目標 2,4) 10. 保育所実習準備⑤(実習の流れ)(目標 1,4) 11. 保育所実習準備⑥(実習訪問)(目標 1) 12. 保育所実習準備⑦(エピソード)(目標 2) 13. 保育所実習準備⑧(実習留意点)(目標 2,3) 14. 保育所実習事後指導①(自己評価)(目標 5) 15. 保育所実習事後指導②(個別指導)(目標 5)				16. 施設見学実習準備①(施設概説)(目標 1,2,3) 17. 施設見学実習準備②(障害の理解)(目標 1,2,3) 18. 施設見学実習事後指導①(反省と考察)(目標 5) 19. 施設実習準備①(実習目的・紹介票作成)(目標 1) 20. 施設実習準備②(ボランティア)(目標 2,3) 21. 施設実習準備③(ボランティアまとめ)(目標 2,3) 22. 施設実習準備④(テーマ・留意点)(目標 2) 23. 外部講師①(障害者施設について)(目標 3) 24. 外部講師②(児童養護施設について)(目標 3) 25. 施設実習準備⑧(実習の心得)(目標 1,2,3,4) 26. 施設実習準備⑨(書類配布)(目標 1) 27. 施設実習事後指導①(自己評価)(目標 5) 28. 施設実習事後指導②(個別指導)(目標 5) 29. 外部講師③(子育て支援について)(目標 3) 30. 実習のまとめ・小テスト					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法: 小テスト 40%、レポート・自己評価票・実習関連書類の提出・内容 40%、授業への取り組み 20% 評価の基準: ○小テスト * 知識・理解および技能の定着度を測定 ・ 保育所保育指針に基づき、保育所や保育活動に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・ 施設に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・ 保育者として必要なコミュニケーション能力を身に付けている。 ○レポート・自己評価票・実習関連書類の提出・内容 * 知識・理解の定着度および思考力を測定 ・ 保育所や施設に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・ 授業で得た知識をもとに、実習における活動のあり方を考察することができる。 ・ 実習に関わる書類を正確に提出し、その書類を作成する意義を理解している。 ・ 自らの実習における活動を省察し、適切に自己評価できる。 ○授業態度 * 関心・意欲、態度を測定 ・ 真摯な態度で保育所・施設に関する学習を積極的に行うことができる。									
フィードバックの方法	テストについては模範解答を示す。提出物については優れた内容のものについて他の学生に紹介する。									
時間外の学習について	予習: 授業計画を把握し、事前準備に真摯に取り組む。(各回 30 分程度) 復習: 反省や考察、記録など事後学習をする。(各回 30 分程度)									
教材にかかわる情報	テキスト: なし 参考書: 『実習の手引き』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』 参考資料: 適宜配布する。									
担当者からのメッセージ等実務経験について	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。特に、守秘義務の遵守には入念に気を配る。									

科目名	保育実習 I (4単位)		実習	保育学科	2年 後期	担当者	杉山 綾子 難波 章人		
ナンバリングコード	JC-S172-010								
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭				
教科目	必修科目(保育士)								
系列	保育実習								
授業のテーマ	保育実習(保育所・施設)を通して、保育者としての高度な技術と実践力を身に付ける。								
授業概要	保育実習 I は保育所での 10 日間実習と、保育所以外の児童福祉施設(知的障害児(者)施設、児童養護施設など)での 10 日間実習の両方からなる。この実習は見学・観察・参加実習を中心に行い、対象児及び保育者の仕事内容、また施設の役割を体験的かつ具体的に学ぶ(総合的な学習経験、専門的知識・技能)。								
達成目標					科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (4)				
					DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。							○	
	2.観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深め、保育実践力を身につける。							○	◎
	3.既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学び、理解する。							○	◎
	4.保育の計画、観察、記録、記録及び自己評価等について具体的に理解する。							○	◎
履修条件・注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが 1.10 以上である。								
	授業の実施方法:①面接授業のみ								
授業計画	実習内容								
	<p><保育所></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の 1 日の流れを把握し、その方法や手順、保育者の役割や働きがい等について具体的に観察する。(目標 1,2) 2. 乳幼児の表現、あるいは乳幼児同士や乳幼児と保育者の関わりを観察する。(目標 2) 3. 保育士の指導の下、補助的に乳幼児を援助する。(目標 3,4,5) 4. 保育の環境構成を学び、環境構成に参加する。(目標 3,4,5) 5. 手遊びや絵本の読み聞かせなどを実践する。(目標 3,5) <p><施設></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設の設立理念と養護の目標を理解する。(目標 1) 2. 施設の 1 日の流れや生活状況を把握する。(目標 1,2) 3. 子ども(利用者)と生活を共にし、積極的に関わることによって子ども(利用者)の理解に努める。(目標 2) 4. 保育士や指導員の指導の下、保育士の仕事に補助的立場で参加する。(目標 3,4,5) 5. レクリエーションや生活のなかで既習の教科で学んだことを実践する。(目標 3,5) 								
アクティブ・ラーニング	実習								
成績評価基準	<p>評価の方法:実習先の評価 60%、実習手帳の内容 40%</p> <p>評価の基準:</p> <p>○実習先の評価 * 知識・理解の定着度および思考力・判断力、関心・意欲、態度、技能を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な知識を持ち、実践に活用することができる。 ・乳幼児に対して適切な行動、判断ができ、自己の実践を省察することができる。 ・適切な保育に関心を持ち、積極的に活動することができる。 ・適切な保育活動の計画を立て、実践に移すことができる。 ・守秘義務などの職業倫理を理解し、遵守している。 <p>○実習手帳の内容 * 思考力、態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の実践について省察を行って改善に繋げることができる。 ・乳幼児の思いの理解に努め、考察することができる。 								
フィードバックの方法	実習園及び実習施設からの評価票を個別にて指導する。また、手帳について各担当者が評価し、評価についての指導を行う。								
時間外の学習について	<p>予習:事前準備に真摯に取り組む。実習指導を真摯に受け、配布資料等を理解する。(毎回 30 分程度)</p> <p>復習:反省や考察、記録など事後学習をする。(毎回 60 分程度)</p>								
教材にかかわる情報	<p>テキスト:なし</p> <p>参考書:『実習の手引き』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』</p> <p>参考資料:なし</p>								
担当者からのメッセージ等実務経験について	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。特に、守秘義務の遵守には入念に気を配ること。								

科目名	保育実習指導Ⅱ (1単位)		演習	保育学科	2年前期 2年後期	担当者	杉山 綾子
ナンバリングコード	JC-S273-010						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭		
教科目	選択必修科目(保育士)						
系列	保育実習						
授業のテーマ	主体的に実習準備(保育指導案など)を行い、自己反省・自己改善のできる実習を行う。(専門的知識、技能、主体性、実践力)						
授業概要	保育実習Ⅱを円滑で実り多いものにするための事前事後の指導を行う。指導実習のための指導案作成や実践後の反省や事例研究を通して、子ども理解や保育士の役割についての理解を深める。また、保育に対する課題を明確にする。(総合的な学習経験、専門的知識・技能)						
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (4)	
						DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.保育実習の目的と意義を理解し、保育について総合的に学び理解する。					◎	
	2.実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につける。						◎
	3.保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえて自己の保育を改善できる。						◎
	4.保育士の専門性と職業倫理について理解する。						◎
履修条件・注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが 1.10 以上である。 実習参加要件と単位認定規定をよく理解する。実習参加要件および実習の単位認定規定を満たすことが前提である。 授業の実施方法:①面接授業のみ						
	5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。						
授業計画	1. 保育実習Ⅱの目的・意義(目標 1) 2. 保育指導案①(作成)(目標 2) 3. 保育指導案②(個別指導)(目標 2) 4. 保育指導案③(代表者による模擬保育)(目標 2) 5. 実習の準備①(実習生紹介票作成・検便)(目標 1) 6. 実習の準備②(実習の留意点)(目標 1) 7. 実習事後指導①(自己評価と実習川柳の作成・共有)(目標 5) 8. 実習事後指導②(評価票による個別指導)(目標 5) 9. 実習エピソード①(エピソードの記述)(目標 3) 10. 特別講義①(児童福祉施設の保育士の役割について)(目標 4) 11. 子どもを取り巻く問題に関する理解(目標 4) 12. 実習エピソード②(個別指導)(目標 3) 13. 実習エピソード③(グループ発表)(目標 3) 14. 特別講義②(児童福祉施設における保護者支援について)(目標 4) 15. 実習の総括と今後の課題の設定(目標 5)						
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法:レポート(50%) 授業内提出物(30%) 授業への取り組み(20%) 評価の基準:○レポート ※知識・理解の定着度及び思考力を測定 ・保育に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・授業で得た知識をもとに実習における活動のあり方や保育士の専門性をより深く理解している。 ○授業内提出物 ※知識、思考力を測定 ・保育に関する正確な知識に基づき、適切な保育指導案を作成することができる。 ・実践を省察し、問題点を把握し、改善することができる。 ○授業への取り組み ※関心・意欲、態度を測定 ・保育および保育士に関する学習を積極的に進めることができる。						
フィードバックの方法	テストについては模範解答を示す。指導案・エピソードについては優れた内容のものについて他の学生に紹介する。						
時間外の学習について	予習:授業計画を把握し、実習の準備に真摯に取り組む。(各回 30 分程度) 復習:反省や考察、記録など事後学習をする。(各回 30 分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト:『実習の手引き』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 参考書:なし 参考資料:適宜資料を配布する。						
担当者からのメッセージ等実務経験について							

科目名	保育実習Ⅱ (2単位)		実習	保育学科	2年 後期	担当者	杉山 綾子
ナンバリングコード	JC-S274-010						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭		
教科目	選択必修科目(保育士)						
系 列	保育実習						
授業のテーマ	保育所での主体的な実習を通して、保育者としてのより高度な技術と実践力を身に付ける。(総合的な学習経験、専門的知識・技能)						
授業概要	保育実習Ⅰで学んだことを基礎として保育に参加し、子どもの個性や発達段階についてのより深い理解に努め、適切な援助とは何かを考え実践する。教材研究を十分に行ったうえで保育指導案を立案し、部分及び全日の保育を実践し、反省と考察を行う。						
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (4)	
						DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.保育所の役割や機能について具体的な実践を通してより深く理解する。						◎ ◎
	2.観察や子どもとの関わりを通して子どもについてより深く理解する。					◎	○ ◎
	3.既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学び、理解する。						◎ ◎
	4.保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。						◎ ◎
履修条件・注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが 1.10 以上である。						
	実習参加要件と単位認定規定をよく理解する。実習参加要件および実習の単位認定規定を満たすことが前提である。 授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習園についての概要を把握し、理解する。(目標 1) 2. 保育の流れを理解し、適切な援助・指導を行う。(目標 2) 3. 保育環境に関心を持ち、その意図を理解し環境整備に心がける。(目標 3) 4. 既習の教科で習得した知識・技術を実践し、子どもの状況に応じて援助を発展させる。(目標 3) 5. 十分な教材研究を行い、保育指導案を立案し、保育者の指導の下保育を行う。(目標 2,4) 6. 保育内容や実習内容を整理・記録し、自己の課題を明確にする。(目標 3,4,5) 						
アクティブ・ラーニング	実習						
成績評価基準	<p>評価の方法:実習先の評価(60%) 実習手帳の提出と内容(40%)</p> <p>評価の基準:○実習先の評価 ※ 知識・理解の定着度及び思考力・判断力、関心・意欲、態度、技能を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育に関する知識を持ち、実践に活用できる。 ・子どもや保護者に対して適切な援助ができる。 ・自己の実践を省察することができる。 <p>○実習手帳の内容 ※思考力、態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の1日の流れや活動のねらいを記録し、深く考察できる。 ・自己の実践について十分な省察を行い、改善できる。 						
フィードバックの方法	実習園及び実習施設からの評価票を個別にて指導する。また、手帳について各担当者が評価し、評価についての指導を行う。						
時間外の学習について	<p>予習:保育指導案の作成や教材研究等、事前準備に真摯に取り組む。(毎回 30 分程度)</p> <p>復習:反省や考察、記録など事後学習をする。(毎回 60 分程度)</p>						
教材にかかわる情報	<p>テキスト:なし</p> <p>参考書:『実習の手引き』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』</p> <p>参考資料:なし</p>						
担当者からのメッセージ等実務経験について	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。特に、保育指導案の作成に早めに取り組むことと、守秘義務を遵守することが求められる。						

科目名	保育実習指導Ⅲ (1単位)		演習	保育学科	2年前期 2年後期	担当者	難波 章人			
ナンバリングコード	JC-S275-010									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭					
教科目	選択必修科目(保育士)									
系列	保育実習									
授業のテーマ	施設での実習に備え、必要となる専門的知識と技術、倫理観を学び、現場での実践に活かす準備を行う。また、指導(レクリエーション)案を作成し、自己評価を行う。(総合的な学習経験、専門的知識・技能)									
授業概要	保育実習Ⅲを、円滑で実り多いものにするための事前事後の指導を行う。実習施設や利用者理解のための事前学習、実習後の反省や事例を通して学ぶことで施設および施設保育士の役割についての理解を深める。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (4)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学び、理解する。						◎			
	2.実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につける。								◎	
	3.保育の観察、記録および自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学び、理解する。									◎
	4.保育士の専門性と職業倫理について理解する。							◎		
履修条件・注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが 1.10 以上である。									
	実習参加要件と単位認定規定をよく理解する。実習参加要件および実習の単位認定規定を満たすことが前提である。 授業の実施方法:①面接授業のみ									
授業計画	1. 保育実習Ⅲの目的・意義(目標 1) 2. レクリエーション案①(作成)(目標 2) 3. レクリエーション案②(個別指導)(目標 2) 4. レクリエーション案③(代表者による模擬保育)(目標 2) 5. 実習の準備①(実習生紹介票作成・検便)(目標 1) 6. 実習の準備②(実習の留意点)(目標 1) 7. 実習事後指導①(自己評価と実習川柳の作成・共有)(目標 5) 8. 実習事後指導②(評価票による個別指導)(目標 5) 9. 実習エピソード①(エピソードの記述)(目標 3) 10. 特別講義①(児童福祉施設の保育士の役割について)(目標 4) 11. 子どもを取り巻く問題に関する理解(目標 4) 12. 実習エピソード②(個別指導)(目標 3) 13. 実習エピソード③(グループ発表)(目標 3) 14. 特別講義②(児童福祉施設における保護者支援について)(目標 4) 15. 実習の総括と今後の課題の設定(目標 5)									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法:レポート(50%) 授業内提出物(30%) 授業への取り組み(20%) 評価の基準:○レポート ※知識・理解の定着度及び思考力を測定 ・保育に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・授業で得た知識をもとに実習における活動のあり方や保育士の専門性をより深く理解している。 ○授業内提出物 ※知識、思考力を測定 ・保育に関する正確な知識に基づき、適切なレクリエーション案を作成することができる。 ・実践を省察し、問題点を把握し、改善することができる。 ○授業への取り組み ※関心・意欲、態度を測定 ・保育および保育士に関する学習を積極的に進められる。									
フィードバックの方法	テストについては模範解答を示す。レクリエーション案・エピソードについては優れた内容のものについて他の学生に紹介する。									
時間外の学習について	予習:授業計画を把握し、実習の準備に真摯に取り組む。(各回 30 分程度) 復習:反省や考察、記録など事後学習をする。(各回 30 分程度)									
教材にかかわる情報	テキスト:『実習の手引き』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』 参考書:なし 参考資料:適宜資料を配布する。									
担当者からのメッセージ等実務経験について										

科目名	保育実習Ⅲ (2単位)		実習	保育学科	2年 後期	担当者	難波 章人
ナンバリングコード	JC-S276-010						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭		
教科目	選択必修科目(保育士)						
系 列	保育実習						
授業のテーマ	施設での実習を通して、保育に関する専門的知識、高度な技術を、現場で実践に活かすことができる力を身に付ける。また同時に、職員として必要となる倫理観とコミュニケーション能力を身に付ける。(総合的な学習経験、専門的知識・技能)						
授業概要	保育実習Ⅰ(保育所以外の児童福祉施設)で学んだことを基礎として、さらに学びを深める。保育士や指導員の指導の下、生活を中心とした活動に参加し実践する中で、保育士の職務内容を理解し必要な力量を高める。						
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (4)	
						DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.児童福祉施設の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深め、必要な技術を習得する。						○ ◎
	2.利用児・者の観察やかかわりの視点を明確にすることで保育についてより深く理解する。						○ ◎
	3.既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、利用児・者支援について総合的に学び、理解する。						○ ◎
	4.保育の計画、実践、観察、記録および自己評価等について実際に取り組み、より深く理解する。						○ ◎
5.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。						○ ◎	
保育士としての自己の課題を明確化する。					○	○ ◎	
履修条件・注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが 1.10 以上である。 実習参加要件と単位認定規定をよく理解する。実習参加要件および実習の単位認定規定を満たすことが前提である。 授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	実習内容 1. 施設保育士や指導員の指導に従い、養護・療育全般に参加し技術を習得する。(目標 1,5) 2. 対象児・者の個性や発達段階、障がいについて理解し、適切な援助について学ぶ。(目標 1,2) 3. 環境構成に関心を持ち、その意図を理解し対象児・者に合わせた環境整備を心掛ける。(目標 1,2,3) 4. 行った養護・療育の反省をし、学習課題を見出す。(目標 4,6) 5. 学内で学習したものをレクリエーションなどで実践する。(目標 1,3,5)						
アクティブ・ラーニング	実習						
成績評価基準	評価の方法:実習先の評価 60%、実習手帳の内容 40% 評価の基準: ○実習先の評価 * 知識・理解の定着度および思考力・判断力、関心・意欲、態度、技能を測定 ・正確な知識を持ち、実践に活用することができる。 ・児童や利用者に対して適切な行動、判断ができ、自己の実践を省察することができる。 ・適切な保育・養護に関心を持ち、積極的に活動することができる。 ・真摯な態度で、児童や利用者とその思いに向き合うことができる。 ○実習手帳の内容 * 思考力、態度を測定 ・自己の実践について十分な省察を行って改善に繋げることができ、真摯な態度で記録に残すことができる。 ・児童や利用者の思いを理解して深く考察することができる。						
フィードバックの方法	実習先での反省会および学内での反省会を通して、実践内容について振り返りを行う。 実習手帳については、提出後記述内容をもとに教員が個別に面談を行う。						
時間外の学習について	予習: 実習指導で受けた内容と、事前オリエンテーションで教示された内容の理解を深める。各回 30 分程度。 復習: 自己の実践と指導者の指導を振り返り、日誌にて考察を深める。日誌以外にも実習で得た経験を余すことなく記録にとることが望ましい。各回 60 分程度。						
教材にかかわる情報	テキスト:特になし。 参考書:特になし。 参考資料:特になし。						
担当者からのメッセージ等実務経験について	保育実習Ⅲは、保育実習Ⅰ(施設)よりも高い専門性と理解、覚悟が求められる。十分に準備を行って取り組むこと。						

科目名	教育実習指導 (1単位)	講義	保育学科	2年 前後期	担当者	上村 有平 他 (複数)
ナンバリングコード	JC-S277-100					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士		幼稚園教諭	必修
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目(幼稚園)					
各科目に含めることが必要な事項	教育実習					
授業のテーマ	教育実習の目的・意義・内容を学習意欲をもって主体的に理解する(総合的な学習経験、専門的知識・技能)。					
授業概要	幼稚園実習を円滑に実り多いものにするための事前・事後指導を行い、教育実習の意義を理解する。事前指導では、幼稚園実習の意義・目的・内容、幼稚園の果たす役割、実習の心構え、実習日誌の書き方、実習テーマの設定、指導案の立て方・書き方を学ぶことを通して、実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高める。事後指導では、実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等の今後の課題について理解する。					
					科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (4)	
					DP 番号	(1) (2) (3) (4)
達成目標	1.事前指導においては、実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。					○ ◎
	2.事後指導においては、教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、子ども、幼稚園の役割、教諭の仕事などの理解を深め、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。					○ ◎
履修条件・注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが 1.10 以上である。 授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	<p>教育実習・前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義及び目的(目標 1) 2. 実習テーマの設定、必要書類の準備(実習生紹介票) (目標 1) 3. 実習園オリエンテーションにおける留意事項、教育実習園の概要(教育目標・地域の特徴・幼児の実態等)把握 (目標 1) 4. 実習手帳の書き方、保育指導案の立て方(目標 1) 5. 保育者としてのマナー、保育参観の視点と方法(目標 1) 6. 教育実習のための直前指導説明(留意事項と心構え)、教材研究の基本 (目標 1) 7. 実習体験の振り返りと今後の課題(1):自己評価 (目標 2) 8. 実習体験の振り返りと今後の課題(2):評価票を用いた個別指導(目標 2) <p>教育実習・後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 教育実習のための直前指導説明(留意事項と心構え) (目標 1) 10. 実習体験の振り返りと今後の課題(1):自己評価 (目標 2) 11. 学外講師特別講義:これからの保育者に望むこと (目標 2) 12. 実習のまとめ、実習体験の振り返りと今後の課題(2):評価票を用いた個別指導(目標 2) 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	<p>評価の方法:レポートなど課題提出 60% 授業への取り組み 40%</p> <p>評価の基準:○レポートなど課題提出 * 知識・理解の定着度および思考力・判断力、関心・意欲、態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育に関する正確な知識に基づき、適切な日誌・保育指導案を作成することができる。 ・授業で得た知識をもとに、実習における活動のあり方を考察することができる。 ・実践を省察し、問題点を把握し、改善することができる。 <p>○授業への取り組み * 関心・意欲、態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真摯な態度で幼児教育に関する学習を積極的に進めることができる。 ・グループディスカッションに積極的に参加し、自分の意見を表明することができる。 					
フィードバックの方法	提出物は優れたものを紹介する。					
時間外の学習について	<p>予習:授業計画を把握し、事前準備に真摯に取り組む。各回 40 分程度。</p> <p>復習:反省や考察、記録など事後学習をする。各回 50 分程度。</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト:なし</p> <p>参考書:『実習の手引き』平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 チャイルド本社</p> <p>参考資料:なし</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	教育実習 (4単位)		実習	保育学科	2年 前後期	担当者	上村 有平 他 (複数)			
ナンバリングコード	JC-S278-100									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭	必修			
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目(幼稚園)									
各科目に含めることが必要な事項	教育実習									
授業のテーマ	幼稚園での教育実習を通して、幼稚園教諭としての高度な技術と実践力を身に付ける(総合的な学習経験、専門的知識・技能)。									
授業概要	教育実習は、観察、参加、実習という方法で保育実践に関わることを通じて、保育者としての愛情と使命感を深め、将来保育者になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼稚園教育の実際を体験的、総合的に理解し、保育実践ならびに保育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 幼稚園教諭免許を取得するための必修科目である。事前指導を受けた後、幼稚園で20日間の現場実習を行う。20日間は、2年前期に10日間、2年後期に10日間の2段階に分けて実施する。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (4)				
						DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
達成目標	1. 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的役割を担うことを通じて、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 1) 幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 2) 指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実に基づいて記録することができる。 3) 教育実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 4) 学級担任等の補助的な役割を担うことができる。								○	◎
	2. 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。 1) 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 2) 保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 3) 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 4) 様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。								○	◎
履修条件・注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが 1.10 以上である。									
授業計画	2年前期: 観察・参加・部分実習中心 (目標 1,2) 1. 実習園の保育方針を理解し、教諭の計画・指示に従って保育等に参加する。 2. 子どもの安全や衛生面に配慮した環境構成を学ぶ。 3. 子どもの活動、保育者の援助について観察し、記録をとる。 4. 絵本・紙芝居やペープサート、手遊び、弾き歌い等を実践する。 5. 教諭の指導のもと、保育指導案を立案し、実践する。 2年後期: 参加・部分・全日実習中心 (目標 1,2) 1. 実習園の保育方針を理解したうえで、実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について把握し、それに従って保育等に参加する。 2. 幼児の安全や衛生面に配慮した環境構成を学ぶ。 3. 教諭の指導のもと、保育指導案を立案し、実践・省察する。 4. 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解する。									
アクティブ・ラーニング	実習									
成績評価基準	評価の方法: 実習先の評価 60% 実習手帳の提出と内容 40% 評価の基準: ○実習先の評価 * 知識・理解の定着度および思考力・判断力、関心・意欲、態度、技能を測定 ・幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的役割を担うことを通じて、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解している。 ・大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付けている。 ○実習手帳の提出と内容 * 知識・理解の定着度および思考力、態度を測定 ・自己の実践について十分な省察を行って改善に繋げることができ、真摯な態度で記録に残すことができる。 ・子どもの思いを理解して深く考察することができる。									
フィードバックの方法	・実習園の評価票にもとづいて指導する。 ・実習日誌は教員が評価し指導する。									
時間外の学習について	予習: 事前準備に真摯に取り組む。各回 30 分程度 復習: 反省や考察、記録など事後学習をする。各回 60 分程度									
教材にかかわる情報	テキスト: なし 参考書: 『実習の手引き』平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 チャイルド本社 参考資料: なし									
担当者からのメッセージ等実務経験について	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。特に、守秘義務の遵守には入念に気を配ること。 実習参加要件と単位認定規定をよく理解する。実習参加要件および実習の単位認定規程を満たすことが前提である。									

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園） （2単位）		演習	保育学科	2年 後期	担当 者	弘中 順一 上村 有平			
ナンバリングコード	JC-S283-110									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修				
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目（幼稚園）									
各科目に含めることが必要な事項	教職実践演習									
教科目	必修科目（保育士）									
系 列	総合演習									
授業のテーマ	保育者として必要な使命感・責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、子ども理解・クラス経営等、保育内容等の指導力、子育て家庭に対する支援を展開する力について身につけているかどうかを確認し改善する。（総合的な学習経験、汎用的能力、専門的知識・技能、態度・志向性）									
授業概要	保育者として必要な資質や能力が身につけているかどうかを確認するとともに、不足している知識・技能等の課題発見とその解決への取り組みの成果を確認する。これにより、実践に裏付けられた確かな理論や技能等を身につけ、保育者としての生活を円滑にスタートできるようにする。									
達成目標						科目 DP(ディプロマ・ポリシー): (4)				
						DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.使命感や責任感、教育的愛情を身につけている。						○	○		◎
	2.社会性や対人関係能力を身につけている。						○			◎
	3.子ども理解やクラス経営を行う力を身につけている。								○	◎
履修条件・注意事項	4.保育内容等の指導力や、子育て家庭に対する支援を展開する力を身につけている。							○	◎	
	1. 履修にあたっては、履修カルテの必要事項を全て記入した上で提出すること。									
	2. 実践発表は 15～20 名程度のグループに分割する。									
	3. 履修する年度末に、幼稚園教諭免許状または保育士資格の取得に必要な単位の全てを修得できない場合は、単位を認定しない。 授業の実施方法:①面接授業のみ									
授業計画	1. 履修履歴の把握と学習のふり返し、後期に実践する各自の課題を設定(目標 1,2,3,4)									
	2. 指導案の立案(目標 2,3,4)									
	3. 小学校教育との連携(目標 2,3,4)									
	4. 実践発表のためのオリエンテーション(目標 2,3,4)									
	5. 実践発表に向けた原稿作成:保育の省察(目標 2,3,4)									
	6. 実践発表に向けた原稿作成:プレゼン準備(目標 2,3,4)									
	7. 実践発表1:教材・活動の選定の仕方、ねらいの立て方(目標 2,3,4)									
	8. 実践発表2:導入・まとめの工夫(目標 2,3,4)									
	9. 実践発表3:環境構成、言葉かけの工夫(目標 2,3,4)									
	10. 実践発表4:子どもの反応とねらいの達成の確認(目標 2,3,4)									
	11. 実践発表5:保育における PDCA(目標 2,3,4)									
	12. 実践発表6:子育て家庭に対する支援(目標 2,3,4)									
	13. 実践発表のふり返し(目標 1,2,3,4)									
	14. 実践発表の総括(グループ討議)(目標 1,2,3,4)									
	15. 全体の総括と保育に携わる者としての資質・能力の確認(目標 1,2,3,4)									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション									
成績評価基準	評価の方法:指導案・レポート 40%、実践発表 40%、授業への取り組み 20%									
	評価の基準:○指導案・レポート * 知識・理解の定着度および思考力を測定									
	・正確な知識を持ち、適切な指導案を作成することができる。 ・実践の省察に基づき、各自の課題を考察することができる。									
フィードバックの方法	○実践発表 * 思考力・意欲を測定									
	・各自の実践を省察し、問題点を把握することができる。 ・各自の実践に対する指摘を受けとめ、改善に繋げることができる。									
	○授業への取り組み * 関心・意欲を測定									
時間外の学習について	・真摯な態度で保育に関する学習を積極的に行うことができる。 ・グループワークに積極的に参加し、自分の意見を表明することができる。									
	履修カルテを活用し、各自の課題について、教員より確認と個別指導を行う。実践発表については、一人ひとりの発表に対し、教員よりコメントし、改善に役立てる。									
教材にかかわる情報	予習: 履修履歴・学習の振り返りをもとに、2年次後期の学習課題を各自で定め、授業時間外において学習に努める。実践発表の際には、事前に配布された資料を熟読する。各回 60 分程度。									
	復習: 授業内の学習とともに、授業時間外の学習について整理し、各自の課題の学習状況を確認する。各回 30 分程度。									
担当者からのメッセージ等実務経験について	テキスト:『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』文部科学省 チャイルド本社									
	参考書:特になし 参考資料:適宜配布									
担当者からのメッセージ等実務経験について	履修する年度末に、幼稚園教諭免許状または保育士資格の取得に必要な単位の全てを修得できない場合は、単位を認定しない。 幼稚園長、小学校長経験と保育現場での実務経験をもとに保育及び実習について話をします。									